朝倉工業団地遺跡群

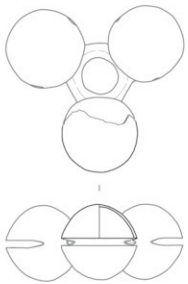
朝倉工業団地土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2012.2

前橋市教育委員会

朝倉工業団地遺跡群

朝倉工業団地土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



三環鈴
（H－9号住居跡出土）

２０１２.２

前橋市教育委員会

１～３区遠景（南西から）

１区全景

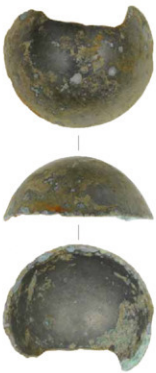
２区全景

巻頭写真２

３区 全景

水田土壌の形成が顕著な例（1区）

水田土壌の形成が低調な例（1区）



H－9号住居跡出土 三環鈴破片（S＝2/3）

序

前橋市は関東平野の北西部に位置し、名山赤城山を背に利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。市域は豊かな自然環境に恵まれ、２万年前から人々が生活を始めました。そのため市内のいたる所から、人々の息吹を感ずることのできる遺跡や史跡、多くの歴史遺産が存在します。

古代において、広大に分布する穀倉地帯を控えた前橋台地には、八幡山古墳や前橋天神山古墳をはじめ、総社二子山古墳、天川二子山古墳といった大型古墳が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、続く律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられる厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であり、横浜港から前橋シルクの名前で遠く海外に輸出され、日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する朝倉工業団地遺跡群は市の南東部に位置し、朝倉工業団地土地区画整理事業に伴う発掘調査です。調査の結果、平安時代の天仁元年（1108年）の浅間噴火に伴う軽石に覆われた水田跡や６世紀初頭の榛名山噴火に伴う火砕流によって埋もれた水田跡が多数発見されました。この中で平安時代の水田跡は、高崎市日高遺跡に代表される日高条里との関連が考えられ、前橋・高崎台地に広く展開する貴重な条里制遺構です。

残念ながら、現状のままでの保存が無理なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、この調査事業を円滑に進められたのは、調査発注者の前橋工業団地造成組合、調査受注者の有限会社毛野考古学研究所および各方面のご配慮の結果といえます。また、炎天下の中、直接調査に携わってくださった担当者・作業員のみなさんに厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成24年２月

前橋市教育委員会

教育長　佐藤博之

例　言

1．本書は、朝倉工業団地土地区画整理事業に伴う朝倉工業団地遺跡群の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2．調査は、前橋市教育委員会（教育長佐藤博之）が主体となって実施し、調査業務は委託を受けた有限会社毛野考古学研究所が行った。調査担当者は、同研究所員の和久拓照・竹中洋治である。
3．発掘・整理調査期間は、平成23年5月31日～平成24年2月15日である。
4．本調査における調査区の地番、および遺跡のコード・面積は下記のとおりである。
地番：〔1区〕前橋市下佐鳥町20、20-1、33-1、33-2、34-1、46-1、193-1、207-2、510-2、515、516、582、584、587　〔2区〕前橋市下佐鳥町198、201、213-1、512-2、513-3　〔3区〕前橋市亀里町1085-1、1096-1、1087-1
遺跡コード：23674　面積：1区3,100㎡、2区2,215㎡、3区1,050㎡、合計6,365㎡
5．本遺跡の遺構測量は、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）・竹中が担当した。
6．本書の編集実務は、有限会社毛野考古学研究所が行い、同研究所員の和久・竹中が担当した。
7．本文の執筆については、Ⅰを福田貴之、その他を和久が担当した。
8．調査に関わる資料は、一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。
9．発掘調査・整理作業に携わった方々は下記のとおりである。（五十音順・敬称略）
［発掘調査］青柳美保　井口ヒロ子　碓井俊夫　狩野友紘　北野進二　小関泰洋　斉藤清一　佐藤開雄
志村久子　鈴木浩　高橋道敏　竹生正明　勅使川原幸枝　永井述史　西山勝久　萩原秀子
橋元裕児　古郡孝一　松本嘉久治　森山恵子　森山孝男　矢島巌
［整理調査］井上太　大塚規子　合田幸子　鈴木広樹　土井道昭　永井祐二　半澤利江　深谷道子
真下弘美　松坂悟　山下奈邦子
10．発掘調査の実施から報告書刊行に至る過程で、下記の機関・諸氏の御指導・御協力を賜った。記して感謝を申し上げる次第である。（順不同・敬称略）
JT空撮　山下工業株式会社　坂口一　田口一郎　右島和夫　毛利光俊彦　矢島浩

凡　例

1．挿図における座標値には、世界測地系（国家座標第Ⅸ系）を使用した。方位記号は座標北を示す。
2．等高線や遺構断面図における水準値は、海抜標高を示す（単位：m）。
3．本書掲載の遺構図ならびに遺物実測図の縮尺表示として、各挿図中にスケールを付した。
4．グリッドは、原点（X=39,500・Y=-66,900）より西から東へX0、X1…、北から南へY0、Y1…と付した。
5．本調査における遺構断面図および出土遺物観察表に示した色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局）を使用した。
6．本書では、テフラの呼称として次の記号を用いている。
As-B：1108（天仁元）年に噴出した浅間Bテフラ。
Hr-FA・FP：Hr-FAは6世紀初頭に噴出した榛名－二ツ岳渋川テフラ、Hr-FPは6世紀中葉に噴出した榛名－二ツ岳伊香保テフラ。今回の調査では、泥流・洪水の結果として、両者が混在する二次堆積層が確認された。しかし、層準を細分してFAとFPのいずれに対応するかを把握することができなかったため、本書では「FA・FP」と両者を一括して扱うことにする。
As-C：3世紀末～4世紀初頭に噴出した浅間C軽石。
7．本書掲載の第1図に国土交通省国土地理院発行1/200,000「長野」・「宇都宮」、第2図に同院発行1/25,000「前橋」・「高崎」、第3図には「前橋市都市計画図」1/2,500を加工・一部改編して使用した。
8．表紙には、『昭和61年航空写真集前橋市全域』の空中写真を使用した。
9．参考写真には、1948年4月米軍撮影、国土交通省国土地理院所蔵の空中写真を使用した。
10．水田区画の計測に際して、南北軸は区画の西辺、東西軸は区画の北辺を対象とした。

目　次

序
例言
凡例
目次
挿図目次
表目次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 1
　1　地理的環境 …… 1
　2　歴史的環境 …… 2
Ⅲ　調査の方法と経過 …… 4
Ⅳ　遺跡の概要 …… 5
　1　遺構・遺物の概要 …… 5
　2　基本層序 …… 5
Ⅴ　1区の遺構・遺物 …… 6
　1　水田跡 …… 6
　2　溝 …… 6
　3　竪穴状遺構 …… 8
Ⅵ　2区の遺構・遺物 …… 14
　1　水田跡 …… 14
　2　溝 …… 14
　3　竪穴状遺構 …… 16
　4　道路状遺構 …… 16
　5　遺構外出土遺物 …… 16
Ⅶ　3区の遺構・遺物 …… 25
　1　住居跡 …… 25
　2　土坑・ピット …… 27
　3　井戸跡 …… 27
　4　溝 …… 27
　5　水田跡 …… 29
　6　遺構外出土遺物 …… 29
Ⅷ　まとめ …… 56

写真図版
抄　録

挿図目次

第1図　遺跡の位置 …… 1
第2図　周辺の遺跡 …… 3
第3図　調査区の位置 …… 4
第4図　基本層序 …… 5
第5図　1区全体図 …… 9
第6図　1区 As-B 層下水田跡、溝 (1) …… 10
第7図　1区溝 (2) …… 11
第8図　1区溝 (3)、竪穴状遺構 …… 12
第9図　2区全体図 …… 17
第10図　2区 As-B 層下水田跡 …… 18
第11図　2区溝 (1) …… 19
第12図　2区溝 (2)、竪穴状遺構 …… 20
第13図　2区溝 (3) …… 21
第14図　2区古墳時代水田跡分布図 …… 22
第15図　2区古墳時代水田跡 …… 23
第16図　2区出土遺物 …… 24
第17図　3区全体図 …… 30
第18図　3区住居跡 (1) …… 31
第19図　3区住居跡 (2) …… 32
第20図　3区住居跡 (3) …… 33
第21図　3区住居跡 (4) …… 34
第22図　3区住居跡 (5) …… 35
第23図　3区住居跡 (6) …… 36
第24図　3区住居跡 (7) …… 37
第25図　3区住居跡 (8)、土坑 (1) …… 38
第26図　3区土坑 (2) …… 39
第27図　3区井戸、ピット (1) …… 40
第28図　3区ピット (2) …… 41
第29図　3区溝 (1) …… 42
第30図　3区溝 (2) …… 43
第31図　3区溝 (3) …… 44
第32図　3区溝 (4) …… 45
第33図　3区出土遺物 (1) …… 46
第34図　3区出土遺物 (2) …… 47
第35図　3区出土遺物 (3) …… 48
第36図　3区出土遺物 (4) …… 49
第37図　3区出土遺物 (5) …… 50
第38図　3区出土遺物 (6) …… 51
第39図　水田土壌形成の差異 (1区) …… 57

表目次

第１表　周辺の遺跡一覧表 …… 2
第２表　１区 As-B 層下水田跡区画計測表 …… 13
第３表　２区 As-B 層下水田跡区画計測表 …… 16
第４表　W-28 号溝出土遺物観察表 …… 24
第５表　A－１号道路状遺構出土遺物観察表 …… 24
第６表　２区遺構外出土遺物観察表 …… 24
第７表　３区 As-C 層上水田跡区画計測表 …… 29
第８表　３区土坑・ピット計測表 …… 29
第９表　H－１号住居跡出土遺物観察表 …… 52
第10表　H－２号住居跡出土遺物観察表 …… 52
第11表　H－３号住居跡出土遺物観察表 …… 52
第12表　H－４号住居跡出土遺物観察表 …… 52
第13表　H－６号住居跡出土遺物観察表 …… 52
第14表　H－７号住居跡出土遺物観察表 …… 53
第15表　H－８号住居跡出土遺物観察表 …… 53
第16表　H－９号住居跡出土遺物観察表 …… 53
第17表　H－11 号住居跡出土遺物観察表 …… 53
第18表　D－18 号土坑出土遺物観察表 …… 53
第19表　D－19 号土坑出土遺物観察表 …… 53
第20表　Ｉ－１号井戸跡出土遺物観察表 …… 54
第21表　W-33 号溝出土遺物観察表 …… 54
第22表　W-34 号溝出土遺物観察表 …… 54
第23表　W-36 号溝出土遺物観察表 …… 54
第24表　３区遺構外出土遺物観察表 …… 55

写真図版目次

巻頭写真１
１～３区遠景（南西から）
１区全景
２区全景
巻頭写真２
３区全景
水田土壌の形成が顕著な例（１区）
水田土壌の形成が低調な例（１区）
H－９号住居跡出土 三環鈴破片（S＝２/３）
ＰＬ．１
〔１区〕
調査区全景
調査区西部
調査区東部
ＰＬ．２
東部～中央部（北東から）
中央部（南西から）
畦畔検出状況（1）（西から）
畦畔検出状況（2）（北から）
畦畔検出状況（3）（東から）
畦畔断面（1）（西から）
畦畔断面（2）（北から）
畦畔断面（3）（南から）
ＰＬ．３
水田面（1）（東から）
水田面（2）（東から）
水田面（3）（東から）
Hr-FA・FP 泥流層下水田跡 検出状況（北東から）
W－１号溝周辺（南西から）
W－１号溝 セクション（西から）
W－２号溝（北から）
W－２号溝 セクション（南から）
ＰＬ．４
W－３号溝 セクション（東から）
W－３号溝 工具痕検出状況（1）（東から）
W－３号溝 工具痕検出状況（2）（北西から）
W－３号溝 工具断面（南から）
W－４号溝 セクション（北から）
W－５号溝 セクション（南から）
W－６号溝 セクション（西から）
W－８号溝 セクション（西から）
ＰＬ．５
W－９号溝 セクション（南から）
W-10 号溝 セクション（南から）
W-11 号溝 セクション（北から）
W-12 号溝 セクション（北から）
W-13 号溝（南から）
W-13 号溝 セクション（南から）
W-14 号溝 セクション（北から）
W-15 号溝 セクション（南から）
ＰＬ．６
W-16 ～ 19 号溝（南東から）
Ｔ－１号竪穴状遺構（南から）
表土掘削状況（南から）
作業状況（南西から）
〔２区〕
調査区全景
調査区東部
ＰＬ．７
調査区西部
畦畔断面（1）（北西から）
畦畔断面（2）（北から）
畦畔断面（3）（北から）
水田面（1）（東から）
水田面（2）（東から）
水田面（3）（東から）
ＰＬ．８
中央部 水田の足跡（1）（西から）
中央部 水田の足跡（2）（西から）
中央部 水田の株痕（北から）
中央部 水田の株痕拡大（北から）
西部 Hr-FA・FP 泥流層下水田跡 検出状況（1）（西から）
西部 Hr-FA・FP 泥流層下水田跡 検出状況（2）（西から）
西部 Hr-FA・FP 泥流層下水田跡 検出状況（3）（北西から）

西部 Hr-FA・FP 泥流層下水
田跡 水田面拡大（南東から）
ＰＬ．9
西部 As-C 混土層上水田跡検出状況（北西から）
西部 As-C 混土層上水田跡 畦畔断面（1）（北から）
西部 As-C 混土層上水田跡 畦畔断面（2）（北から）
西部 As-C 混土層上水田跡 畦畔断面（3）（北から）
西部 As-C 混土層上水田跡 畦畔断面（4）（北から）
西部 As-C 混土層上水田跡 畦畔断面（5）（北から）
中央部 壁面セクション（北から）
Ｗ-21 号溝（南から）
ＰＬ．10
Ｗ-20 号溝（南から）
Ｗ-20 号溝 セクション（南から）
Ｗ-22 号溝（南から）
Ｗ-23 号溝（南から）
Ｗ-23 号溝 セクション（北から）
Ｗ-25 号溝 セクション（北から）
Ｗ-26・27 号溝 セクション（北から）
Ｗ-28 号溝（北東から）
ＰＬ．11
Ｗ-28 号溝 西側セクション（東から）
Ｗ-28 号溝 東側セクション（東から）
Ｗ-29 号溝 セクション（東から）
Ｗ-40 ～ 45 号溝 検出状況（北西から）
Ｗ-40・41 号溝 セクション（南から）
Ｗ-42 ～ 45 号溝 セクション（北西から）
Ｗ-42 号溝 セクション（北から）
Ｗ-45 号溝 セクション（北東から）
ＰＬ．12
Ｗ-45 号溝 サブトレンチ（北から）
Ｗ-45 号溝 サブトレンチ拡大（北から）
Ｔ－２号竪穴状遺構（南東から）
Ａ－１号道路状遺構（南西から）
〔３区〕
調査区全景
ＰＬ．13
調査区中央部
調査区中央部 住居跡群（北西から）
ＰＬ．14
Ｈ－１号住居跡（西から）
Ｈ－２号住居跡（西から）
Ｈ－２号住居跡 カマド（西から）
Ｈ－２号住居跡 遺物出土状況（1）（南西から）
Ｈ－２号住居跡 遺物出土状況（2）（南西から）
Ｈ－３号住居跡（西から）
Ｈ－３号住居跡 カマド（西から）
Ｈ－３号住居跡 炭化物出土状況（南から）
ＰＬ．15
Ｈ－４号住居跡（西から）
Ｈ－４号住居跡 カマド（西から）
Ｈ－５号住居跡（西から）
Ｈ－６号住居跡（西から）
Ｈ－６号住居跡 掘り込み（北西から）
Ｈ－６号住居跡 遺物出土状況（南西から）
Ｈ－７号住居跡（西から）
Ｈ－７号住居跡 カマド（西から）
ＰＬ．16
Ｈ－８号住居跡（西から）
Ｈ－８号住居跡 カマド（西から）
Ｈ－８号住居跡 遺物出土状況（1）（西から）
Ｈ－８号住居跡 遺物出土状況（2）（西から）
Ｈ－９号住居跡周辺（南から）
Ｈ－９号住居跡 カマド（西から）
Ｈ－９号住居跡 遺物出土状況（1）（北西から）
Ｈ－９号住居跡 遺物出土状況（2）（南西から）
ＰＬ．17
Ｈ-11 号住居跡・Ｄ-17 号土坑（南西から）
Ｈ-12・13 号住居跡（南から）
Ｉ－１号井戸跡（北東から）
Ｄ-18 号土坑（南から）
Ｄ-18 号土坑 遺物出土状況（1）（南から）
Ｄ-18 号土坑 遺物出土状況（2）（北から）
Ｄ-19 号土坑（南から）
Ｗ-35 号溝 セクション（東から）
ＰＬ．18
Ｗ-33 号溝 Ａトレセクション（北東から）
Ｗ-33 号溝 Ｂトレセクション（北西から）
Ｗ-33 号溝 Ｃトレセクション（北から）
Ｗ-33 号溝 遺物出土状況（1）（南東から）
Ｗ-33 号溝 Ｄトレセクション（北から）
Ｗ-33 号溝 遺物出土状況（2）（北から）
Ｗ-34 号溝 セクション（西から）
Ｗ-34 号溝 遺物出土状況（南西から）
ＰＬ．19
Ｗ-36 号溝 Ａトレセクション（西から）
Ｗ-36 号溝 Ｂトレセクション（東から）
Ｗ-36 号溝 Ｃトレセクション（東から）
Ｗ-36 号溝 Ｄトレセクション（東から）
Ｗ-39 号溝（北東から）
As-C 層上水田跡 検出状況（1）（西から）
As-C 層上水田跡 検出状況（2）（西から）
As-C 層上水田跡 検出状況（3）（南西から）
ＰＬ．20
出土遺物（1）
ＰＬ．21
出土遺物（2）
ＰＬ．22
出土遺物（3）

Ⅰ 調査に至る経緯

平成 22 年 11 月 29 日付けで前橋工業団地造成組合より朝倉工業団地土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財確認調査依頼書が前橋市教育委員会に提出され、平成 23 年 1 月 11 日～平成 23 年 2 月 17 日の期間に試掘調査を実施した。試掘調査に際しては 20 ｍピッチでトレンチを設定し、調査が円滑にできるよう配慮した。その結果、古墳時代後期の水田跡や平安時代の水田跡、古代の溝、住居跡などが確認された。試掘調査の結果を受け、埋蔵文化財の保護について協議を重ねたが、工業団地土地区画整理事業の設計変更は不可能であるため、現状保存の措置が執れない箇所について発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで合意を得た。平成 23 年 5 月 6 日付けで前橋工業団地造成組合より埋蔵文化財発掘調査業務依頼書が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会では既に直営による発掘調査を実施しており、直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託するよう協議を行なった。民間調査組織の導入等については、依頼者である前橋工業団地造成組合の合意も得られ、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになり、平成 23 年 5 月 24 日付けで前橋工業団地造成組合 管理者 高木政夫と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所 代表取締役 長井正欣との間で発掘調査業務契約を締結し、同年 5 月 31 日から発掘調査を開始した。

Ⅱ 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

本遺跡群は、前橋市南東部に展開する前橋台地上の後背湿地および微高地に立地する（標高約 84 ～ 85m）。前橋台地は、利根川が赤城山・榛名山間から関東平野に流出する部分に広がる緩傾斜の扇状地性台地である。浅間山噴火に伴う山体崩壊（約 2 万年前）を原因とする「前橋泥流」が、利根川に沿って運ばれることで形成された。同台地上には、河川・旧河川が北西－南東方向に流れ、各所に自然堤防や後背湿地が形成されている。本遺跡群西部において端気川が南流するほか、1 ～ 2 ㎞を隔てた北西から南東側にかけて、利根川が位置している。利根川は、前橋台地の北東側に位置する広瀬川低地帯から、天文年間（16 世紀）に洪水ないし人為的な改変により変流したものと想定されている。一方、端気川は利根川の支流に相当するが、かつては前橋台地北部の湿地帯に源をもつ自然流路であった。この水源は、古墳時代から水田開発に利用されてきたことが明らかになっている。

第 1 図 遺跡の位置

2 歴史的環境

本調査と関連する古墳時代から中世の事例を中心に、周辺遺跡の調査成果を概観する。

古墳時代になると、遺跡数が飛躍的に増大する。集落は微高地上に占地するものの、時期ごとの変遷が著しい。前期の集落は後期に水田化してしまうような比較的標高の低い土地に展開することがあり、横手早稲田遺跡（36）・横手湯田遺跡（43）では、周溝状の排水施設を伴う住居跡が構築されている。

後背湿地では、火山灰や洪水堆積物を鍵層として、さまざまな時期の水田跡が調査されている。周辺では、4世紀初頭のAs-C層下水田、4世紀初頭以降のAs-C混入土層水田、As-C混入土層上水田、6世紀初頭のHr-FA層下水田、6世紀中葉のHr-FP層下水田、Hr-FP泥流層下水田などが報告されている。また、水田の開発に伴って水路や堰が整備されるようになり、多くの溝跡が調査されている。徳丸仲田遺跡（57）では、前期に開削された大溝が検出されており、2kmほどにわたって連続することが予測されている。

これらの集落やその生産活動を牽引したであろう有力者層の墳墓として、広瀬川西岸の自然堤防上や井野川・鳥川流域に多くの古墳が集中する。これらは前期から後期まで継続して構築され、前期の前橋八幡山古墳（D）、前橋天神山古墳（E）、後期の金冠塚古墳は、その規模や出土遺物などが卓越することで著名である。なお、前期には微高地上の集落域に接して方形周溝墓が構築され、公田東遺跡（22）などで見受けられる。

奈良・平安時代には、律令制の導入とともに前橋市元総社町付近で国府や国分寺が造営される一方、前橋台地の一般的な集落は、前代に続き微高地上に占地する。後背湿地では、平安時代末期（1108年以前）のAs-B層下水田が大半の遺跡で検出されており、水田域の躍進的な拡充がうかがわれる。西田遺跡（49）では、微高地に営まれていた集落上に水田開発が及ぶ。これらの水田は、一町四方の方格区画を採る「条里型地割」に沿うものが多い。

中近世には、微高地上に排水施設などの機能を有する環濠遺跡群が多数占地する。周辺では、室町時代の城郭跡である力丸城（ｂ）と室町・戦国時代の宿阿内城（ａ）が著名で、力丸城は那波郡を支配する那波氏一族の居城、宿阿内城は那波氏の属城と想定されている。また、多くの遺跡で当該期の館跡、掘立柱建物跡、井戸跡、墓などが調査された。方形の敷地内に密集する西田遺跡の土坑墓群は特記されよう。

生産遺構として、利根川変流に伴う洪水などに起因する中世のAs-B混入土層水田、1783年の降灰を原因とする近世のAs-A層下水田が報告されている。これらの水田は、前時期の条里型地割を踏襲することが多い。水田のほかに、洪水で埋没した畠や復旧構（灰掻き干し）なども散見される。

第1表 周辺の遺跡一覧表

遺構の種別＼遺跡表示番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
古墳時代の水田跡	As-C混土層				○		○							○		平安～中世の用水路跡							○					○					
	As-C混土層上	○																															
	Hr-FA層下	○					○															○	○					○		○		○	○
	Hr-FA洪水層下																																
	Hr-FP層下																															○	
	Hr-FP泥流層下																																
古墳時代の竪穴住居跡		後	前後		前		前							前			前	後		後		前	後		後	後		前後					
奈良・平安時代の水田跡		○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○	
奈良・平安時代の竪穴住居跡		○	○	○	○		○	○									○			○			○				○	○					
中・近世の水田跡	As-B混土層																						○					○		○			
	As-A層下																						○										
	復旧溝など																																
中・近世その他の遺構	館跡など	○			○																		○				○	○					
	火葬土坑	○																				○											
	土坑墓																													○			

遺構の種別＼遺跡表示番号		33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64
古墳時代の水田跡	As-C混土層							○									○	○							○	○							
	As-C混土層上						○																										○
	Hr-FA層下				○	○	○	○				○						○								○		○		○	○		
	Hr-FA洪水層下												○																				
	Hr-FP層下				○		○	○				○																					
	Hr-FP泥流層下		○			○		○																									
古墳時代の竪穴住居跡					前中							前中														前							
奈良・平安時代の水田跡		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
奈良・平安時代の竪穴住居跡							○											○	○	○	○	○		○	○	○							
中・近世の水田跡	As-B混土層	○		○	○			○				○				○																	
	As-A層下						○																										
	復旧溝など	○			○	○	○	○				○												○				○					○
中・近世その他の遺構	館跡など					○	○	○	○			○				○	○	○				○		○	○	○		○					
	火葬土坑					○																											
	土坑墓					○	○										○	○						○	○								○

1 朝倉工業団地遺跡群
2 六供東京安寺
3 六供下堂木Ⅴ
4 六供中京安寺
5 中大門
6 六供下堂木Ⅱ
7 六供下堂木Ⅲ
8 六供下堂木
9 六供下堂木Ⅳ
10 六供遺跡群
11 南京安寺
12 東京安寺
13 櫛島川端Ⅱ
14 長山
15 鎮守廻り
16 後閑団地
17 坊山
18 後閑
19 後閑Ⅱ
20 上佐島中原前・同Ⅱ
21 櫛島川端（事業団）
22 公田東（事業団）
23 公田東（調査会）
24 下佐島
25 川曲
26 西善鍛冶屋
27 公田池尻
28 東田
29 亀里平塚
30 宮地中田
31 西横手遺跡群Ⅰ
32 西横手遺跡群Ⅱ
33 横手宮田
34 井戸南
35 横手宮田Ⅱ
36 横手早稲田
37 横手南川端
38 西横手遺跡群
39 宿横手三波川
40 亀里銭面・同Ⅱ
41 亀里油面Ⅱ
42 鶴光路練引
43 横手湯田・同Ⅱ～Ⅵ
44 南部奥点地区遺跡群No.4
45 村中Ⅱ
46 西田Ⅴ
47 西田Ⅲ
48 村中
49 西田
50 西田Ⅱ
51 西田Ⅵ
52 鶴光路榎橋Ⅱ
53 徳丸高堰Ⅲ・同Ⅳ
54 西田・西田Ⅳ
55 鶴光路榎橋
56 徳丸高堰・同Ⅱ
57 徳丸仲田・同Ⅱ～Ⅳ
58 南部奥点地区遺跡群No.3
59 下阿内壱町畑
60 南部奥点地区遺跡群No.6
61 南部奥点地区遺跡群No.1
62 南部奥点地区遺跡群No.5
63 南部奥点地区遺跡群No.2
64 下阿内前田
A 朝倉２号墳
B 朝倉１号墳
C 朝倉３号墳
D 八幡山古墳
E 天神山古墳
F 亀塚山古墳
G 下川渕３号墳
H 浅間神社古墳
a 宿阿内城
b 力丸城

第２図 周辺の遺跡

Ⅲ 調査の方法と経過

発掘調査は、平成23年5月31日から同年8月19日にかけて実施した。調査区は、事業完了後の道路部分に相当する狭長な範囲で、1～3区に分かれる。数字どおり1区、2区、3区の順で、調査は進行した。各調査区の調査終了にあたっては、トレンチや井戸など、掘削深があり、崩落など事故を誘発する危険がある箇所のみを対象とし、確認面付近のレベルまで人力にて埋め戻した。

各区調査に際しては、調査範囲、廃土置き場などを設定し、安全対策を講じた。調査範囲周辺の旧農道は、自動車や自転車の抜け道、あるいは散歩道として長年利用されてきた経緯があり、関係者以外が誤って立ち入らないように、バリケードと案内標識は多めに設置し、監理には十分の意を用いた。

前橋市教育委員会が実施した試掘調査の結果により、1・2区の中央部以東でAs-B層下水田、3区では古墳時代以降の集落が調査・記録の主対象となることが予測された。前者の調査にあたっては、As-B一次堆積層上面を目安として、それより上（中近世以降）の耕作土などを重機で取り除き、ジョレンにて軽石を除去後、移植ゴテで精査を行った。また、As-B降灰以後に開鑿された溝状遺構多数がAs-B層下水田と同じ確認面にて検出され、水田の調査に先行する時点でこれらの調査・記録を進めた。一方後者の調査では、As-B一次堆積層が残存しないため、Hr-FA・FP相当層とAs-C混土層にはさまれた間層をおおむね確認面とし、遺構確認の難易に応じて、機械による掘削深度の微調整を図った。

また、1・2区の西部においては、旧地形がややせり上がり、As-B層下水田が検出されなくなるのに加え、Hr-FA・FP泥流層とみられる堆積が認められており、その直下の水田面が残存する可能性を考慮する必要があった。このため、1・2区では、As-B層下水田の調査後、西部においてHr-FA・FP泥流層下位を確認面と設定したうえで人力掘削を行い、古墳時代の水田面の検出を試みることにした。なお、2区では、調査の途上で当該期の水田が2面に細分されると見なされたため、下面の分布範囲把握する目的で1m幅のトレンチ調査を実施した。

第3図 調査区の位置

Ⅳ 遺跡の概要

1 遺構・遺物の概要

今回の調査では、中・近世以降、平安時代末以降、奈良・平安時代、および古墳時代の遺構・遺物が検出された。

1・2区においては、水田跡および溝状遺構の検出が成果の主体をなしている。道路予定地の細長いエリアを対象とする調査であるため、面積、配列など水田区画の詳細を把握することは難しかったが、平安時代および古墳時代の水田面が計3面確認され、当地が連綿と続く穀倉地帯の一部であることが明らかになった。また、多数検出された溝状遺構は、端気川をはじめとする往時の周辺水利施設のあり方を考えるうえで一定の示唆を与えるものと思われる。

一方、微高地の3区では、合計12軒の竪穴住居跡群が検出された。古墳時代後期の1軒を含むほかは、7世紀後半と10世紀代（1軒を除くほとんどが後半）、以上2期の住居跡群に大別され、居住域として利用されることのない空白期を中間にはさむことが確認されている。このほか、中世ないしそれ以降に属する遺構も見つかっており、主なものとしては、区画溝の一種とみられるW－36号溝、Ⅰ－1号井戸、火葬土坑のD－18号土坑が挙げられる。

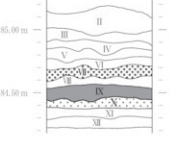
なお、個別の成果の特記事項については、Ⅴのまとめにて略述する。

2 基本層序

微高地の3区を除き、本遺跡群の大半は低地の縁辺に属し、水田土壌の形成に好適な条件を備えている。先述のとおり、調査の結果、平安時代、古墳時代の水田面が都合3面検出されたが、基本層序を検めてみると、このほか中・近世で少なくとも1面、古墳時代前期以前にもう1面、計5面以上が展開している可能性が指摘できる。

下に示したのは、1区東端、W－1号溝南隣の堆積状況の模式図である。遺構の時期を検討するにあたっては、覆土に混入する基本層序中の土を材料のひとつにしている。As-B混土の有無で平安時代末以降／それより前、さらにAs-B混土のうちⅣ～Ⅵ層のいずれに近似するかで中世以降かどうかを推測し、As-Bを含まずⅨ層の土を含有していれば古墳時代後期～平安時代の間に想定する、といった要領である。

2区西部および3区においては、流失、削平、攪拌など、後世における作用の影響が顕著であり、模式図とは異なり、要約しがたい堆積状況を呈する。とくにⅥ～Ⅷ相当層の攪拌が著しく、また、箇所ごとに独自の風合いをもつ混土が分布する。このため、遺構確認作業の段階では、掘り下げを止める確認面の見極めに苦慮を強いられた。



O：現代の盛土層。舗装道路直下のほか、開発予定地内のごく一部で認められる。

Ⅰ：現表土。As-A（径0.3～0.5cm）が混入。As-B（径0.1～0.2cm）も微量混入。As-Bは、下位の層ほど混入量が増す。しまり、粘性とも やや弱い。ただし、舗装道路の直下では、転圧の影響でしまり・粘性ともきわめて強い。

Ⅱ：旧表土。As-Aが混入。As-Bも少量混入。しまり、粘性とも やや弱。ただし、舗装道路の直下では、転圧の影響でしまり・粘性とも強い。

Ⅲ：洪水層。水田土壌。As-AおよびAs-Bが混入。しまり・粘性とも普通。

Ⅳ：As-B混土。鉄分の沈着が顕著。しまり、粘性とも普通。

Ⅴ：As-B混土。多量のAs-Bが混入。鉄分の沈着が一部で認められる。しまり、粘性とも普通。

Ⅵ：As-B混土。As-Bおよび黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土が少量混入。典型的なB混。しまり、粘性とも普通。

Ⅶ：As-B一次堆積層（1108年降下）。しまり、粘性ともきわめて弱い。

Ⅷ：水田土壌。代掻きの際の攪拌により、下位層由来のHr-FA・FPブロックが少量混入。しまり普通、粘性は強い。

Ⅸ：Hr-FA・FP洪水層。多量のブロックを含む。下端の一部において、洪水時の一次堆積が認められる。しまり普通、粘性は強い。

Ⅹ：As-C混土。しまり普通、粘性は強い。

Ⅺ：粘性土。鉄分の沈着が一部で認められる。しまり普通、粘性は強い。

Ⅻ：粘性土。鉄分の沈着が顕著。しまり普通、粘性は強い。

第4図　基本層序

Ⅴ　1区の遺構・遺物

1　水田跡

As-B 層下水田（遺構：第5・6図、第2表、PL．2・3）

位置：1区東部～中央部付近にて一部が検出された。 **重複**：W－1～19号溝に切られている。 **残存状況**：総じて良好で、直上に厚さ5～7cm の As-B 一次堆積層が確認されている。なお、調査区中央部は旧地形において微高地となり、水田面が存在しない範囲となる。 **地形**：北から南、および西から東へ緩傾斜する。また、上述の微高地を中心として、局地的には逆方向の傾斜が認められる。 **区画**：24区画が確認された。おおむね全容を把握できるのは5区画である。面積は、最小 51.30 ㎡（区画 17）、最大 92.70 ㎡（区画 18）を測る。 **畦畔**：小畦畔のみである。幅は南北畦畔 0.18 ～ 0.71 m、東西畦畔が 0.25 ～ 0.60 mを測る。畦畔の高まりは、調査区東部において比較的よく残っている。 **水口**：区画8、18 の南西隅、区画 21 の南東隅に畦畔の切れ目が認められ、これらが水口であった可能性がある。 **水田面の状態**：なだらかで浅い凹凸が見られる。 **遺物**：出土しなかった。

2　溝跡

W－1号溝（遺構：第5・6図、PL．3）

位置：1区東部にて一部が検出された。 **重複**：As-B 層下水田跡と重複し、これを切っている。 **形態**：北東－南西方向に直行し、底面は南西側が低い。断面形は、おおむね逆台形状を呈する。また、調査区東端において、土橋状に断絶する箇所がある。 **計測値**：主軸方位N－77°－E、検出長 46.50 m、残存幅 0.96 ～ 1.39 m、確認面からの深さ 0.32 ～ 0.47 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する暗褐色土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W－2号溝（遺構：第5・7図、PL．3）

位置：1区中央部付近にて一部が検出された。 **重複**：As-B 層下水田跡と重複し、これを切っている。 **形態**：南北方向に直行し、底面は南側が低い。断面形は、U字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－0°－E、検出長 15.65 m、検出幅 0.46 ～ 0.72 m、確認面からの深さ 0.21 ～ 0.34 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する暗褐色土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W－3号溝（遺構：第5・7図、PL．4）

位置：1区中央部で検出された。 **重複**：As-B 層下水田跡、およびW－4号溝と重複し、これを切っている。 **形態**：東西方向に直行し、底面は西側が低い。断面形は、おおむね浅い皿状を呈する。底面には1～2列の工具痕が認められ、1回以上掘り直されたものと考えられる。また、ほぼ 90° 方向を違えるW－15 号溝と、西端部において T字路状に合流している。 **計測値**：主軸方位N－90°－E、残存長 73.76 m、残存幅 1.37 ～ 4.00 m、確認面からの深さ 0.18 ～ 0.33 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する暗褐色土が堆積している。 **遺物**：後世の混入とおぼしき土師器の細片が出土している。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W－4号溝（遺構：第5・7図、PL．4）

位置：1区中央部にて一部が検出された。 **重複**：As-B 層下水田跡を切り、W－3号溝に切られる。 **形態**：南北方向に直行し、底面は西側が低い。断面形は、おおむね浅い皿状を呈する。底面には部分的ながら1～2列の工具痕が認められ、1回以上掘り直されたものと考えられる。 **計測値**：主軸方位N－2°－W、検出長 15.62 m、検出幅 2.35 ～ 3.11 m、確認面からの深さ 0.22 ～ 0.29 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する暗褐色土が堆積している。 **遺物**：後世の混入とおぼしき土師器・須恵器・土釜の細片が出土している。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W－5号溝（遺構：第5・7図、PL．4）

位置：1区中央部にて一部が検出された。 **重複**：As-B層下水田跡およびW－3号溝と重複し、これらを切っている。 **形態**：南北方向に直行し、底面は南側が低い。断面形は、浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－4°－W、検出長15.73 m、検出幅 0.44 ～ 0.56 m、確認面からの深さ 0.21 ～ 0.27 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する暗褐色土が堆積している。 **遺物**：後世の混入とおぼしき土師器・須恵器の細片が出土している。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W－6号溝（遺構：第5・7図、PL．4）

位置：1区西部にて一部が検出された。 **重複**：W－10 号溝と重複し、これを切っている。 **形態**：東西方向に直行し、底面は東側が低い。断面形は、皿状を呈する。また、西端において、W－12 号溝とT字路状に合流する。 **計測値**：主軸方位N－86°－E、残存長 30.62 m、残存幅 0.62 ～ 0.86 m、確認面からの深さ 0.14 ～ 0.17 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅣ・Ⅴ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

W－7号溝（遺構：第5・7図）

位置：1区中央部にて一部が検出された。 **重複**：As-B 層下水田跡と重複し、これを切っている。 **形態**：南北方向に直行し、底面は南側が低い。断面形は、浅いU字状を呈する。また、北端において、W－3号溝とT字路状に分岐する。 **計測値**：主軸方位N－6°－W、検出長 6.24 m、検出幅 0.88 ～ 1.01 m、確認面からの深さ 0.25 ～ 0.27 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する暗褐色土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W－8号溝（遺構：第5・7図、PL．4）

位置：1区西部で一部が検出された。 **重複**：W－10 号溝と重複し、これを切っている。 **形態**：南北・東西方向のT字路状に走行し、底面は南側および東側が低い。断面形は、浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－84°－E、検出長 18.06 m、検出幅 1.17 ～ 1.41 m、確認面からの深さ 0.22 ～ 0.25 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅤ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W－9号溝（遺構：第5・7図、PL．5）

位置：1区西部で一部が検出された。 **重複**：W－8号溝と重複し、これを切っている。 **形態**：南北方向に直行し、南端部でW－8号溝と合一する。断面形は、浅いU字状を呈する。また、底面の形状や覆土断面において、少なくとも1回、掘り直された形跡が認められる。 **計測値**：主軸方位N－4°－W、検出長 3.66 m、検出幅 1.33 ～ 1.63 m、確認面からの深さ 0.11 ～ 0.14 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅤ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W－10 号溝（遺構：第5・8図、PL．5）

位置：1区西部で一部が検出された。 **重複**：W－6・8号溝に切られている。 **形態**：おおむね南北方向に直行し、底面は南側が低い。断面形は、浅いU字状を呈する。また、底面の形状や覆土断面において、少なくとも1回、掘り直された形跡が認められる。 **計測値**：主軸方位N－24°－W、検出長 4.34 m、残存幅 0.60 ～ 1.53 m、確認面からの深さ 0.08 ～ 0.13 m。 **埋没状態**：灰黄褐色粘質土を含み、As-Bをほとんど含まない土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代、As-Bの降下以前に機能を停止した溝と推測される。

W－11 号溝（遺構：第5・8図、PL．5）

位置：1区西部で一部が検出された。 **形態**：おおむね南北方向に直行し、断面形は浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－23°－E、検出長 4.81 m、検出幅 0.45 ～ 0.60 m、確認面からの深さ 0.13 ～ 0.22 m。 **埋没状態**：As-B

をほとんど含まない土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代、As-Bの降下以前に機能を停止した溝と推測される。

W－12 号溝（遺構：第5・8図、PL．5）
位置：1区西部で一部が検出された。 **重複**：W－6号溝に切られている。 **形態**：おおむね南北方向に直行し、検出範囲中央部において、W－6号溝とT字路状に合流する。 **計測値**：主軸方位N－36°－W、検出長 8.27 m、検出幅 0.29 ～ 0.51 m、確認面からの深さ 0.04 ～ 0.18 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅣ・Ⅴ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代、As-Bの降下以前に機能を停止した溝と推測される。

W－13 号溝（遺構：第5・8図、PL．5）
位置：1区東部で一部が検出された。 **重複**：W－1号溝を切っている。 **形態**：おおむね南北方向に直行し、底面は南側が低い。断面形は、浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－8°－W、検出長 15.75 m、検出幅 0.75 ～ 2.28 m、確認面からの深さ 0.04 ～ 0.11 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：後世の混入とおぼしき土師器の細片が出土している。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

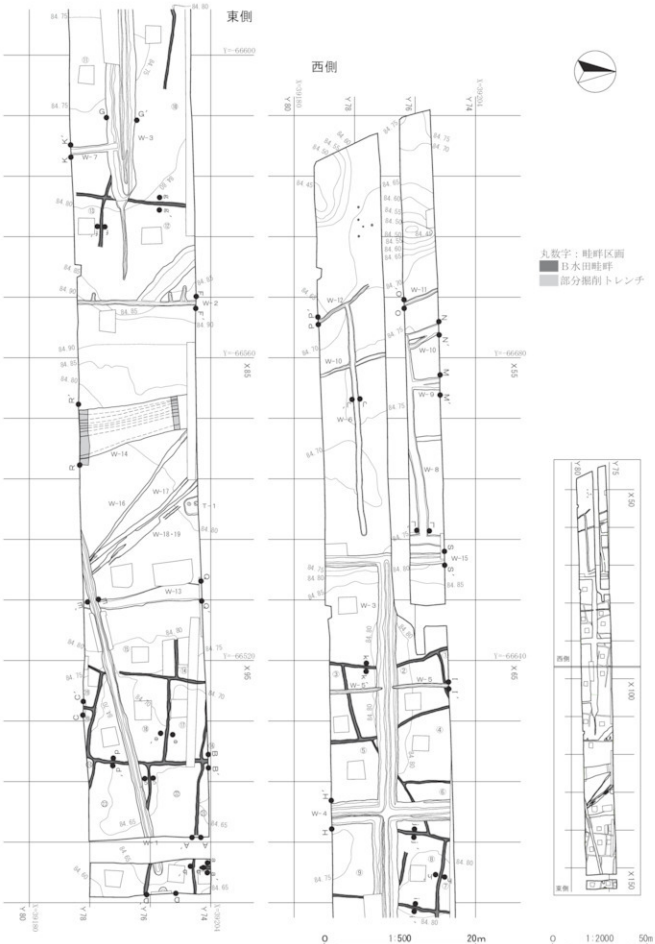
W－14 号溝（遺構：第5・8図、PL．5）
位置：1区東部で一部が検出され、サブトレンチの範囲のみを調査した。 **形態**：おおむね南北方向に直行し、底面は南側が低い。断面形は、浅いU字状を呈する。また、底面の形状や覆土断面において、少なくとも1回、掘り直された形跡が認められる。 **計測値**：主軸方位N－13°－W、検出長 14.56 m、検出幅 4.43 ～ 6.28 m、確認面からの深さ 0.60 ～ 0.69 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅣ・Ⅴ層に由来する土が堆積しているが、覆土上位は近世以降のものとみられる。 **遺物**：軟質陶器・火打ち金の細片が出土している。 **時期**：埋没状態より、中世以降につくられた溝で、長い期間をかけて完全に埋没したものと推測される。

W－15 号溝（遺構：第5・8図、PL．5）
位置：1区西部で一部が検出された。 **形態**：おおむね南北方向に直行し、検出範囲中央部でW－3号溝と合一する。断面形は、浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－2°－W、検出長 4.57 m、検出幅 1.37 ～ 1.57 m、確認面からの深さ 0.13 ～ 0.22 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅤ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W－16 ～ 19 号溝（遺構：第5図、PL．6）
位置：1区東部で一部が検出され、サブトレンチの範囲のみを調査した。 **重複**：いずれもW－1号溝を切っている。本溝群どうしも重複しあっているが、W－16 号とした西寄りの溝が最も新しく、他の新旧は判然としない。 **形態**：北西－南東方向に直行し、他の溝とは走向が明らかに異なる。底面は、南東側が低い。断面形は、浅いU字状を呈する。 **計測値**：検出長 12.25 ～ 21.50 m、残存幅 0.35 ～ 0.90 m、確認面からの深さ 0.05 ～ 0.12 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅢ・Ⅳ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、いずれも中世以降と推測される。

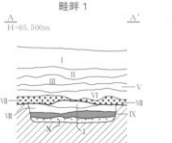
3 竪穴状遺構

T－1号竪穴状遺構（遺構：第8図、PL．6）
位置：1区東部で検出された。北部の約半分が調査区外に位置する。 **形態**：平面隅丸方形、断面は浅い皿状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－8°－W、短軸 2.46 m、確認面からの深さ 0.12 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。



第５図　１区全体図

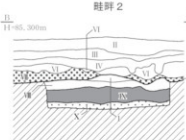
畦畔 1



1区東部　畦畔１土層説明

1　黒褐色土　　灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性は強い。

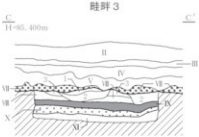
畦畔 2



1区東部　畦畔２土層説明

1　黒褐色土　　灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性は強い。

畦畔 3



1区東部　畦畔３土層説明

1　黒褐色土　　灰黄褐色粘質土が微量混入。しまりやや強く、粘性は強い。
2　黒褐色土　　灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
3　黒褐色土　　灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。

畦畔 4

畦畔 5

畦畔 6

畦畔 7

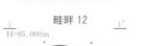
畦畔 8

畦畔 9

畦畔 10

畦畔 11

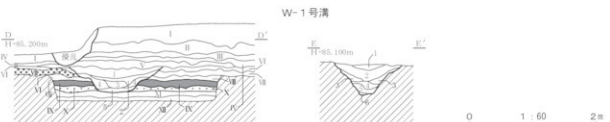
畦畔 12



畦畔 13

畦畔 14

W-１号溝



1区　W-１号溝A（東端）土層説明

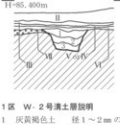
1　暗褐色土　　基本層序のVI層に由来する土が主体。黒褐色粘質土中量、径1～2mmのAs-B中量、灰黄褐色粘質土少量、および砂粒微量が混入。しまり、粘性ともやや強い。原状の１層を細分。
2　暗褐色土　　基本層序のVI層に由来する土が主体。黒褐色粘質土中量、径1～2mmのAs-B中量、灰黄褐色粘質土微量、および砂粒微量が混入。しまり、粘性ともやや強い。原状の１層を細分。
3　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bが主体。砂粒少量、黒褐色粘質土少量、および灰黄褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性ともやや弱い。原状の２層。
4　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bが主体。砂粒少量、黒褐色粘質土少量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。原状の３層を細分。
5　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bが主体。砂粒少量、黒褐色粘質土少量、および灰黄褐色粘質土中量が混入。しまり、粘性ともやや強い。原状の３層を細分。

1区　W-１号溝B（西部）土層説明

1　にぶい黄褐色土　　砂粒中量、基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土中量、黒褐色粘質土中量、および径1～2mmのAs-B少量が混入。鉄分の沈着が若干認められる。しまり普通、粘性やや弱い。
2　灰黄褐色土　　砂粒少量、基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土少量、および径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
3　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bが主体。基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや弱い。
4　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B中量、基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや強い。
5　にぶい黄褐色土　　基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土が主体。径1～2mmのAs-Bが中量混入。しまり、粘性ともやや強い。原状の３層を細分。
6　暗灰色土　　砂粒および径1～2mmのAs-Bが主体。しまり、粘性ともやや弱い。

第６図　１区 As-B 層下水田跡、溝 (1)

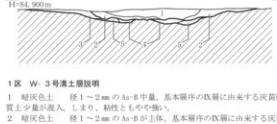
W－2号溝



1区　W－2号溝土層説明

1　灰黄褐色土　　径1～2mmのAs-B中量、砂粒少量、基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土少量、および黒褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強。
2　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B中量、砂粒少量、および基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性ともやや強。
3　にぶい黄褐色土　　基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土中量、砂粒中量、および径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性ともやや強。

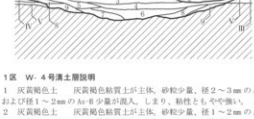
W－3号溝



1区　W－3号溝土層説明

1　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B中量、基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
2　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B少量、基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
3　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B中量、基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土中量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
4　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B少量、基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土中量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
5　暗灰色土　　基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土が主体。径1～2mmのAs-B中量が混入。しまり、粘性ともやや強い。

W－4号溝



1区　W－4号溝土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が主体。砂粒少量、径2～3mmのAs-A少量、および径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が主体。砂粒少量、径1～2mmのAs-B少量、および径2～3mmのAs-A微量が混入。しまり、粘性ともやや強。
3　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が主体。砂粒少量、径2～3mmのAs-A微量、および径1～2mmのAs-B微量が混入。しまり、粘性ともやや強。
4　暗灰色土　　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、および灰黄褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性ともやや強。
5　暗灰色土　　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
6　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が主体。砂粒少量、径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
7　暗灰色土　　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
8　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B多量、砂粒中量、および灰黄褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性ともやや強。
9　暗灰色土　　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強。

W－5号溝

1区　W－5号溝土層説明

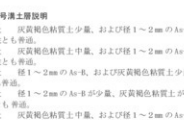
1　暗灰色土　　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
2　暗灰色土　　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、および灰黄褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
3　暗灰色土　　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、灰黄褐色粘質土微量、および黒褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
4　灰黄褐色土　　径1～2mmのAs-B中量、灰黄褐色粘質土中量砂粒中量、砂粒少量、および黒褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強。
5　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土中量、黒褐色粘質土中量、砂粒少量、および径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性ともやや強。

W－6号溝

1区　W－6号溝土層説明

1　暗灰色土　　砂粒少量、径1～2mmのAs-B少量、径2～3mmのAs-A微量、および灰黄褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性ともやや強。
2　暗灰色土　　砂粒少量、径1～2mmのAs-B少量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
3　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土中量、砂粒少量、および径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性ともやや強。

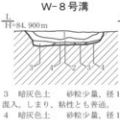
W－9号溝



1区　W－9号溝土層説明

1　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土少量、および径1～2mmのAs-B微量が混入。しまり、粘性ともやや強。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土中量、および径1～2mmのAs-B微量が混入。しまり、粘性ともやや強。
3　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強。
4　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bが少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強。
5　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土中量、および径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性ともやや強。
6　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
7　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
8　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土、径1～2mmのAs-B、および黒褐色粘質土がそれぞれ少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
9　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。

W－7号溝



1区　W－7号溝土層説明

1　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B少量、基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
2　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B中量、基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
3　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B、基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土中量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
4　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B が主体。基本層序のIX層に由来する灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。

W－8号溝

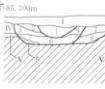
1区　W－8号溝土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が主体。砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、および黒褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強。
2　暗灰色土　　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強。
3　暗灰色土　　砂粒少量、径1～2mmのAs-B少量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強。
4　暗灰色土　　砂粒少量、径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土少量、および黒褐色粘質土中量が混入。しまり普通、粘性やや強い。

0　1：60　2m

第７図　１区溝（2）

W-10 号溝



1区 W-10号溝土層説明

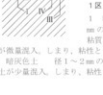
1 暗灰色土　黒褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
2 暗灰色土　黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。
3 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
4 暗灰色土　黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり弱造、粘性やや強い。
5 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bが中量、黒褐色粘質土および灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
6 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
7 暗灰色土　黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
8 暗灰色土　径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土がそれぞれ少量混入。しまり、粘性とも弱造。

W-11 号溝

1区 W-11号溝土層説明

1 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
2 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
3 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまりやや強く、粘性は弱造。
4 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bが少量、黒褐色粘質土および灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。

W-12 号溝



1区 W-12号溝土層説明

1 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
2 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも弱造。

W-13 号溝

1区 W-13号溝土層説明

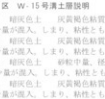
1 灰黄褐色土　灰黄褐色粘質土が上体、径1～2mmのAs-B中量、砂粒少量、および黒褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性とも弱造。
2 灰黄褐色土　灰黄褐色粘質土が上体で、その含有率が1層より高い、径1～2mmのAs-B中量、砂粒少量、および黒褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性とも弱造。
3 灰黄褐色土　灰黄褐色粘質土が上体、径1～2mmのAs-B中量、黒褐色粘質土中量、および砂粒少量が混入。しまり、粘性とも弱造。
4 灰黄褐色土　灰黄褐色粘質土が上体、砂粒少量、径1～2mmのAs-B少量、および黒褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性ともやや強い。

W-14 号溝

1区 W-14号溝土層説明

1 暗灰色土　径2～3mmのAs-Aが少量、黒褐色粘質土および灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
2 暗灰色土　径2～3mmのAs-Aおよび黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
3 暗灰色土　径2～3mmのAs-Aが中量、黒褐色粘質土および灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
4 暗灰色土　径2～3mmのAs-Aが中量、径1～2mmのAs-B、黒褐色粘質土、および灰黄褐色粘質土がそれぞれ微量混入。しまり、粘性とも弱造。
5 暗灰色土　径2～3mmのAs-A、および径1～2mmのAs-Bが少量、黒褐色粘質土および灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
6 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、径2～3mmのAs-A、径1～2mmのAs-B、および黒褐色粘質土がそれぞれ微量混入。しまり、粘性とも弱造。
7 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-B、および黒褐色粘質土がそれぞれ微量混入。しまりやや強く、粘性は弱造。
8 暗灰色土　径1～2mmのAs-B、黒褐色粘質土および灰黄褐色粘質土がそれぞれ微量混入。しまり、粘性とも弱造。
9 暗灰色土　径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土、および砂粒がそれぞれ少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
10 暗灰色土　径2～3mmのAs-Aおよび灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
11 暗灰色土　径2～3mmのAs-Aが少量、黒褐色粘質土および灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱造。
12 暗灰色土　径2～3mmのAs-Aおよび灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。

W-15 号溝

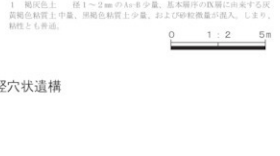


1区 W-15号溝土層説明

1 暗灰色土　灰黄褐色粘質土中量、砂粒少量、および径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性とも弱造。
2 暗灰色土　灰黄褐色粘質土少量、砂粒少量、および径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性とも弱造。
3 暗灰色土　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性とも弱造。
4 暗灰色土　灰黄褐色粘質土中量、砂粒少量、および径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
5 暗灰色土　砂粒中量、径1～2mmのAs-B少量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
6 暗灰色土　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、および灰黄褐色粘質土中量が混入。しまり、粘性とも弱造。
7 暗灰色土　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性とも弱造。
8 暗灰色土　黒褐色粘質土中量、砂粒少量、径1～2mmのAs-B少量、および灰黄褐色粘質土微量が混入。しまり弱造、粘性やや強い。

0　1：60　2m

T-1 号竪穴状遺構



1区 T-1号竪穴状遺構土層説明

1 暗灰色土　径1～2mmのAs-B少量、基本層序の Ⅳ層に由来する灰黄褐色粘質土中量、黒褐色粘質土少量、および砂粒微量が混入。しまり、粘性とも弱造。

0　1：2　5m

第８図　１区溝（3）、竪穴状遺構

第２表　１区 As-B 層下水田跡区画計測表

区画 No	面積 (㎡)	南北軸 (m)	東西軸 (m)	田面中央 標高 (m)	田面比高 (cm)	南北畦畔高 (cm)	南北畦畔 上場幅 (cm)	南北畦畔 下場幅 (cm)	東西畦畔高 (cm)	東西畦畔 上場幅 (cm)	東西畦畔 下場幅 (cm)	備　考
1	—	—	—	—	—	—	25 ～ 33	51 ～ 55	—	—	—	
2	85.0	12.70	6.04	—	—	—	38 ～ 42	18 ～ 71	—	14 ～ 21	35 ～ 44	
3	—	—	10.06	—	—	—	19 ～ 31	39 ～ 50	—	20 ～ 34	42 ～ 56	
4	—	11.02	—	—	—	—	16 ～ 25	35 ～ 43	—	—	—	
5	—	—	14.51	—	—	—	19 ～ 36	46 ～ 58	—	9 ～ 22	25 ～ 39	
6	—	—	—	—	—	—	11 ～ 23	27 ～ 39	—	—	—	
7	—	—	—	—	—	—	16 ～ 20	45 ～ 47	—	—	—	
8	—	6.56	9.52	—	—	—	17 ～ 35	41 ～ 57	—	23 ～ 35	42 ～ 56	
9	—	—	4.08	—	—	—	—	—	—	16 ～ 32	33 ～ 50	
10	—	—	—	—	—	—	20 ～ 24	39 ～ 45	—	—	—	
11	—	—	—	—	—	—	16 ～ 28	30 ～ 62	—	16 ～ 41	32 ～ 50	
12	—	—	—	—	—	—	20 ～ 30	41 ～ 58	—	—	—	
13	—	—	—	—	—	—	19 ～ 28	40 ～ 54	—	14 ～ 30	32 ～ 60	
14	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
15	—	—	—	—	—	—	—	—	—	21 ～ 30	36 ～ 47	
16	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
17	51.3	4.81	6.03	—	—	—	15 ～ 31	31 ～ 54	—	14 ～ 25	30 ～ 44	
18	92.7	8.91	11.12	—	—	—	14 ～ 23	32 ～ 42	—	11 ～ 35	29 ～ 57	
19	—	—	5.01	—	—	—	10 ～ 17	31 ～ 39	—	19 ～ 33	38 ～ 57	
20	—	—	6.09	—	—	—	23 ～ 26	42 ～ 50	—	23 ～ 32	42 ～ 52	
21	—	—	—	—	—	—	– ～ 38	– ～ 62	—	—	—	
22	—	7.19	—	—	—	—	27 ～ 40	49 ～ 62	—	16 ～ 31	33 ～ 54	
23	—	7.18	—	—	—	—	17 ～ 34	37 ～ 54	—	11 ～ 27	33 ～ 45	
24	—	—	—	—	—	—	20 ～ 28	39 ～ 48	—	—	—	

VI　2区の遺構・遺物

1　水田跡

As-B 層下水田（遺構：第9・10図、第3表、PL．7・8）

重複：W-20・21・22、24号溝に切られている。　**残存状況**：総じて良好で、直上に厚さ5～7cmのAs-B一次堆積層が確認されている。　**地形**：北から南、および西から東へ緩傾斜する。　**区画**：26区画が確認された。おおむね全容を把握できるのは区画18（67.60㎡）のみである。　**畦畔**：小畦畔のみである。幅は南北畦畔0.34～0.83m、東西畦畔が0.17～0.66mを測る。畦畔の高まりは、調査区東部においてよく残っている。　**水口**：区画25北西隅、区画21北東隅、および区画16南東隅にて確認されている。　**水田面の状態**：なだらかで浅い凹凸が見られる。　**遺物**：出土しなかった。

Hr-FA・FP 泥流層下水田（遺構：第14図、PL．8）

重複：W-28号溝に切られている。　**残存状況**：畦畔の痕跡が平面的に確認されるにとどまり、起伏の程度は認識できない。　**地形**：北から南、および西から東へ緩傾斜する。　**区画**：24区画が確認された。おおむね全容を把握できるのは7区画である。面積は、最小3.6㎡（区画8）、最大14.58㎡（区画16）を測る。　**畦畔**：小畦畔のみである。幅は南北畦畔31～41cm、東西畦畔が28～39cmを測る。　**水口**：確認されなかった。　**水田面の状態**：痕跡のみの確認のため、詳細は不明である。　**遺物**：出土しなかった。

As-C 混土層上水田（遺構：第14・15図、PL．9）

重複：W-28号溝に切られている。　**残存状況**：畦畔の基部付近にて痕跡が確認されており、本来の水田面の起伏などを直接把握することはできない。　**地形**：西から東へ緩傾斜する。北から南にも緩傾斜していると考えられるが、東西に細長いトレンチ内での検出のため、推測の域を出ない。　**区画**：部分的にではあるが、21区画が確認された。　**畦畔**：検出範囲においては、小畦畔のみである。なお、一部の脇には、畦畔に用いる土を得るための浅い溝が掘り込まれていた。　**水口**：確認されなかった。　**水田面の状態**：痕跡のみの確認のため、詳細は不明である。　**遺物**：出土しなかった。

2　溝

W-20 号溝（遺構：第9・11図、PL．10）

位置：2区東端で一部が検出された。　**形態**：北西－南東方向に直行する。断面形は、浅いU字状を呈する。　**計測値**：主軸方位N-22°-W、検出長1.87m、検出幅0.36～0.44m、確認面からの深さ0.12～0.13m。　**埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する暗褐色土が堆積している。　**遺物**：出土しなかった。　**時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W-21 号溝（遺構：第9・11図、PL．9）

位置：2区東部で一部が検出された。　**形態**：南北方向に直行する。断面形は、浅いU字状を呈する。　**計測値**：主軸方位N-9°-E、検出長1.27m、検出幅0.18～0.29m、確認面からの深さ0.01～0.04m。　**埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する暗褐色土が堆積している。　**遺物**：出土しなかった。　**時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W-22 号溝（遺構：第9・11図、PL．10）

位置：2区中央部で一部が検出された。　**形態**：北西－南東方向に直行し、底面は南東側が低い。断面形は、おおむね浅い皿状を呈する。また、底面には複数列の工具痕が明瞭に認められ、少なくとも1回、掘り直されたものと考えられる。　**計測値**：主軸方位N-16°-W、検出長11.25m、検出幅0.86～1.34m、確認面からの深さ0.08～0.11m。　**埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する暗褐色土が堆積している。なお、他の溝と異なり、本遺構では底面付近の覆土において砂の堆積がまったく認められなかった。したがって本遺構は、区画専用など、水利とは別の機能を帯びた溝と考えることができる。　**遺物**：出土しなかった。　**時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W－23 号溝（遺構：第9・11 図、PL .10）

位置：2区中央部で一部が検出された。 **形態**：北西－南東方向に直行し、底面は南東側が低い。断面形は、浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－24°－W、検出長11.81 m、検出幅 1.89 ～ 2.30 m、確認面からの深さ0.03 ～ 0.07 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅤ・Ⅵ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

W－24 号溝（遺構：第9・11 図）

位置：2区中央部にて一部が検出され、サブトレンチの範囲のみを調査した。 **形態**：北西－南東方向に直行し、底面は南東側が低い。断面形は、おおむね浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N －25°－W、検出長 11.87 m、検出幅 1.86 ～ 2.82 m、確認面からの深さ 0.12 ～ 0.32 m。 **埋没状態**：主として基本層序の Ⅱ・Ⅲ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、近世以降と推測される。

W－25 号溝（遺構：第9・11 図、PL .10）

位置：2区西部にて一部が検出され、サブトレンチの範囲のみを調査した。 **形態**：北西－南東方向に直行し、底面は南東側が低い。断面形は、おおむね浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－10°－W、検出長 11.01 m、検出幅 0.31 ～ 0.53 m、確認面からの深さ 0.11 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅥ層に由来する暗褐色土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、平安時代末期以降と推測される。

W－26 号溝（遺構：第9・11 図、PL .10）

位置：2区西部にて一部が検出され、サブトレンチの範囲のみを調査した。 **形態**：北西－南東方向に直行し、底面は南東側が低い。断面形は、おおむね浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－16°－W、検出長 11.19 m、検出幅 0.98 ～ 1.52 m、確認面からの深さ 0.20 ～ 0.35 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅣ・Ⅴ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

W－27 号溝（遺構：第9・11 図、PL .10）

位置：2区西部にて一部が検出され、サブトレンチの範囲のみを調査した。 **形態**：北西－南東方向に直行し、底面は南東側が低い。断面形は、おおむね浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－15°－W、検出長 5.54 m、検出幅 1.72 ～ 1.95 m、確認面からの深さ 0.21 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅣ・Ⅴ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：後世の混入とおぼしき土師器坏・甕の細片が出土している。 **時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

W－28 号溝（遺構：第9・11・12 図、PL .10・11、遺物：第 16 図、第4表、PL .21）

位置：2区西部で一部が検出された。 **形態**：北東－南西方向に直行し、底面は南西側が低い。断面形は、おおむね逆台形を呈する。 **計測値**：主軸方位N－67°－E、検出長 31.34 m、検出幅 1.84 ～ 3.15 m、確認面からの深さ 0.25 ～ 0.63 m。 **埋没状態**：他の溝の多くとは異なり、覆土下位中に基本層序のⅥ・Ⅶ層に由来する土が含まれない一方、Ⅷ層由来の灰黄褐色土が比較的多く混入している。 **遺物**：土師器の坏・甕の破片に加え、後世の混入とおぼしき近世陶器の擂鉢の細片が出土している。 **時期**：埋没状態と出土遺物から、奈良時代、7世紀後半に機能を停止した溝と推測される。なお、機能停止後の埋没過程は長期にわたっており、近世以降においては道路として用いられた可能性がある。

W－29 号溝（遺構：第9・12 図、PL .11）

位置：2区西部にて一部が検出され、サブトレンチの範囲のみを調査した。 **形態**：北東－南西方向に直行し、底面は南西側が低い。断面形はおおむねU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－79°－E、検出長 23.57 m、検出幅 0.97 ～ 1.69 m、確認面からの深さ 0.38 m。 **埋没状態**：基本層序のⅣ・Ⅴ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、中世以降と推測される。

W－30 号溝

A－1号道路状遺構の調査着手当初の名称。道路状遺構と認識を改めたので、本号を欠番とする。

W－40 ～ 45 号溝（遺構：第 13・14 図、PL .11・12）

位置：2区西端にて、重複した状態で検出された。 **形態**：総じて北西－南東方向に直行する。断面形は、U字状ないしV字状を呈する。 **計測値**：検出長 1.87 m、検出幅 0.36 ～ 0.44 m、確認面からの深さ 0.12 ～ 0.13 m。 **埋没状態**：主として基本層序のIX層に近似する土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、古墳時代以降と推測される。

3 竪穴状遺構

T－2号竪穴状遺構（遺構：第 12 図、PL .12）

位置：2区西端にて検出された。 **重複**：W －28 号溝に切られる。 **残存状況**：W －28 号溝により、本来の遺構上部が消失しているほか、東部付近の立ち上がりを欠損している。 **形態**：平面は隅丸方形と楕円形の中間のような形状を呈する。底面はおおむね平坦である。 **計測値**：検出長 4.62 m、確認面からの最大深 0.33 m。 **埋没状態**：主として基本層序のIX層に近似する土が堆積している。 **遺物**：細片ながら、土師器・須恵器に加え、後世の混入とおぼしき陶器と羽釜が出土している。 **時期**：埋没状態と出土遺物より、古墳時代後期と推測される。

4 道路状遺構

A－1号道路状遺構（遺構：第9図、PL .12）

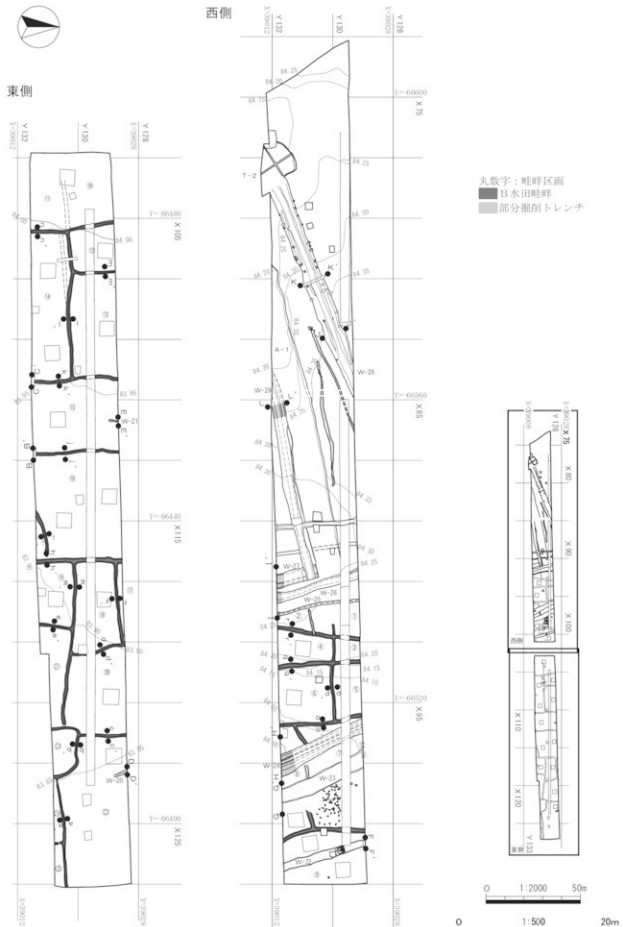
位置：2区中央部～西部にて検出された。 **形態**：おおむね平坦であるが、両端部内側の随所に、車輪（現在の自動車のタイヤより細い）の轍とおぼしき溝状のくぼみが見受けられる。また、両端部の外側に側溝を伴う。 **計測値**：主軸方位N －64° －E、検出長 39.75 m、幅 3.25 ～ 4.25 m、確認面からの深さ 0.05 ～ 0.17 m。 **埋没状態**：主として基本層序のⅡ層に由来する土が堆積している。 **遺物**：いずれも細片であるが、陶磁器、火打石、近世土器（焙烙）に加え、混入とおぼしき古墳時代前期の土師器台付甕、土師器・須恵器、灰釉陶器碗が出土している。 **時期**：近世以降。

5 遺構外出土遺物（第 16 図、PL .22）

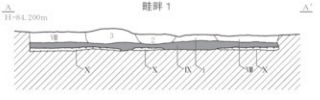
ここでとり上げるのは、いずれも攪乱中から採取された遺物である。円筒埴輪片が含まれている点で、広瀬古墳群と本遺跡周辺になんらかの関連を想起すべきものか、現時点では判然としない。今後の資料の増加をまったともに、注意を喚起する意味合いを込めて、掲載する。

第３表　２区 As-B 層下水田跡区画計測表

区画 No	面積 (㎡)	南北軸 (m)	東西軸 (m)	田面中央標高 (m)	田面北高 (cm)	南北畦畔高 (cm)	南北畦畔上場幅 (cm)	南北畦畔下場幅 (cm)	東西畦畔高 (cm)	東西畦畔上場幅 (cm)	東西畦畔下場幅 (cm)	備　考
1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	14 ～ 21	31 ～ 35	
3	—	—	—	—	—	—	24 ～ 37	48 ～ 64	—	—	—	
4	—	—	3.47	—	—	—	23 ～ 38	53 ～ 70	—	17 ～ 23	39 ～ 45	
5	—	—	—	—	—	—	24 ～ 36	49 ～ 63	—	—	—	
6	—	—	7.75	—	—	—	26 ～ 46	58 ～ 76	—	12 ～ 32	44 ～ 56	
7	—	—	—	—	—	—	19 ～ 35	50 ～ 65	—	—	—	
8	—	—	13.99	—	—	—	20 ～ 28	50 ～ 57	—	18 ～ 46	42 ～ 66	
9	—	—	—	—	—	—	25 ～ 50	54 ～ 80	—	—	—	
10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
11	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	(42) ～ (51)	
12	—	—	—	—	—	—	16 ～ 30	43 ～ 62	—	—	—	
13	—	—	—	—	—	—	10 ～ 24	36 ～ 53	—	—	—	
14	—	—	19.35	—	—	—	19 ～ 27	51 ～ 57	—	14 ～ 30	42 ～ 63	
15	—	—	—	—	—	—	15 ～ 29	40 ～ 60	—	—	—	
16	—	—	—	—	—	—	12 ～ 25	40 ～ 52	—	—	—	
17	—	—	—	—	—	—	—	— ～ 75	—	—	—	
18	67.6	5.50	11.05	—	—	—	35 ～ 59	62 ～ 83	—	12 ～ 26	37 ～ 55	
19	—	—	8.98	—	—	—	30 ～ 40	55 ～ 73	—	16 ～ 28	42 ～ 59	
20	—	—	—	—	—	—	15 ～ 23	39 ～ 45	—	—	—	
21	—	—	13.10	—	—	—	15 ～ 20	41 ～ 51	—	14 ～ 25	38 ～ 58	
22	—	—	—	—	—	—	17 ～ 28	41 ～ 53	—	—	—	
23	—	—	3.76	—	—	—	13 ～ 24	34 ～ 47	—	13 ～ 21	36 ～ 51	
24	—	—	8.63	—	—	—	— ～ 32	— ～ 82	—	38 ～ 24	17 ～ 48	
25	—	—	—	—	—	—	12 ～ 17	34 ～ 36	—	11 ～ 28	36 ～ 53	

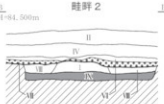


第９図　２区全体図



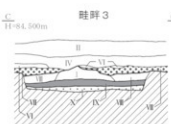
2区中央部　水田畦畔サブトレ土層説明

1　暗灰色土　　In-FA・FPに由来する灰黄褐色粘質土のブロック少量、砂粒微量、および黒褐色粘質土少量が混入。鉄分の沈着が若干認められる。しまり、粘性とも強い。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土のブロック微量、砂粒微量が混入、鉄分の沈着がわずかに認められる。しまり、粘性とも強い。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土のブロック中量、砂粒微量が混入、鉄分の沈着が若干認められる。しまり、粘性とも強い。



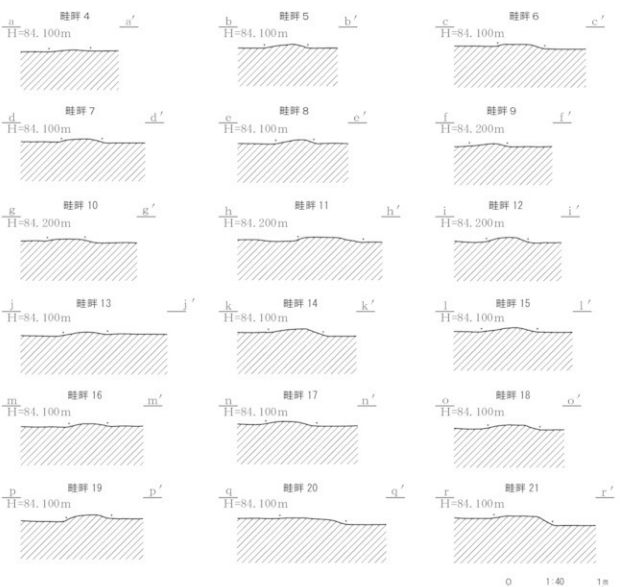
2区東部　水田畦畔サブトレ南壁東土層説明

1　暗灰色土　　In-FA・FPに由来する灰黄褐色粘質土のブロック少量砂粒微量が混入、および黒褐色粘質土少量が混入。鉄分の沈着が若干認められる。しまり、粘性とも強い。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土のブロック少量、砂粒微量が混入、および黒褐色粘質土少量が混入。鉄分の沈着がわずかに認められる。しまり、粘性とも強い。



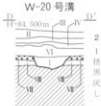
2区東部　水田畦畔サブトレ　南壁西土層説明

1　暗灰色土　　In-FA・FPに由来する灰黄褐色粘質土のブロック少量、砂粒微量が混入、および黒褐色粘質土少量が混入。鉄分の沈着が若干認められる。しまり、粘性とも強い。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土のブロック少量、砂粒微量が混入、および黒褐色粘質土少量が混入。鉄分の沈着がわずかに認められる。しまり、粘性とも強い。



第 10 図　2区 As-B 層下水田跡

W-20 号溝



2区 W-20 号溝土層説明

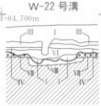
1 暗灰色土　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、黒褐色粘質土少量、および灰黄褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性とも弱い。

W-21 号溝

2区 W-21 号溝土層説明

1 暗灰色土　砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量、黒褐色粘質土少量、および灰黄褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性とも弱い。

W-22 号溝



2区 W-22 号溝土層説明

1 暗灰色土　径1～2mmのAs-B中量、基本層序のⅢ層に由来する土壌のブロック中量が混入。しまり、粘性とも弱い。

W-23 号溝

2区 W-23 号溝土層説明

1 灰黄褐色土　基本層序の盛土に由来する土が主体。径2～3mmのAs-A少量、径1～2mmのAs-B少量、および砂粒微量が混入。しまり、粘性とも弱い。

2 灰黄褐色土　基本層序の盛土に由来する土が主体。径2～3mmのAs-A少量、径1～2mmのAs-B少量、および砂粒微量が混入。しまり、粘性とも弱い。

3 灰黄褐色土　基本層序の盛土に由来する土が主体。径2～3mmのAs-A少量、径1～2mmのAs-B少量、および砂粒微量が混入。しまり、粘性とやや強い。

4 暗灰色土　砂粒少量、径1～2mmのAs-B少量、黒褐色粘質土少量、および灰黄褐色粘質土微量が混入。鉄分の沈着が若干認められる。しまり、粘性ともやや強い。

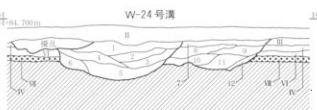
5 灰黄褐色土　灰黄褐色粘質土が主体。砂粒少量、径2～3mmのAs-A少量、および径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性とも弱い。

6 灰黄褐色土　砂粒少量、径1～2mmのAs-B少量、黒褐色粘質土少量、および灰黄褐色粘質土微量が混入。鉄分の沈着がわずかに認められる。しまり、粘性ともやや強い。

7 暗灰色土　基本層序のV層に由来する土が主体。黒褐色粘質土中量、径1～2mmのAs-B少量、および灰黄褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性とも弱い。

8 暗灰色土　基本層序のV層に由来する土が主体。径1～2mmのAs-B中量、黒褐色粘質土中量、および灰黄褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性とも弱い。

W-24 号溝



2区 W-24 号溝土層説明

1 灰黄褐色土　基本層序の盛土に由来する土が主体。径2～3mmのAs-A少量、径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土のブロック少量、および砂粒微量が混入。しまり弱い。粘性やや弱い。

2 灰黄褐色土　基本層序の盛土に由来する土が主体。径2～3mmのAs-A少量、径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土のブロック少量、および砂粒微量が混入。しまり、粘性とも弱い。

3 灰黄褐色土　径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土のブロック少量、砂粒微量、および径2～3mmのAs-A微量が混入。しまり、粘性とも弱い。

4 灰黄褐色土　径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土のブロック少量、砂粒微量、および径2～3mmのAs-A微量が混入。鉄分の沈着がわずかに認められる。しまり、粘性とも弱い。

5 灰黄褐色土　径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土のブロック少量、および砂粒微量が混入。しまりやや強く、粘性は弱い。

6 灰黄褐色土　径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土のブロック少量、および砂粒微量が混入。鉄分の沈着が若干認められる。しまり、粘性ともやや強い。

7 灰黄褐色土　径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土のブロック少量、砂粒微量、および黒褐色粘質土微量が混入。鉄分の沈着が若干認められる。しまり、粘性ともやや強い。

8 灰黄褐色土　基本層序の盛土に由来する土が主体。砂粒少量、径2～3mmのAs-A少量、径1～2mmのAs-B少量、および灰黄褐色粘質土のブロック微量が混入。しまり弱い。粘性やや弱い。

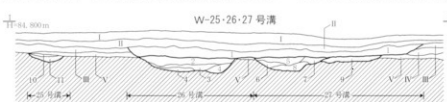
9 灰黄褐色土　径2～3mmのAs-A少量、径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土のブロック少量、および砂粒微量が混入。しまり、粘性とも弱い。

10 灰黄褐色土　径2～3mmのAs-A少量、径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土のブロック少量、および砂粒微量が混入。鉄分の沈着がわずかに認められる。しまり、粘性とも弱い。

11 灰黄褐色土　径2～3mmのAs-A少量、径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土のブロック少量、および砂粒微量が混入。鉄分の沈着がわずかに認められる。しまり弱い。粘性やや弱い。

12 灰黄褐色土　径2～3mmのAs-A少量、径1～2mmのAs-B少量、灰黄褐色粘質土のブロック少量、および砂粒微量が混入。しまり弱い。粘性やや弱い。

W-25・26・27 号溝



2区 W-25・26・27 号溝土層説明

1 暗灰色土　径2～3mmのAs-Aが中量、径1～2mmのAs-B、黒褐色粘質土、および灰黄褐色粘質土がそれぞれ微量混入。しまり強く、粘性は弱い。

2 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が中量、径2～3mmのAs-A、径1～2mmのAs-B、および黒褐色粘質土がそれぞれ微量混入。上部に鉄分の沈着が認められる。しまりやや強く、粘性は弱い。

3 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-B、および黒褐色粘質土がそれぞれ微量混入。しまり、粘性とも弱い。

4 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bが少量混入。しまり、粘性とも弱い。

5 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bが少量混入。しまりやや強く、粘性は弱い。

6 暗灰色土　黒褐色粘質土および灰黄褐色粘質土が少量、径2～3mmのAs-A、および径1～2mmのAs-Bがそれぞれ微量混入。上部に鉄分の沈着が認められる。しまりやや強く、粘性は弱い。

7 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-B、および黒褐色粘質土がそれぞれ微量混入。上部に鉄分の沈着が認められる。しまりやや強く、粘性は弱い。

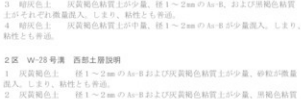
8 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bが少量、黒褐色粘質土および灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。

9 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bが少量、灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも弱い。

10 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bが中量、灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも弱い。

11 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bが少量混入。しまり、粘性とも弱い。

W-28 号溝 西部土層説



2区 W-28 号溝 西部土層説明

1 灰黄褐色土　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、砂粒が微量混入。しまり、粘性とも弱い。

2 灰黄褐色土　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。

3 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bが少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。

4 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。

5 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。

6 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび砂粒が少量混入。しまり、粘性とも弱い。

7 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bを主体とし、砂粒が中量、灰黄褐色粘質土が少量、および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

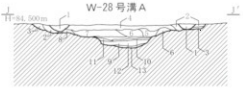
8 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび砂粒が中量、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が、それぞれ少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

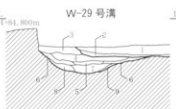
0　1:60　2m

第11図 2区溝 (1)

2区　W-28号溝　東部土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土のブロック中量、径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性とも弱油。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土のブロックが主体、径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性とも弱油。
3　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土のブロック中量、径1～2mmのAs-B中量が混入。しまり、粘性とも弱油。
4　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土のブロックが主体、砂粒少量、径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性とも弱油。
5　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土のブロック中量、砂粒少量、および径1～2mmのAs-B微量が混入。しまり、粘性とも弱油。
6　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土のブロックが主体、砂粒中量、径1～2mmのAs-B中量が混入。しまり、粘性とも弱油。
7　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土のブロック中量、径1～2mmのAs-B少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
8　黄褐色土　　基本層序の鬼界下部に由来する土が主体。径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性ともやや強い。





2区　W-29号溝土層説明

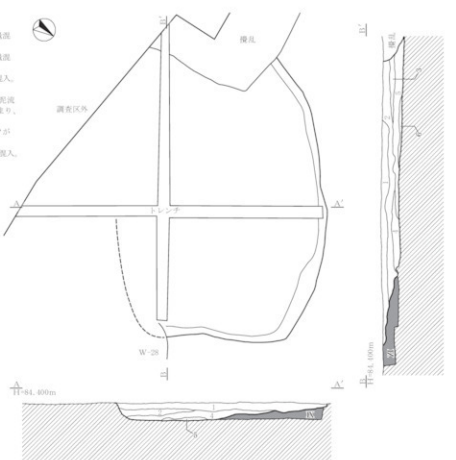
1　灰褐色土　　径2～3mmのAs-Aが中量、灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり強く、粘性は弱油。A-1号道跡跡の覆土。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径2～3mmのAs-Aが少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまりやや強く、粘性は弱油。A-1号道跡跡の覆土。
3　灰黄褐色土　　径2～3mmのAs-Aおよび灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまりやや強く、粘性は弱油。
4　暗灰色土　　径2～3mmのAs-A、灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土が、それぞれ少量混入。しまり、粘性とも弱油。
5　暗灰色土　　径2～3mmのAs-Aおよび灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱油。
6　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径2～3mmのAs-A、径1～2mmのAs-B、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまり、粘性とも弱油。
7　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径2～3mmのAs-A、径1～2mmのAs-B、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまり、粘性とも弱油。
8　黄褐色土　　径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱油。
9　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-B、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまり、粘性とも弱油。

0　1:60　2m

T-2号溝竪穴状遺構

2区　2号竪穴状遺構土層説明

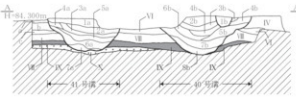
1　灰黄褐色土　　径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性とも弱油。
2　灰黄褐色土　　径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
3　黄褐色土　　径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり弱油、粘性やや強い。
4　灰黄褐色土　　径1～2mmのIh-FA・FP起源種に由来する土が主体。砂粒が少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
5　にぶい黄褐色土　　Ih-FA・FPのブロックが少量混入。しまり、粘性とも弱油。
6　黒褐色土　　Ih-FA・FPのブロックが少量混入。しまり弱油、粘性は強い。



0　1:60　2m

第12図　2区溝（2）、竪穴状遺構

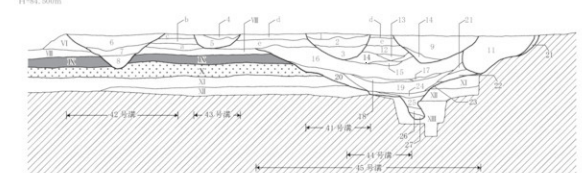
2区　W-40・41号溝



2区　西部溝土層説明

1a　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量混入。しまりやや強く、粘性やや弱い。
2a　褐灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
3a　褐灰色土　　黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
4a　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
5a　灰黄褐色土　　黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
6a　褐灰色土　　黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性は強い。
7a　暗灰色土　　黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性は強い。
1b　灰黄褐色土　　径1～2mmのAs-B少量、径2～3mmのAs-A少量が混入。しまり、粘性ともやや弱い。
2b　灰黄褐色土　　径1～2mmのAs-Bが中量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
3b　黄褐色土　　径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
4b　灰黄褐色土　　径1～2mmのAs-Bがほぼ1%。しまり、粘性ともやや弱い。
5b　にぶい黄褐色土　　黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや強い。
6b　褐灰色土　　Hr-FA・FPのブロックが微量混入。しまりやや強く、粘性は強い。
7b　褐灰色土　　Hr-FA・FPのブロックが微量混入。しまり普通、粘性は強い。
8b　褐灰色土　　Hr-FA・FPのブロックが少量混入。しまり普通、粘性は強い。
a　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
b　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや強い。
c　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。

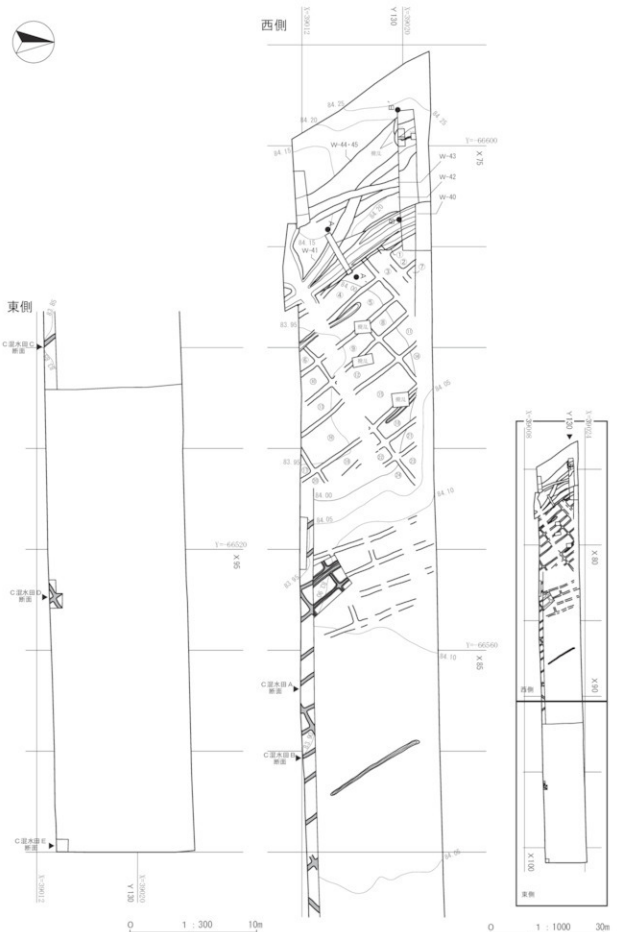
2区　W-41～45号溝



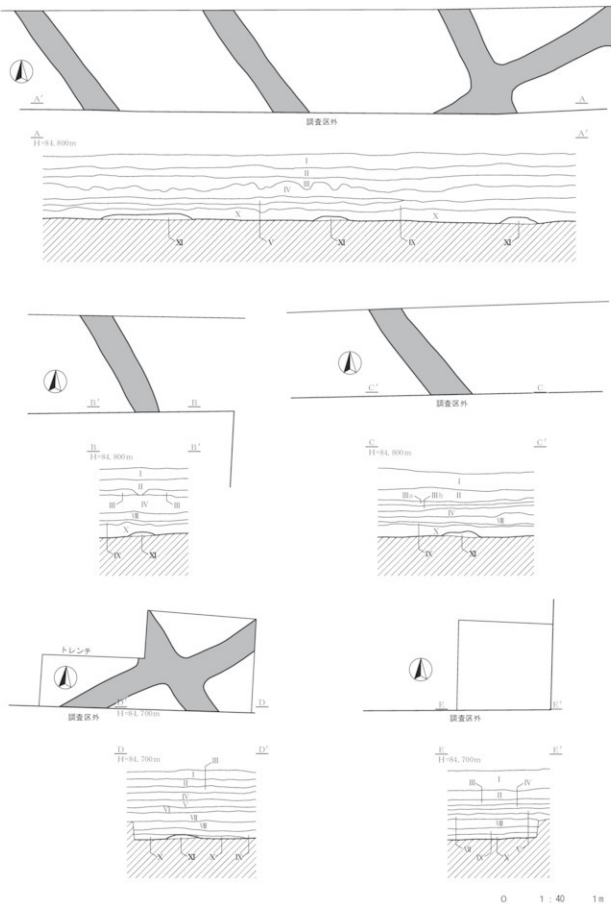
2区　西端部北側トレンチ土層説明

1　暗灰色土　　Hr-FA・FP泥流層に由来する灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が中量混入。しまり、粘性とも弱い。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
4　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや弱い。
5　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
6　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
7　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
8　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや強い。
9　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
10　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
11　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
12　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
13　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
14　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
15　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
16　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。
17　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや強い。
18　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。
19　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや強い。
20　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土を主体とし、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや強い。
21　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
22　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
23　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
24　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土を主体とし、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。
25　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
26　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量、As-Cが微量混入。しまりやや弱く、粘性は普通。
27　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量、As-Cが少量混入。しまりやや弱く、粘性は普通。
a　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
b　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
c　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
d　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
e　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。

第13図　2区溝（3）

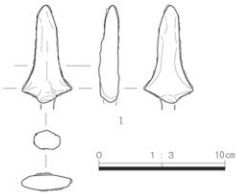


第 14 図　2 区古墳時代水田跡分布図

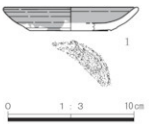


第 15 図　2 区古墳時代水田跡

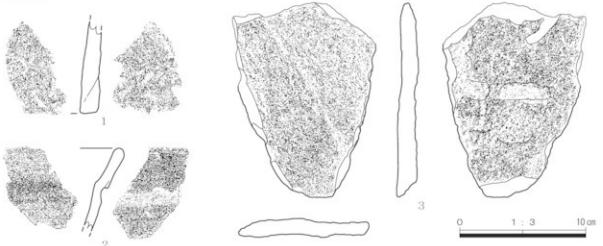
W－28号溝



A－1号道路状遺構



2区 遺構外



第16図 2区出土遺物

第4表 W－28号溝出土遺物観察表

番号	器種		法量(cm)、成・整形技法の特徴	備考
1	鉄製品	不明品	長さ（7.7）幅 4.0 厚さ 1.5 重さ 53.84 g。	下部を欠損。

第5表 A－1号道路状遺構出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	陶器皿	口径（10.9） 底径（6.4） 器高 1.9	①堅緻 ②灰 ③細砂粒 ④1/4	外面：軸幅整形。全面右回転施ケズリ。 内面：軸幅整形。全面灰釉。	瀬戸美濃。

第6表 2区遺構外出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	円筒埴輪		①酸化炎 ②にぶい橙 ③細砂粒・石英・チャート ④基部片	外面：縦位刷毛目後施ケズリ。 内面：縦位指ナデ。	
2	陶器擂鉢		①還元炎 ②浅黄橙 ③細砂粒 ④口縁～体部片	外面：軸幅整形。全面施釉。 内面：軸幅整形。全面施釉。	瀬戸美濃。
番号	器種		法量(cm)、成・整形技法の特徴		備考
3	石製品	板碑	基部片。長さ（15.5）幅（11.0）厚さ 1.5 重さ 358.74 g。緑泥片岩製。裏面に整痕。		

Ⅶ　3区の遺構・遺物

1　住居跡

H－1号住居跡（遺構：第18図、PL.14、遺物：第33図、第9表、PL.20）
位置：3区南部にて検出された。　**主軸方位**：N－7°－W。　**形状**：半分弱が調査区外に位置するが、方形とみられる。　**規模**：長軸3.39mを測る。　**残存深度**：0.21m。　**床面の状態**：おおむね平坦である。硬化面を伴う明瞭な貼り床は残っていない。また、壁周溝も確認されていない。　**カマド**：調査区外、住居の北辺に位置するとみられる。　**貯蔵穴**：確認されていない。　**柱穴**：確認されていない。　**埋没状態**：主としてAs-Bを含む暗灰色土による自然堆積と推測される。　**遺物出土状態**：検出範囲全体にわたり散漫に分布する。　**時期**：埋没状態と出土遺物より、10世紀後半と推定される。

H－2号住居跡（遺構：第18・19図、PL.14、遺物：第33図、第10表、PL.20）
位置：3区南部にて検出された。　**主軸方位**：N－76°－E。　**重複**：W－33号溝を切っている。　**形状**：おおむね方形を呈する。　**規模**：3.64×3.12m。　**残存深度**：0.47m。　**面積**：11.30㎡。　**床面の状態**：おおむね平坦である。硬化面を伴う明瞭な貼り床は残っていない。また、壁周溝も確認されていない。　**カマド**：東壁のやや南寄りに付設されている。全長0.49m、最大幅0.38m、主軸方位N－76°－Eを測る。　**貯蔵穴**：南東隅で確認されている。規模は0.71×0.61m、検出深0.04mときわめて浅い。　**柱穴**：想定範囲内でピット2基が検出されている。ただし、それぞれ検出深0.07m、0.09mと、やはり極端に浅い。　**埋没状態**：主としてAs-Bを含む暗灰色土による自然堆積と推測される。　**遺物出土状態**：検出範囲全体にわたり散漫に分布するが、カマド周辺の密度がやや高い。　**時期**：埋没状態と出土遺物より、10世紀前半と推定される。

H－3号住居跡（遺構：第19・20図、PL.14、遺物：第33図、第11表、PL.20）
位置：3区南部にて検出された。西部が調査区外に位置する。　**主軸方位**：N－62°－E。　**重複**：W－33号溝を切っている。　**形状**：おおむね方形を呈する。　**規模**：短軸4.43mを測る。　**残存深度**：0.32m。　**床面の状態**：おおむね平坦である。硬化面を伴う明瞭な貼り床は残っていない。また、壁周溝も確認されていない。　**カマド**：東壁のやや南寄りに付設されている。全長1.02m、最大幅0.48m、主軸方位N－62°－Eを測る。　**貯蔵穴**：確認されていない。　**柱穴**：確認されていない。　**埋没状態**：主としてAs-Bを含む暗灰色土による自然堆積と推測される。　**遺物出土状態**：検出範囲全体にわたりごく散漫に分布する。　**時期**：埋没状態と出土遺物より、7世紀後半と推定される。

H－4号住居跡（遺構：第20図、PL.15、遺物：第33図、第12表、PL.20）
位置：3区南部にて検出された。　**主軸方位**：N－63°－E。　**重複**：H－5号住居跡を切る。　**形状**：半分強が調査区外に位置するが、方形とみられる。　**規模**：短軸4.06mを測る。　**残存深度**：0.11m。　**床面の状態**：おおむね平坦である。随所に軽度の硬化が認められる。壁周溝は確認されていない。　**カマド**：東壁のやや南寄りに付設されている。全長1.05m、最大幅1.07m、主軸方位N－63°－Eを測る。　**貯蔵穴**：明瞭なものは確認されていない。掘り方レベルでは、南東隅に不整形の凹凸があり、あるいは廃絶時以降に損壊を受けているのかもしれない。　**柱穴**：掘り方レベルにて、想定範囲内に2基のピットが検出されており、これらが主柱穴であった可能性がある。　**貼り床**：灰黄褐色粘質土を多く含む暗灰色土により構築されている。　**埋没状態**：主として灰黄褐色粘質土を含む暗灰色土による自然堆積と推測される。　**遺物出土状態**：検出範囲全体にわたり散漫に分布するが、カマド周辺の密度がやや高い。　**時期**：埋没状態と出土遺物より、7世紀後半と推定される。

H－5号住居跡（遺構：第21図、PL.15）
位置：3区南部にて検出された。　**主軸方位**：N－58°－E。　**重複**：H－4号住居跡に切られる。　**形状**：半分弱が調査区外に位置するが、方形とみられる。　**規模**：短軸3.82mを測る。　**残存深度**：0.08m。　**床面の状態**：おおむね平坦である。硬化面を伴う明瞭な貼り床は残っていない。また、壁周溝も確認されていない。　**カマド**：東壁のやや南寄

りに付設されている。住居壁面より内側に袖があったものと見られるが、損壊を受けている。煙道の張り出し部に限れば、長さ0.60 m、最大幅 0.80 m、主軸方位N－58°－Eを測る。 **貯蔵穴**：確認されていない。 **柱穴**：明瞭なものは確認されていない。 **埋没状態**：主として灰黄褐色粘質土を含む暗灰色土による自然堆積と推測される。 **遺物出土状態**：検出範囲全体にわたりごく散漫に分布する。 **時期**：埋没状態と出土遺物より、古墳時代後期と推定される。

H－6号住居跡（遺構：第21・22図、PL.15、遺物：第34図、第13表、PL.20・21）

位置：3区南部にて検出された。 **主軸方位**：N－60°－E。 **形状**：方形を呈する。 **規模**：3.30 × 2.21 m。 **残存深度**：0.39 m。 **面積**：7.70 ㎡。 **床面の状態**：おおむね平坦である。硬化面を伴う明瞭な貼り床は残っていない。また、壁周溝も確認されていない。 **カマド**：明瞭なものは確認されていない。 **貯蔵穴**：明瞭なものは確認されていない。 **柱穴**：確認されていない。 **埋没状態**：主として灰黄褐色粘質土を含む暗灰色土による自然堆積と推測される。 **遺物出土状態**：南部に偏る傾向がうかがえる。 **時期**：埋没状態と出土遺物より、7世紀後半と推定される。なお、付帯施設が順当に確認されないことから、竪穴状遺構に相当する可能性もある。

H－7号住居跡（遺構：第22図、PL.15、遺物：第33図、第14表、PL.20）

位置：3区南部にて検出された。 **主軸方位**：N－74°－E。 **形状**：方形を呈する。 **規模**：短軸2.53 mを測る。 **残存深度**：0.20 m。 **床面の状態**：おおむね平坦である。硬化面を伴う明瞭な貼り床は残っていない。また、壁周溝も確認されていない。 **カマド**：東壁のやや南寄りに付設されている。煙道を含め、損壊が著しい。住居内部の灰層が分布する範囲に限れば、長さ0.91 m、最大幅 0.79 m、主軸方位N－74°－Eを測る。 **貯蔵穴**：明瞭なものは確認されていない。 **柱穴**：確認されていない。 **埋没状態**：主として灰黄褐色粘質土を含む暗灰色土による自然堆積と推測される。 **遺物出土状態**：検出範囲全体にわたり散漫に分布するが、カマド周辺の密度がやや高い。 **時期**：埋没状態と出土遺物より、7世紀後半と推定される。

H－8号住居跡（遺構：第23図、PL.16、遺物：第35図、第15表、PL.20）

位置：3区中央部にて検出された。 **主軸方位**：N－66°－E。 **重複**：H－9号住居跡を切っている。 **形状**：方形を呈する。 **規模**：3.42 × 2.32 m。 **残存深度**：0.20 m。 **面積**：8.30 ㎡。 **床面の状態**：おおむね平坦である。硬化面を伴う明瞭な貼り床は残っていない。また、壁周溝も確認されていない。 **カマド**：東壁のほぼ中央に付設されている。長さ0.61 m、最大幅 0.57 m、主軸方位N－66°－Eを測る。 **貯蔵穴**：南東隅の掘り方レベルにて、検出されている。 **柱穴**：想定範囲内の掘り方レベルにて9基のピットが検出されている。このうちP1・P3は、主柱穴である可能性が高い。 **埋没状態**：主として灰黄褐色粘質土を含む暗灰色土による自然堆積と推測される。 **遺物出土状態**：検出範囲全体にわたり散漫に分布する。南部の床面付近では、4点の薄編石が出土している。 **時期**：埋没状態と出土遺物より、7世紀後半と推定される。

H－9号住居跡（遺構：第24図、PL.17、遺物：第35図、第16表、PL.21）

位置：3区中央部にて検出された。床面のほとんどは、後世における攪拌作用にて消失しており、遺構としてはカマドの痕跡を検出するのみとなった。 **重複**：H－8号住居跡に切られている。 **形状**：方形と推測される。 **カマド**：検出範囲において、長さ1.02 m、最大幅 0.36 m、主軸方位N－48°－Eを測る。 **遺物出土状態**：カマドの南部に近接する覆土より、三環鈴の鈴部の破片、および土師器坏・小型鉢が出土した。 **時期**：出土遺物より、7世紀後半と推測される。

H－10 号住居跡

調査当初、H－8・9号住居跡と重複する範囲に、別個の1軒があるものとしてH－10 号と付称したが、精査の結果 H－9 号の一部という認識に至ったため、本号を欠番とする。

H－11 号住居跡（遺構：第24図、PL.17、遺物：第35図、第17表、PL.21）

位置：3区西部にて検出された。 **主軸方位**：N－69°－E。 **重複**：本体をD－17 号土坑に、カマドの東端をD－16 号土坑にそれぞれ切られている。 **形状**：おおむね方形を呈する。 **規模**：2.77 × 2.73 m。 **残存深度**：0.12 m。 **面積**：

7.52 ㎡。 **床面の状態**：後世における攪拌作用により著しく損壊しており、掘り方レベルでの検出となった。 **カマド**：東壁の南寄りに付設されている。最大幅 0.46 mを測る。 **貯蔵穴**：南東隅にて検出されている。0.63 × 0.53 m、深さ 0.15 mを測る。 **柱穴**：確認されなかった。 **埋没状態**：主としてAs-Bを含む暗灰色土による自然堆積と推測される。**遺物出土状態**：検出範囲全体にわたりごく散漫に分布する。 **時期**：埋没状態と出土遺物より、10 世紀後半と推定される。

H-12・13 号住居跡（遺構：第 25 図、PL .17）

位置：3区西部にてH -12 号の南端が検出された。他の範囲は調査区外に位置し、H -12 号は壁面セクションでの確認のみにとどまる。 **重複**：H -12 号がH -13 号を切っている。 **形状**：おおむね方形と推測される。 **埋没状態**：主として灰黄褐色粘質土を含む暗灰色土による自然堆積と推測される。 **時期**：出土遺物がないため詳細は不明であるが、埋没状態は、本遺跡における7世紀後半の他の住居跡に近似する。

2 土坑・ピット

土坑・ピットについては、原則として計測表（第8表）に所見をまとめることとする。以下では、表以外の記載を必要とする遺構を限定的に扱う。

D -18 号土坑（遺構：第 26 図、PL .17、遺物：第 36 図、第 18 表、PL .22）

位置：3区中央部にて検出された。 **形態**：隅丸方形ないし長楕円形の主体部と、それとおおむね直行する方向の袖とで構成され、あわせてT字状の平面形を呈する。本体土坑の壁面は垂直に近い急角度をなし、通気孔とみられる袖は、底面からゆるやかに立ち上がる。 **計測値**：主体部で 1.22 × 0.78 m、深さ 0.35 m、袖のみで長さ 0.72 mをそれぞれ測る。 **埋没状態**：As-B、灰黄褐色粘質土、および骨片を含む土により、人為的に埋め戻されているものと推測される。 **遺物**：覆土下位～底面付近より、北宋銭3点以上が出土した。また、覆土の中位以下では、被熱により破砕した多量の骨片が含まれていた。 **時期**：出土遺物より、中世の火葬土坑と推定される。

D -19 号土坑（遺構：第 26 図、PL .17、遺物：第 36 図、第 19 表、PL .22）

位置：3区西部にて検出された。 **形態**：平面楕円形、断面は浅い皿状を呈する。 **計測値**：2.14 × 1.21 m、深さ 0.13 mを測る。 **埋没状態**：灰黄褐色粘質土を含む土による自然堆積と推測される。 **遺物**：底面付近にて、土師器坏・甕、須恵器蓋・高盤の破片が出土した。 **時期**：埋没状態と出土遺物より、7世紀後半と推定される。

3 井戸跡

I - 1号井戸（遺構：第 27 図、PL .17、遺物：第 36 図、第 20 表、PL .22）

位置：3区西部にて検出された。 **形態**：平面楕円形を呈し、壁面は最上部のみゆるやかで、そのほかは 80° 以上の急角度をなす。 **計測値**：2.21 × 1.99 m、深さ 3.91 mを測る。 **埋没状態**：下部については不明。最上部では、As-B、灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土を含む土が堆積しており、顕著な人為の影響は認められない。 **遺物**：覆土上部を中心に、内耳鍋、陶器、石臼、火打ち石、また混入とおぼしき土師器・須恵器などが出土した。 **時期**：埋没状態と出土遺物より、中世と推定される。

4 溝

W -31 号溝（遺構：第 17 図）

位置：3区南端にて一部が検出された。 **重複**：W -32、38 号溝を切っている。 **形態**：おおむね南北方向に直行し、底面は南側が低い。断面は、逆台形を呈する。 **計測値**：主軸方位N－8°－W、検出長 8.40 m、検出幅 1.17 ～ 1.52 m、確認面からの深さ 0.33 ～ 0.44cm を測る。 **埋没状態**：灰黄褐色粘質土を含み、As-B をほとんど含まない土が堆積している。 **遺物**：土師器坏・甕、須恵器皿のほか、後世の混入とおぼしき羽釜の細片などが出土した。 **時期**：埋没

状態と出土遺物より、7世紀後半と推測される。

W－32 号溝（遺構：第 17 図）

位置：3区南端にて一部が検出された。 **重複**：W－31 号溝に切られている。 **形態**：おおむね南北方向に直行し、底面は南側が低い。断面は、浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N－75°－E、検出長 10.77 m、検出幅 1.35 ～ 1.65 m、確認面からの深さ 0.14 ～ 0.39cm を測る。 **埋没状態**：灰黄褐色粘質土を含み、As－B をほとんど含まない土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代、As－B の降下以前に機能を停止した溝と推測される。

W－33 号溝（遺構：第 17・29・30 図、PL .18、遺物：第 37 図、第 21 表、PL .21）

位置：3区南端～中央部にて一部が検出された。 **重複**：多数の遺構と重複し、そのいずれよりも古い。 **形態**：おおむね北西－南東方向にやや蛇行しながら走向し、底面は南側が低い。断面は、逆台形ないしU字形を呈する。後述のとおり新旧2期に大別されるが、新しい時期では南部において分岐するようすがうかがえる。 **計測値**：主軸方位N－24°－W、検出長 57.49 m、検出幅 2.98 ～ 5.34 m、確認面からの深さ 0.74 ～ 1.09cm。 **埋没状態**：主に灰黄褐色粘質土を含む土が堆積している。向かって西寄りの部分に溝を掘り直した形跡があり、その箇所の覆土上位のみ As－B をわずかに含んでいる。なお、新・旧いずれも、底面には砂粒の堆積が認められ、機能時に水流があったことを示唆している。 **遺物**：土師器坏・甕・小型甕、須恵器皿・蓋のほか、後世の混入とおぼしき須恵器、瀬戸美濃窯、焙烙の細片などが、C・Dトレンチの底面付近と中心として出土している。 **時期**：埋没状態と出土遺物より、7世紀後半と推測される。

W－34 号溝（遺構：第 17・30 図、PL .18、遺物：第 37 図、第 22 表、PL .21）

位置：3区南部にて一部が検出された。 **重複**：W－33 号溝を切っている。 **形態**：北西－南東方向に走向し、底面は南東側が低い。北西部はせまく、南東部で急に幅が広くなっている。断面は、U字形を呈する。 **計測値**：主軸方位N－65°－W、検出長 8.74 m、検出幅 0.37 ～ 1.61 m、確認面からの深さ 0.29 ～ 0.64cm。 **埋没状態**：主に As－B を含む土が堆積している。 **遺物**：土師器坏・甕、須恵器坏・碗、灰釉陶器碗などが出土した。 **時期**：埋没状態と出土遺物より、10 世紀後半と推測される。

W－35 号溝（遺構：第 17 図、PL .17）

位置：3区中央部～西部にて一部が検出された。 **形態**：おおむね東西方向に直行し、底面は東側が低い。断面は、浅いU字形を呈する。 **計測値**：主軸方位N－86°－E、検出長 21.39 m、検出幅 0.38 ～ 0.68 m、確認面からの深さ 0.13 ～ 0.20cm。 **埋没状態**：主として基本層序のⅡ・Ⅲ層に由来する土が堆積していた。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、近世以降と推測される。

W－36 号溝（遺構：第 17・31・32 図、PL .19、遺物：第 38 図、第 23 表、PL .21）

位置：3区中央部～西部にて一部が検出された。 **重複**：W－33 号溝を切り、W－37 号溝に切られている。 **形態**：おおむね東西方向に直行し、底面は、東側が低い。断面は、逆台形ないし浅いU字形を呈する。 **計測値**：主軸方位N－89°－E、検出長 45.98 m、検出幅 2.90 ～ 6.09 m、確認面からの深さ 0.67 ～ 0.98cm。 **埋没状態**：主として基本層序のⅣ・Ⅴ層に由来する土が堆積していた。 **遺物**：焙烙、陶器、内耳鍋、板碑のほか、後世の混入とおぼしき土師器坏・須恵器、羽釜の細片などが出土した。 **時期**：埋没状態と出土遺物より、中世と推測される。

W－37 号溝（遺構：第 17 図）

位置：3区西端にて一部が検出された。 **重複**：W－36 号溝を切る。 **形態**：おおむね北西－南東方向に直行し、底面は南東側が低い。断面は、浅いU字形を呈する。 **計測値**：主軸方位N－16°－W、検出長 10.87 m、検出幅 0.36 ～ 0.55 m、確認面からの深さ 0.04 ～ 0.22cm。 **埋没状態**：主として基本層序のⅡ・Ⅲ層に由来する土が堆積していた。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、近世以降と推測される。

W -38 号溝（遺構：第 17 図）

位置：3区南端にて一部が検出された。 **重複**：W -31、33 号溝を切っている。 **形態**：おおむね東西方向に直行し、断面は浅いU字状を呈する。 **計測値**：主軸方位N -75° - E、検出長 8.69 m、検出幅 0.39 ～ 0.52 m、確認面からの深さ 0.14 ～ 0.21cm を測る。 **埋没状態**：灰黄褐色粘質土を含み、As-B をほとんど含まない土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代、As-B の降下以前に機能を停止した溝と推測される。

W -39 号溝（遺構：第 17 図、PL .19）

位置：3区中央部にて一部が検出された。 **形態**：おおむね南北方向に直行し、北部は攪乱によって消失し、削平のため南部も途切れている。 **計測値**：主軸方位N -10° - E、検出長 2.80 m、検出幅 0.40 ～ 0.55 m、検出深の最大値は 0.16cm を測る。 **埋没状態**：As-B を含んだ土が堆積している。 **遺物**：出土しなかった。 **時期**：埋没状態より、平安時代末以降と推測される。

5 水田跡

As-C 層上水田跡（遺構：第 17 図、第7表、PL .19）

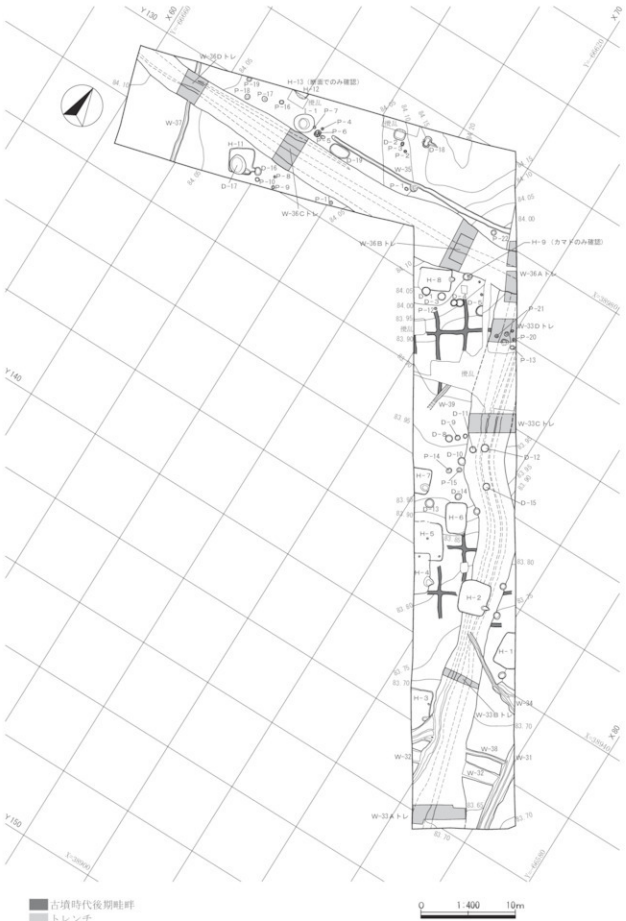
位置: 3区中央部にて一部が検出された。 **重複**: 3区の遺構の中で最も古く、他のあらゆる遺構に切られる。 **残存状況**: 畦畔基部に相当するレベルで痕跡が確認されている。基本層序X層（As-C 混土層）の、白い軽石の粒子が混じる面に、粒子が少なく粘性の強いXI 層の土が、畦畔の形なりに露出している。 **地形**：北から南へ緩傾斜する。 **区画**：14 区画が確認された。前述のとおり他の遺構による損壊が著しく、区画の詳細は明らかにできない。 **畦畔**: 小畦畔のみである。 **水口**：確認されていない。 **水田面の状態**：痕跡のみの確認のため、詳細は不明である。 **遺物**：出土しなかった。

第７表 ３区 As-C 層上水田跡区画計測表

区画 No	面積 (㎡)	南北軸 (m)	東西軸 (m)	田面中央標高 (m)	田面比高 (cm)	南北畦畔高 (cm)	南北畦畔上場幅 (cm)	南北畦畔下場幅 (cm)	東西畦畔高 (cm)	東西畦畔上場幅 (cm)	東西畦畔下場幅 (cm)	備考
1	—	—	—	—	—	—	—	30 ～ 38	—	—	—	
2	—	—	1.68	—	—	—	—	31 ～ 39	—	—	—	
3	—	3.44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
4	—	7.58	3.47	—	—	—	—	28 ～ 39	—	—	31 ～ 39	
5	—	3.66	—	—	—	—	—	32 ～ 40	—	—	34 ～ 44	
6	—	7.23	7.75	—	—	—	—	—	—	—	27 ～ 33	
7	—	8.98	—	—	—	—	—	29 ～ 33	—	—	—	
8	—	2.03	13.99	—	—	—	—	—	—	—	—	
9	—	10.93	—	—	—	—	—	31 ～ 39	—	—	27 ～ 34	
10	—	—	—	—	—	—	—	22 ～ 32	—	—	24 ～ 32	
11	—	—	6.90	—	—	—	—	—	—	—	—	
12	—	6.25	—	—	—	—	—	31 ～ 39	—	—	25 ～ 29	
13	—	5.58	—	—	—	—	—	—	—	—	34 ～ 36	
14	—	4.92	19.35	—	—	—	—	—	—	—	31 ～ 33	
15	—	11.43	—	—	—	—	—	—	—	—	38 ～ 40	

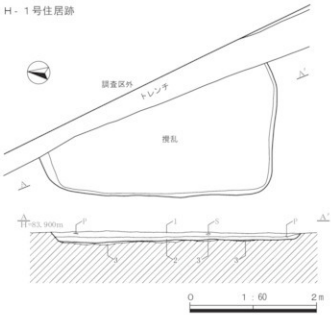
第８表 ３区土坑・ピット計測表 （単位：cm）

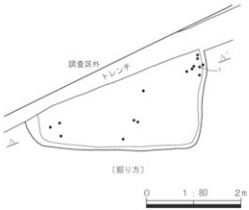
遺構名	長径・短径・深さ	備考	遺構名	長径・短径・深さ	備考	遺構名	長径・短径・深さ	備考	遺構名	長径・短径・深さ	備考
D - 1	88・83・11	中世以降	D -12	83・81・7	中世以降	P - 4	28・27・18	中世以降	P -15	56・51・22	時期不明
D - 2	124・ - ・57	平安時代末~	D -13	94・94・8	中世以降	P - 5	46・34・24	中世以降	P -16	47・39・12	平安時代末~
D - 3	83・82・6	中世以降	D -14	70・65・6	中世以降	P - 6	76・65・28	中世以降	P -17	59・51・22	平安時代末~
D - 4	73・72・11	中世以降	D -15	76・74・5	中世以降	P - 7	29・27・18	中世以降	P -18	59・53・27	平安時代末~
D - 5	112・ - ・5	中世以降	D -16	86・68・24	平安時代末~	P - 8	24・22・15	平安時代末~	P -19	54・51・13	平安時代末~
D - 6	—	欠番	D -17	208・165・24	平安時代末~	P - 9	35・32・12	平安時代末~	P -20	32・25・13	水流によるくぼみか
D - 7	—	欠番 (現I-1)	D -18	—	事実記載参照	P -10	44・42・15	平安時代末~	P -21	42・36・9	水流によるくぼみか
D - 8	79・74・3	中世以降	D -19	—	事実記載参照	P -11	39・38・34	平安時代末~	P -22	57・56・26	平安時代末~
D - 9	56・55・4	中世以降	P - 1	40・30・24	平安時代末~	P -12	28・27・23	平安時代末~			
D -10	85・80・9	中世以降	P - 2	30・26・19	平安時代末~	P -13	50・42・12	奈良・平安			
D -11	71・69・7	中世以降	P - 3	46・32・13	平安時代末~	P -14	60・51・18	時期不明			



第17図 3区全体図

H-1号住居跡

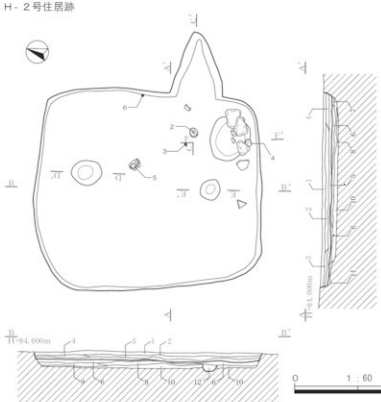




3区 H-1号住居跡土層説明

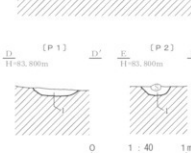
1 暗灰色土　黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土および径2～7mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
2 暗灰色土　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
3 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。床土。

H-2号住居跡



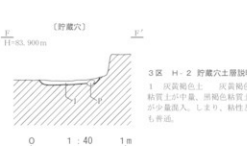
3区 H-2号住居跡土層説明

1 暗灰色土　灰黄褐色粘質土少量、黒褐色粘質土少量、および径2～7mmの焼土粒微量が混入。しまり、粘性とも弱い。
2 暗灰色土　黒褐色粘質土少量、灰黄褐色粘質土微量、および径2～7mmの焼土粒微量が混入。しまり、粘性とも弱い。
3 暗灰色土　灰黄褐色粘質土微量、黒褐色粘質土微量が混入。しまり、粘性とも弱い。
4 暗灰色土　灰黄褐色粘質土微量、黒褐色粘質土微量が混入。また、基本層序のV層に由来し、W-33号溝の覆土1層と共通する土が、少量混入している。しまり、粘性とも弱い。
5 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
6 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも弱い。
7 暗灰色土　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
8 暗灰色土　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも弱い。
9 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
10 暗灰色土　基本層序のV層に由来し、W-33号溝の覆土1層と共通する土が中量、径2～5mmの焼土粒が微量混入。しまり弱い、粘性やや強い。
11 灰黄褐色土　基本層序のV層に由来し、W-33号溝の覆土1層と共通する土を主体とし、黒褐色粘質土微量が中量混入。しまり弱い、粘性やや強い。
12 暗灰色土　床土。基本層序のV層に由来し、W-33号溝の覆土1層と共通する土が中量、黒褐色粘質土、および径1～3mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも弱い。



3区 H-2 P1・P2土層説明

1 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。径1～3mmの焼土粒、および径1～3mmの炭化物粒がそれぞれ微量混入。しまり弱い、粘性やや強い。

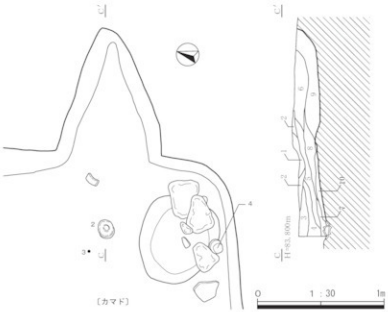


3区 H-2 貯蔵穴土層説明

1 灰黄褐色土　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも弱い。

第18図 3区住居跡（1）

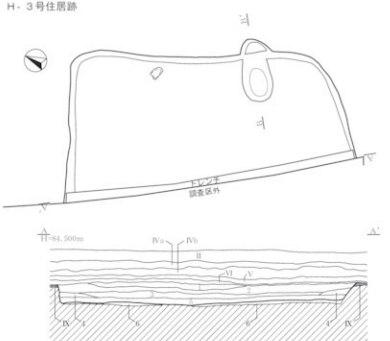
H-２号住居跡



3区　H-２カマド土層説明

1　暗灰色土　　径2～7mmの焼土粒が中量、灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
2　暗灰色土　　径1～3mmの焼土粒が少量、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
3　暗灰色土　　径2～7mmの焼土粒および灰黄褐色粘質土が少量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
4　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径5～10mmの焼土粒が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
5　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土、および径5～10mmの焼土粒が少量混入。しまり、粘性とも普通。
6　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土、および径10～50mmの焼土ブロックが中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
7　暗灰色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土、および径3～7mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。
8　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土、および径2～5mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。
9　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土を主体とする。径1～3mmの焼土粒が少量、黒褐色粘質土、および径1～3mmの炭化物粒が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
10　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土を主体とする。黒褐色粘質土、径1～3mmの焼土粒、および径1～3mmの炭化物粒がそれぞれ微量混入。しまり普通、粘性やや強い。

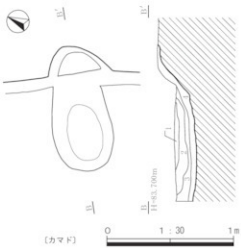
H-３号住居跡



3区　H-３号住居跡土層説明

1　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性とも普通。
2　暗灰色土　　Hr-FA・FP混成に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、および径1～3mmの焼土粒がそれぞれ微量混入。しまり、粘性とも普通。
4　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土、および径1～3mmの焼土粒が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
5　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径3～5mmの焼土粒が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
6　黒褐色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土、および径5～20mmの焼土粒ないし焼土ブロックが少量混入。しまり、粘性とも普通。

第19図　3区住居跡（2）



［カマド］

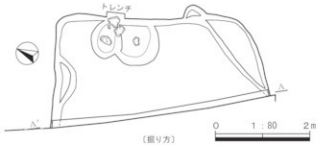
3区　H－3　カマド土層説明

1　灰黄褐色土　　径3～20mmの焼土粒および焼土ブロックが中量、灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弁通。

2　暗灰色土　　黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土および径2～4mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも弁通。

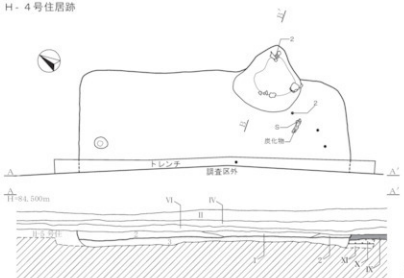
3　暗灰色土　　Hr-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、径5～20mmの焼土粒および焼土ブロックがそれぞれ少量混入。しまり弁通、粘性やや強い。

4　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径2～5mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも弁通。



［掘り方］

H－4号住居跡



3区　H－4号住居跡土層説明

1　暗灰色土　　黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土および径2～5mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも弁通。

2　暗灰色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土および径2～5mmの焼土粒が少量混入。しまりやや強く、粘性は弁通。

3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土および径2～5mmの焼土粒が少量混入。しまりやや強く、粘性は弁通。

0　1：60　2m

［カマド］

3区　H－4　カマド土層説明

1　灰褐色土　　径2～3mmの焼土粒中量、径2～5mmの炭化物粒少量、および径10～100mmの焼土ブロック微量が混入。しまり弁通、粘性やや強い。

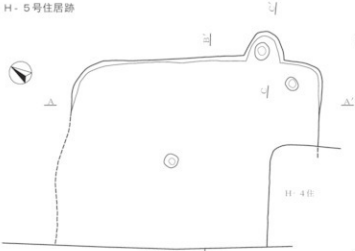
2　灰褐色土　　径1～2mmのAs-B中量、基本層序のⅧ層に由来する土壌のブロック中量が混入。しまりやや弱く、粘性弁通。

3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、径5～20mmの焼土粒および焼土ブロックがそれぞれ少量混入。しまり弁通、粘性やや強い。

［掘り方］

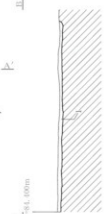
第20図　3区住居跡（3）

H-５号住居跡

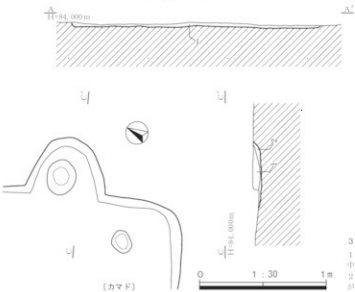


3区　H-５号住居跡土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土および径２～10mmの焼土粒が少量、径２～５mmの炭化物粒が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。



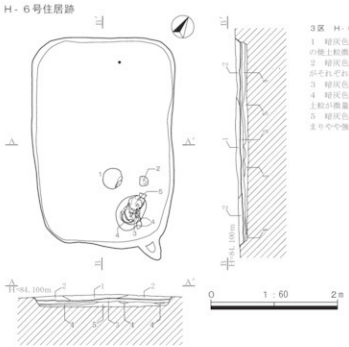
0　1：60　2m



3区　H-５　カマド土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土のブロック中量、焼土ブロック中量、および黒褐色粘質土少量が混入。しまり、粘性ともやや強い。
2　黒褐色土　　径２～５mmの焼土粒少量、灰黄褐色粘質土微量が混入。しまり普通、粘性やや強い。

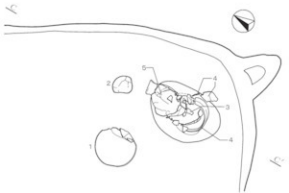
H-６号住居跡



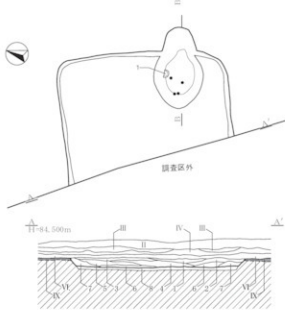
3区　H-６号住居跡土層説明

1　暗灰色土　　黒褐色粘質土少量、灰黄褐色粘質土微量、および径２～７mmの焼土粒微量が混入。しまり、粘性ともやや強。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、および径２～５mmの焼土粒がそれぞれ微量混入。しまり、粘性とも普通。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量混入。しまり、粘性ともやや強い。
4　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量、径２～５mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。
5　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径２～５mmの焼土粒が微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。

第21図　3区住居跡 (4)

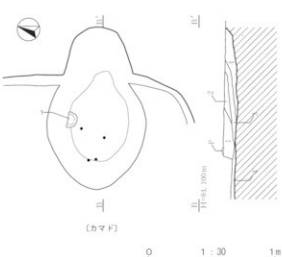


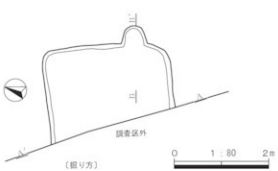
H-７号住居跡



3区　H-７号住居跡土層説明

1　暗灰色土　　黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量、径２～５mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
4　暗灰色土　　径２～５mmの焼土粒が少量、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
5　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、および径３～５mmの焼土粒が、それぞれ少量混入。しまり、粘性とも弱い。
6　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量、径２～５mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
7　暗灰色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土が少量、径２～５mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
8　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土および径２～５mmの焼土粒が少量混入。しまりやや強く、粘性は弱い。

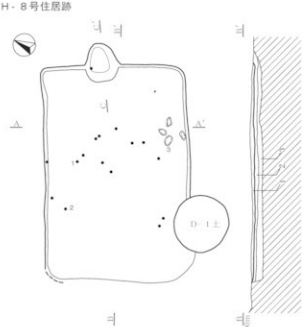




3区　H-７　カマド土層説明

1　暗灰色土　　径３～20mmの焼土粒および焼土ブロック、灰黄褐色粘質土がそれぞれ少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
2　暗灰色土　　径３～20mmの焼土粒および焼土ブロックが中量、黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、および径３～10mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
4　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土、および径２～５mmの焼土粒が少量、径１～３mmの炭化物粒が微量混入。しまり弱い、粘性やや強い。

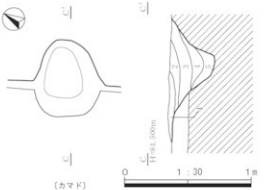
第 22 図　３区住居跡 (5)



3区　H－8号住居跡土層説明

1　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土、および径2～5mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土を主体とし、黒褐色粘質土、および径1～3mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

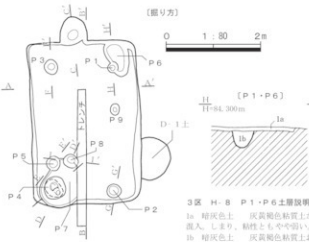
0　1：60　2m



〔カマド〕

3区　H－8　カマド土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土、径2～20mmの焼土粒および焼土ブロックが少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土、径2～20mmの焼土粒および焼土ブロックが中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土、および径2～10mmの焼土粒が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
4　暗灰色土　　径2～10mmの焼土粒が少量、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
5　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、および径2～10mmの焼土粒がそれぞれ微量混入。しまり、粘性とも弱い。別遺構であるピットの覆土の可能性あり。



3区　H－8　P1・P6土層説明

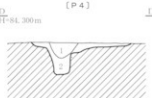
1a　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
1b　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

3区　H－8　P2土層説明

1　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

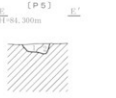
3区　H－8　P3土層説明

1　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも弱い。



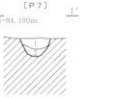
3区　H－8　P4土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～3mmの焼土粒が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
2　暗灰色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。



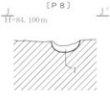
3区　H－8　P5土層説明

1　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも弱い。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土を主体とし、黒褐色粘質土が中量混入。しまり、粘性とも弱い。



3区　H－8　P7土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～3mmの焼土粒が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
2　暗灰色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも弱い。



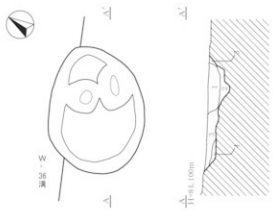
3区　H－8　P8土層説明

1　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも弱い。

0　1：40　1m

第23図　3区住居跡（6）

H－9号住居跡

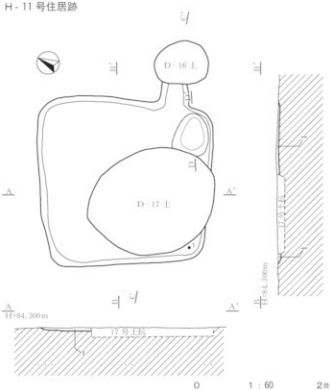


3区　H－9　カマド土層説明

1　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土、および径10～30mmの焼土ブロックが中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土、および径5～10mmの焼土粒が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が中量、径5～10mmの焼土粒が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
4　黒褐色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土が少量、径5～10mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。

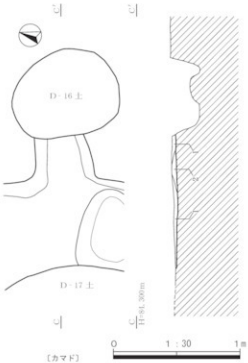
0　1：30　1m

H－11号住居跡



3区　H－11号住居跡土層説明

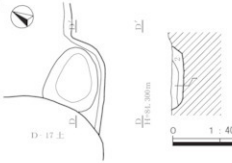
1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土、径5～20mmの焼土粒および焼土ブロックが少量混入。しまり普通、粘性やや強い。



3区　H－11　カマド土層説明

1　暗灰色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土、および径2～7mmの焼土粒が少量混入。しまり、粘性とも普通。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土、および径5～10mmの焼土粒が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。

〔貯蔵穴〕

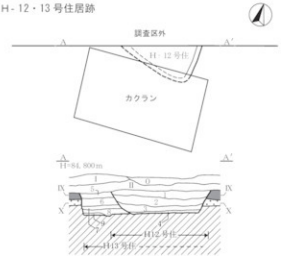


3区　H－11　貯蔵穴土層説明

1　暗灰色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土が少量、径2～5mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が中量混入。しまり、粘性とも普通。

第24図　3区住居跡（7）

H-12・13号住居跡



※ H-13号住居跡は断面でのみ確認

3区 H-12・13号住居跡土層説明

(H-12)

1 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、径1～3mmの焼土粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。

2 暗灰色土　黒褐色粘質土が少量、径1～3mmの焼土粒および灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。

3 暗灰色土　径3～8mmの焼土粒が少量、径1～3mmの炭化物粒、灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまり、粘性とも普通。

4 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、径1～3mmの焼土粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。床土。

(H-13)

5 暗灰色土　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量、径1～3mmの焼土粒、および径1～3mmの炭化物粒が、それぞれ微量混入。しまり、粘性とも普通。

6 暗灰色土　灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、および径1～3mmの焼土粒がそれぞれ少量、径1～3mmの炭化物粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。

7 暗灰色土　灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、および径1～3mmの焼土粒がそれぞれ少量、径3～5mmの炭化物粒が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。

8 暗灰色土　黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土、径1～3mmの焼土粒、および径3～5mmの炭化物粒が、それぞれ微量混入。しまり普通、粘性やや強い。

9 灰黄褐色土　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土、径1～3mmの焼土粒、および径3～5mmの炭化物粒が、それぞれ微量混入。しまり、粘性ともやや強い。床土。

0　1：60　2m

D-1号土坑

3区 D-1号土坑土層説明

1 暗灰色土　径2～3mmのAs-A中量、径2～5mmの炭化物粒微量が混入。しまり、粘性とも弱い。

2 暗灰色土　径2～3mmのAs-A少量が混入。しまり、粘性とも弱い。

3 暗褐色土　As-B混上に由来する土壌が主体、As-Bが中量混入。しまり、粘性とも弱い。

D-2号土坑

3区 D-2号土坑土層説明

1 暗灰色土　径2～3mmのAs-B中量、径3～5mmの炭化物粒微量が混入。しまり、粘性とも下やや強い。

2 暗灰色土　径2～3mmのAs-B、径3～5mmの炭化物粒微量が少量混入。しまり、粘性とも下やや強い。

3 暗褐色土　径2～3mmのAs-B少少量、径3～5mmの炭化物粒、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまり、粘性とも下やや強い。

4 暗灰色土　径2～3mmのAs-B少少量、径2～5mmの灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。

5 暗灰色土　径2～3mmのAs-B、および径2～5mmの灰黄褐色粘質土が、それぞれ少微量混入。しまり、粘性とも普通。

6 暗褐色土　径2～3mmのAs-B、および径2～5mmの灰黄褐色粘質土が、それぞれ少微量混入。しまり普通、粘性やや強い。

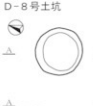
7 暗黄褐色土　径2～3mmのAs-B少少量、径2～5mmの灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。

D-3号土坑

D-4号土坑

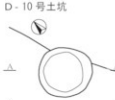
D-5号土坑

D-8号土坑



D-9号土坑

D-10号土坑



D-11号土坑

D-12号土坑

3区 D-3～12号土坑共通土層説明

1 暗灰色土　径2～3mmのAs-A中量混入。しまり、粘性とも弱い。

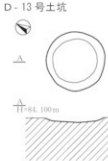
2 暗灰色土　径2～3mmのAs-A少量が混入。しまり、粘性とも弱い。

※ エレベーションを表示したものは、覆土1層のみ。

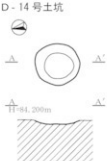
0　1：60　2m

第25図 3区住居跡 (8)、土坑 (1)

D - 13 号土坑



D - 14 号土坑

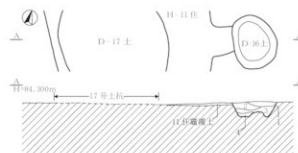


D - 15 号土坑

3区　D - 13～15 号土坑共通
土層説明

1　暗灰色土
径2～3mmのAs-Aが中量混入。
しまり、粘性とも弱い。

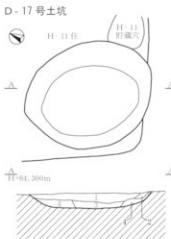
D - 16 号土坑



3区　D - 16 号土坑土層説明

1　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が中量、径2～5mmの焼土粒が微量混入。しまりやや弱く、粘性は普通。
2　暗灰色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土が少量、径2～7mmの焼土粒が微量混入。しまりやや弱く、粘性は普通。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が中量混入。しまりやや弱く、粘性は普通。
4　黒褐色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が中量混入。一部に鉄分の沈着が認められる。しまりやや弱く、粘性は普通。

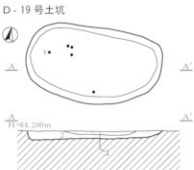
D - 17 号土坑



3区　D - 17 号土坑土層説明

1　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。鉄分の沈着がわずかに認められる。しまり、粘性とも普通。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや弱い。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
4　黒褐色土　　黒褐色粘質土を主体とし、灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。

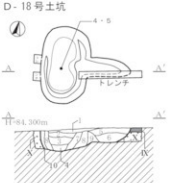
D - 19 号土坑



3区　D - 19 号土坑土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土を主体とし、径1～5mmの焼土粒が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土、および径1～5mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。

D - 18 号土坑



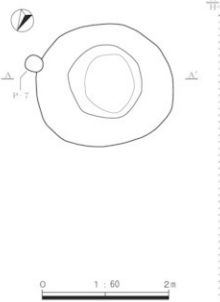
3区　D - 18 号土坑（火葬土坑）土層説明

1　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B、および径3～10mmの焼土粒が少量混入。しまり、粘性とも普通。
2　暗灰色土　　微量の骨片を含む。径1～2mmのAs-Bが少量、径3～10mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。
3　暗灰色土　　中量の骨片を含む。径1～2mmのAs-B、径5～30mmの焼土粒ないし焼土ブロック、および径5～50mmの炭化物粒ないし炭化物ブロックが、それぞれ少量混入。しまり、粘性とも普通。
4　暗灰色土　　中量の骨片を含む。径10～100mmの炭化物ブロックが中量、径10～50mmの焼土ブロックが少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性とも弱い。
5　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび径2～5mmの焼土粒が微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
6　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび径2～5mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。
7　暗灰色土　　下部に少量の骨片を含む。径1～2mmのAs-B、および径5～30mmの焼土粒ないし焼土ブロックが、それぞれ少量混入。しまり、粘性とも普通。
8　赤褐色土　　焼土を主体とし、径3～10mmの炭化物粒が中量混入。しまりやや強く、粘性やや弱い。
9　暗灰色土　　微量の骨片を含む。径2～10mmの焼土粒が少量、径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、および径2～5mmの炭化物粒が、それぞれ微量混入。しまり、粘性とも普通。
10　暗灰色土　　微量の骨片を含む。径1～2mmのAs-B、径3～10mmの焼土粒、および径2～5mmの炭化物粒がそれぞれ微量混入。しまり、粘性とも普通。

0　1：60　2m

第 26 図　3区土坑 (2)

I - 1号井戸（旧D－7）



3区　I - 1号井戸（旧D－7）土層説明

1　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、および径2～5mmの焼土粒がそれぞれ微量混入。しまり、粘性ともやや強。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強。
3　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土がそれぞれ微量混入。しまり、粘性ともやや強。
4　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強。
5　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性ともやや強。
6　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強。
7　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや強。
8　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土を主体とし、黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり非常、粘性やや強い。
9　灰黄褐色土　　砂粒および灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
10　黒褐色土　　砂粒および黒褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

P - 1号ピット

3区　P - 1土層説明

1　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまり非常、粘性やや強い。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも非強。
3　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性とも非強。

P - 2号ピット

3区　P - 2土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり非常、粘性やや強い。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも非強。

P - 3号ピット

3区　P - 3土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり非常、粘性やや強い。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも非強。

P - 4号ピット

3区　P - 4土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり非常、粘性やや強い。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも非強。

P - 5号ピット

3区　P - 5土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり非常、粘性やや強い。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも非強。

P - 6号ピット

3区　P - 6土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量。径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性とも非強。
2　暗灰色土
灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量。径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性とも非強。

P - 7号ピット

3区　P - 7土層説明

1　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまり、粘性とも非強。
2　暗灰色土　　黒褐色粘質土が少量。径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも非強。

P - 8号ピット

3区　P - 8土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が少量。径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり非常、粘性やや強い。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量。径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも非強。

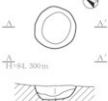
P - 9号ピット

3区　P - 9土層説明

1　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも非強。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量。径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性とも非強。

第27図　3区井戸、ピット（1）

P-10号ピット



3区 P-10
土層説明
1 灰黄褐色土 灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
2 暗灰色土 黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性ともやや強い。

P-11号ピット

3区 P-11 土層説明
1 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
2 灰黄褐色土 灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまりやや強く、粘性は弱い。
3 暗灰色土 黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり弱い、粘性やや強い。

P-12号ピット

3区 P-12
土層説明
1 灰黄褐色土 灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり弱い、粘性やや強い。
2 灰黄褐色土 灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

P-13号ピット

3区 P-13 土層説明
1 灰黄褐色土 灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや強い。
2 灰黄褐色土 灰黄褐色粘質土を主体とし、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。

P-14号ピット

3区 P-14 土層説明
1 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が中量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
2 暗褐色土 灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、および径1～3mmの炭化物粒が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
3 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

P-15号ピット

3区 P-15 土層説明
1 暗灰色土 灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
2 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
3 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
4 黒褐色粘質土を主体とし、灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

P-16号ピット

3区 P-16 土層説明
1 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
2 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

P-17号ピット

3区 P-17 土層説明
1 暗灰色土 灰黄褐色粘質土を主体とし、黒褐色粘質土が少量混入。しまり弱い、粘性やや強い。
2 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
3 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

P-18号ピット

3区 P-18 土層説明
1 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
2 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
3 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり弱い、粘性やや強い。

P-19号ピット

3区 P-19
土層説明
1 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
2 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

P-20・21号ピット

3区 P-20・21 土層説明
1 灰黄褐色土 灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり弱い、粘性やや強い。

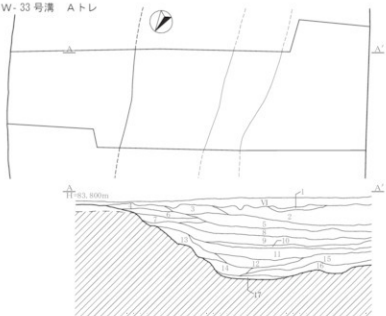
P-22号ピット

3区 P-22 土層説明
1 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり弱い、粘性やや強い。
2 暗灰色土 灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土、および径1～3mmの炭化物粒が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
3 暗灰色土 黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

0 1:40 1m

第28図 3区ピット (2)

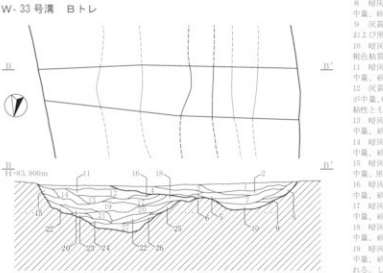
W-33号溝　Aトレ



3区　W-33号溝　Aトレ土層説明

1　暗灰色土　　黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
4　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量、径1～3mmの焼土粒が微量混入。しまり やや強く。粘性は普通。
5　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
6　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土および径1～3mmの焼土粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。
7　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
8　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
9　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が少量、砂粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。
10　暗灰色土　　砂粒を主体とし、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
11　灰黄褐色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり 普通、粘性やや強い。
12　灰黄褐色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
13　灰黄褐色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
14　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。一部に鉄分の沈着が認められる。しまり普通、粘性やや強い。
15　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
16　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
17　暗灰色土　　砂粒を主体とし、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。

W-33号溝　Bトレ

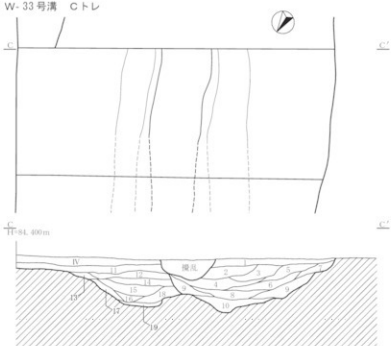


3区　W-33号溝　Bトレ土層説明

1　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が中量、砂粒が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
2　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量、砂粒が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
3　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。
4　灰黄褐色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が微量混入。3に似るが、灰黄褐色粘質土がより多い。しまり、粘性とも普通。
5　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
6　暗灰色土　　砂粒、およびIr-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
7　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が少量混入。一部に鉄分の沈着が認められる。しまり普通、粘性やや強い。
8　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
9　灰黄褐色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土が中量、砂粒が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
10　暗灰色土　　砂粒、およびIr-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量混入。しまり普通、粘性やや強い。
11　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
12　灰黄褐色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。鉄分の沈着が顕著。しまり、粘性とも普通。
13　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
14　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり やや強く、粘性は普通。
15　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量、砂粒が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。
16　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が微量混入。鉄分の沈着が顕著。しまり普通、粘性やや強い。
17　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
18　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
19　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。鉄分の沈着がわずかに認められる。しまり普通、粘性やや強い。
20　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
21　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が少量混入。しまり、粘性ともやや強い。
22　暗灰色土　　Ir-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が少量混入。一部に鉄分の沈着が認められる。しまり、粘性ともやや強い。
23　暗灰色土　　砂粒を主体とし、灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも弱い。
24　暗灰色土　　砂粒、およびIr-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
25　暗灰色土　　砂粒、およびIr-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が中量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
26　暗灰色土　　砂粒、およびIr-FA・FP 泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり弱く、粘性やや弱い。
27　暗灰色土　　砂粒を主体とし、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。

第29図　3区溝(1)

W-33号溝　Cトレ



3区　W-33号溝　Cトレ土層説明

1　暗灰色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性ともに弱い。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-B、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまり、粘性ともに弱い。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-B、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
4　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
5　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
6　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
7　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
8　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、砂粒および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
9　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。
10　暗灰色土　　砂粒を主とし、灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや弱い。

（旧溝）

11　暗灰色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
12　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。
13　灰黄褐色粘質土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
14　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
15　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。
16　暗灰色土　　砂粒および灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
17　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、砂粒が微量混入。しまり普通、粘性やや弱い。
18　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや弱い。
19　暗灰色土　　砂粒を主体とし、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。

W-33号溝　Dトレ

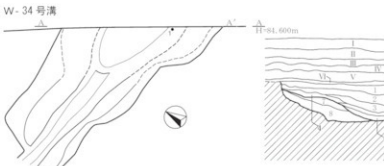
3区　W-33号溝　Dトレ土層説明

1　暗灰色土　　黒褐色粘質土が中量、灰黄褐色粘質土および径2～5mmの焼土粒が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性とも普通。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
4　暗灰色土　　砂粒を主体とし、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
5　暗灰色土　　砂粒が中量、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

（旧溝）

6　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。鉄分の沈着が一部で認められる。しまり、粘性とも普通。
7　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量、砂粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。
8　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
9　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、砂粒が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
10　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量、砂粒が微量混入。しまり、粘性とも普通。
11　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。
12　暗灰色土　　砂粒が中量、灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
13　暗灰色土　　砂粒および灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
14　暗灰色土　　砂粒を主とし、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。

W-34号溝



3区　W-34号溝土層説明①

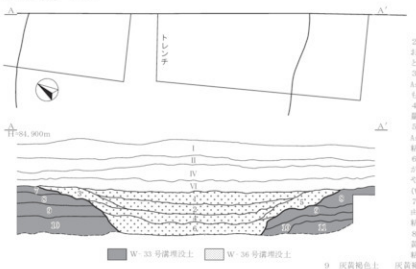
1　暗褐色土　　径1～2mmのAs-Bが少量、灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土および径2～5mmの焼土粒がそれぞれ微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
2　暗褐色土　　径1～2mmのAs-B、および径2～5mmの焼土粒が少量、灰黄褐色粘質土、黒褐色粘質土、および径2～5mmの炭化物粒がそれぞれ微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。

第30図　3区溝（2）

3区 W-34号溝土層説明 ②

3 暗褐色土　径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が少量、砂粒、灰黄褐色粘質土、および径2～5mmの焼土粒がそれぞれ微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
4 黒褐色土　黒褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-B、砂粒、および灰黄褐色粘質土がそれぞれ微量混入。しまり、粘性ともやや強い。
5 黒褐色土　黒褐色粘質土を主体とし、径1～2mmのAs-B、砂粒、および灰黄褐色粘質土がそれぞれ微量混入。しまり、粘性ともやや強い。
6 暗褐色土　黒褐色粘質土が中量、径1～2mmのAs-Bおよび砂粒が少量。灰黄褐色粘質土が微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
7 暗褐色土　径1～2mmのAs-B、砂粒、およびHr-FA・FP泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。
8 暗褐色土　砂粒が中量、径1～2mmのAs-Bが少量、Hr-FA・FP泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや強い。

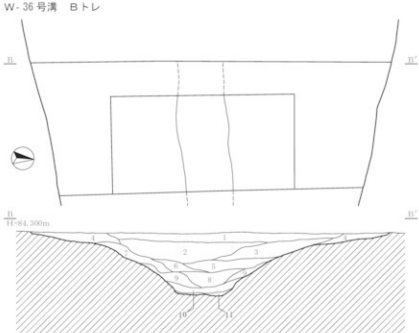
W-36号溝　Aトレ



3区 W-33・36号溝 Aトレ土層説明

(W-36)
1 暗灰色土　径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
2 暗灰色土　径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
3 暗灰色土　黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
4 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
5 暗灰色土　黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
6 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや強い。
(W-33)
7 暗灰色土　黒褐色粘質土が中量、Hr-FA・FP泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
8 暗灰色土　Hr-FA・FP泥流に由来するとみられる灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土が中量混入。しまり、粘性とも普通。
9 灰黄褐色土　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。一部に鉄分の沈着が認められる。しまりやや強く、粘性は普通。
10 灰黄褐色土　灰黄褐色粘質土が中量、黒褐色粘質土が微量混入。一部に鉄分の沈着が認められる。しまり、粘性とも普通。
11 暗灰色土　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量混入。しまり普通、粘性やや強い。

W-36号溝　Bトレ



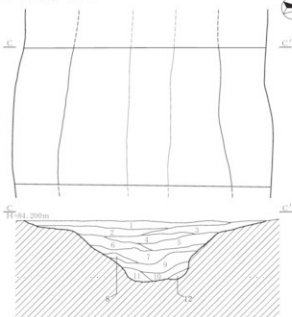
3区 W-36号溝 Bトレ土層説明

1 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。鉄分の沈着がわずかに認められる。しまり、粘性とも普通。
2 暗灰色土　径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。しまり、粘性とも普通。
3 暗灰色土　黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
4 暗灰色土　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。一部に鉄分の沈着が認められる。しまり、粘性とも普通。
5 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
6 暗灰色土　径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
7 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
8 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、砂粒および黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通、粘性やや弱い。
9 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまりやや弱く、粘性は普通。
10 暗灰色土　径1～2mmのAs-Bおよび砂粒が中量、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。
11 暗灰色土　砂粒を主体とし、径1～2mmのAs-Bが少量、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも弱い。

0　1：60　2m

第31図 3区溝 (3)

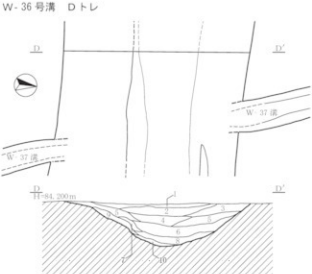
W-36号溝　Cトレ



3区　W-36号溝　Cトレ土層説明

1　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量混入。わずかに鉄分の沈着が認められる。しまり、粘性とも普通。
2　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bが少量、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
3　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bが少量、灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
4　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量混入。しまり、粘性とも普通。
5　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
6　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
7　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bが中量、灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。わずかに鉄分の沈着が認められる。しまり普通。粘性やや強い。
8　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bが少量、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまり普通。粘性やや強い。
9　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。一部に鉄分の沈着が認められる。
10　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B、砂粒、および灰黄褐色粘質土が少量、黒褐色粘質土が微量混入。一部に鉄分の沈着が認められる。しまりやや弱く、粘性は普通。
11　灰黄褐色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-B、砂粒、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。鉄分の沈着が顕著。しまり普通。粘性やや強い。
12　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび砂粒が微量混入。しまり、粘性ともやや弱い。

W-36号溝　Dトレ



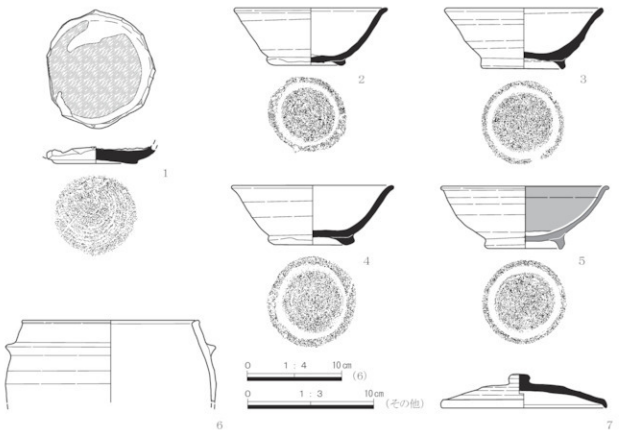
3区　W-36号溝　Dトレ土層説明

1　暗灰色土　　径1～2mmのAs-Bが少量、灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が微量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
2　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
3　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土および黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bが微量混入。しまり、粘性とも普通。
4　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。微少の沈着がわずかに認められる。しまりやや強く、粘性は普通。
5　暗灰色土　　径1～2mmのAs-B、灰黄褐色粘質土、および黒褐色粘質土が、それぞれ少量混入。しまりやや強く、粘性は普通。
6　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-B、砂粒、および黒褐色粘質土が、それぞれ微量混入。一部に鉄分の沈着が認められる。しまりやや弱く、粘性は普通。
7　暗灰色土　　灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
8　暗灰色土　　砂粒および灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。鉄分の沈着がわずかに認められる。しまり、粘性ともやや弱い。
9　暗灰色土　　黒褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび灰黄褐色粘質土が微量混入。しまり、粘性とも普通。
10　暗灰色土　　砂粒が中量、灰黄褐色粘質土が少量、径1～2mmのAs-Bおよび黒褐色粘質土が微量混入。しまり弱く、粘性やや弱い。

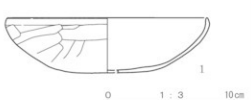
第32図　3区溝(4)

H－1号住居跡

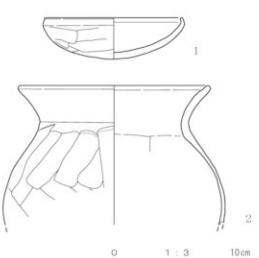
H－2号住居跡



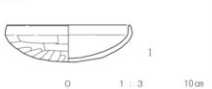
H－3号住居跡



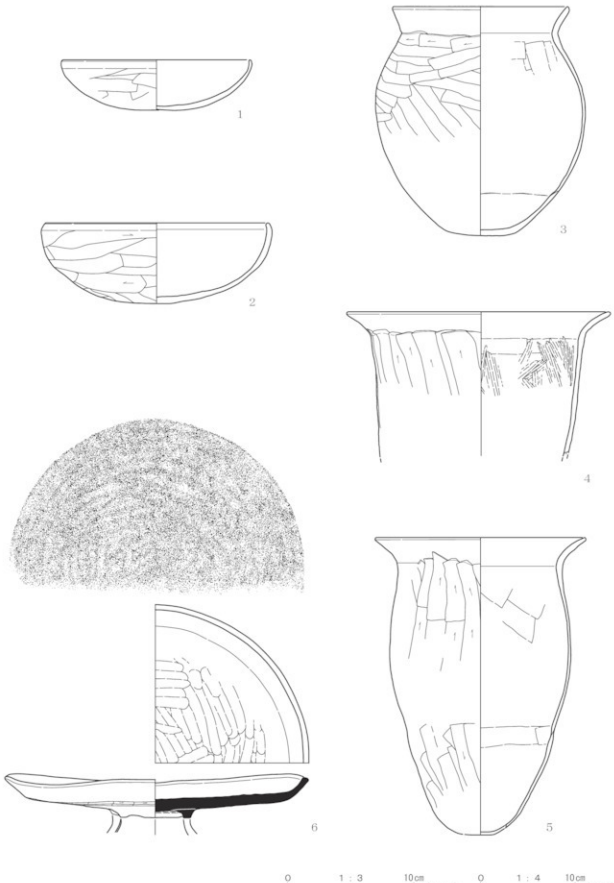
H－4号住居跡



H－7号住居跡

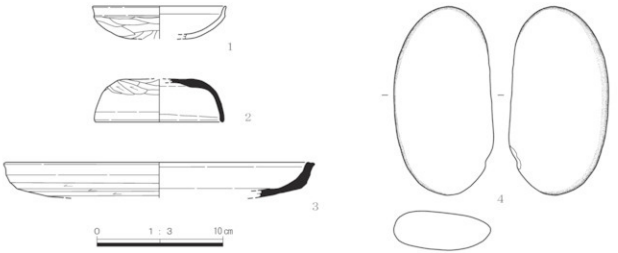


第33図 3区出土遺物 (1)

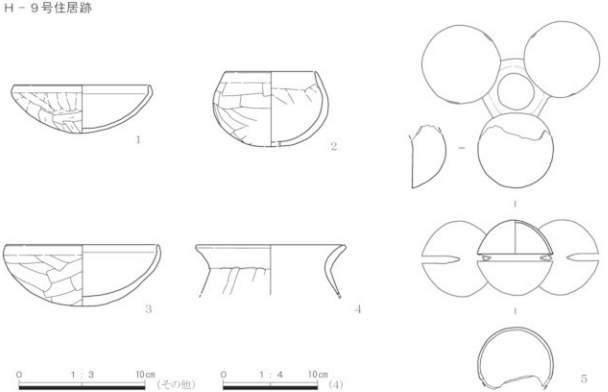


第34図 3区出土遺物（2）

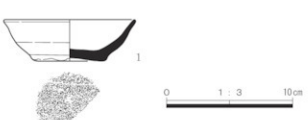
H－8号住居跡



H－9号住居跡

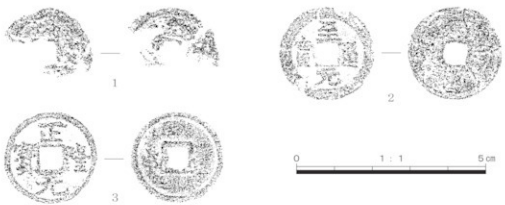


H－11号住居跡



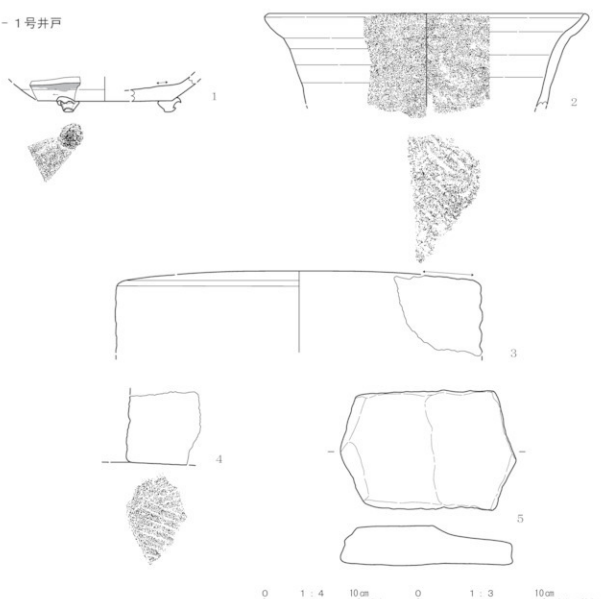
第35図 3区出土遺物（3）

D－18 号土坑



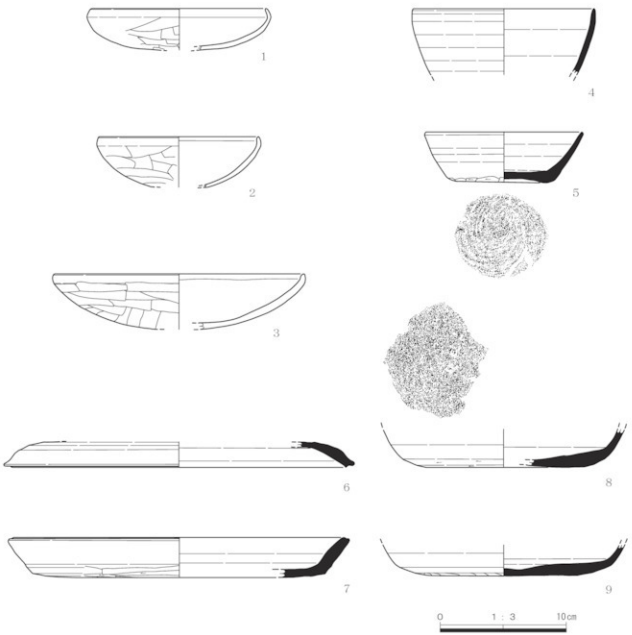
D－19 号土坑

Ⅰ－１号井戸

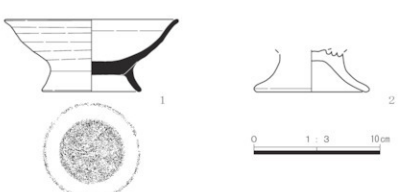


第 36 図　３区出土遺物 (4)

W-33号溝

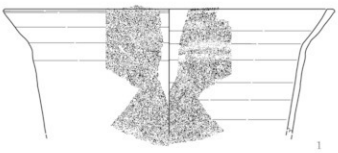


W-34号溝

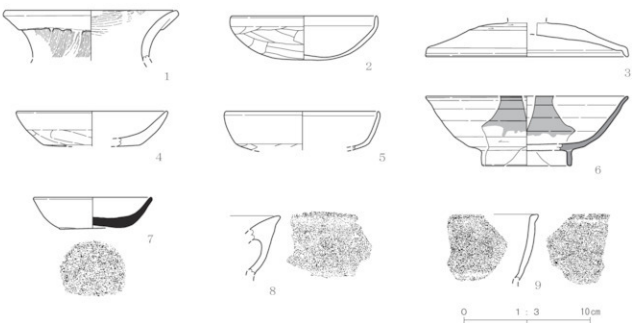


第37図 3区出土遺物 (5)

W-36 号溝



遺構外



第 38 図 3 区出土遺物 (6)

第９表　Ｈ－１号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	羽釜	口径（21.8） 器高（6.4）	①還元炎気味 ②にぶい橙 ③細砂粒 ④口縁部～体部1/8	外面：輪積整形。鍔貼付。 内面：輪積整形。	二次的被熱。
2	羽釜	口径（17.4） 器高（5.7）	①還元炎気味 ②にぶい橙 ③細砂粒・石英 ④口縁部～体部1/6	外面：輪積整形。体部縦位篦ケズリ。鍔貼付。 内面：輪積整形。	

第 10 表　Ｈ－２号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 坏	底径　6.6 器高（1.4）	①還元炎気味 ②にぶい橙 ③細砂粒 ④口縁部～体部1/8	外面：輪積整形。底部右回転糸切り。 内面：輪積整形。	内底面磨滅。 転用硯。
2	須恵器 碗	口径　12.0 底径　5.5 器高　4.6	①還元炎 ②灰 ③細砂粒・石英 ④口はぼ完形	外面：輪積整形。底部回転糸切り。 内面：輪積整形。底面回凸が残る。	
3	須恵器 碗	口径　12.3 底径　6.4 器高　4.8	①酸化炎気味 ②にぶい黄橙 ③細砂粒・白色粒 ④はぼ完形	外面：輪積整形。 内面：輪積整形。	
4	須恵器 碗	口径（12.6） 底径　5.6 器高　4.7	①酸化炎気味 ②にぶい褐 ③細砂粒・石英・雲母・片岩 ④口縁～体部1/2	外面：輪積整形。底部回転糸切り。高台貼付。 内面：輪積整形。	
5	灰釉陶器 碗	口径（13.9） 底径　5.9 器高　4.9	①堅緻 ②灰白 ③白色粒 ④口縁～体部1/3	外面：輪積整形。底部回転糸切り後、右回転篦ケズリ。高台貼付。 内面：輪積整形。	
6	羽釜	口径（18.6） 器高（8.7）	①還元炎気味 ②褐灰 ③細砂粒・石英 ④口縁～体部1/6	外面：輪積整形。鍔貼付。 内面：輪積整形。	
7	須恵器 蓋	口径（13.0） 器高　2.7	①酸化炎気味 ②浅黄 ③細砂粒・黒色鉱物・片岩 ④口縁部1/2	外面：輪積整形。天井部回転篦ケズリ。摘み貼付。 内面：輪積整形。	

第 11 表　Ｈ－３号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径（15.8） 器高　4.4	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒 ④口縁部～体部3/8	外面：口縁部横ナデ。体部篦ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部ナデ。	

第 12 表　Ｈ－４号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径（10.9） 器高　3.4	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒 ④3/4	外面：口縁部横ナデ。体部篦ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部ナデ。	
2	土師器 甕	口径（15.0） 器高（11.0）	①酸化炎 ②灰褐 ③細砂粒・赤色粒 ④口縁部～体部1/3	外面：口縁部横ナデ。体部斜位篦ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部篦ナデ。	

第 13 表　Ｈ－６号住居跡出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 坏	口径（14.8） 器高　4.0	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒 ④1/7	外面：口縁部横ナデ。体部篦ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部ナデ	
2	土師器 坏	口径（17.6） 器高　6.4	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒・石英 ④1/2	外面：口縁部横ナデ。体部篦ケズリ。 内面：口縁～体部上位横ナデ。体部下位篦ナデ。	
3	土師器 甕	口径（18.4） 器高　24.2	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒・雲母・片岩 ④1/2	外面：口縁部横ナデ。体部～底部横・斜位篦ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部～底部篦ナデ。	
4	土師器 甕	口径（27.9） 器高（17.2）	①酸化炎 ②橙 ③粗砂粒・石英・チャート・片岩 ④口縁～体部上半4/5	外面：口縁部横ナデ。体部斜・縦位篦ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部横位篦ケズリ後篦ナデ。	
5	土師器 甕	口径（22.3） 器高　31.3	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒・黒色粒・チャート ④口縁部1/6、体部2/1	外面：口縁部横ナデ。体部斜・縦位篦ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。体部中位横ナデ。その他篦ナデ。	
6	須恵器 高盤	口径　32.1 器高（4.5）	①還元炎 ②灰白 ③細砂粒・白色粒 ④口縁部2/3、台部欠	外面：体部～底部左回転篦ケズリ。台部に一対の透し孔。 内面：底部指ナデ。	台部割れ口を磨って平滑にしている。

第 14 表　H－ 7 号住居跡出土遺物観察表

番号	器 種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備 考
1	土師器 坏	口径（9.8） 器高　2.9	①酸化炎 ②にぶい赤褐 ③細砂粒・黒色鉱物 ④1/2	外面：口縁部横ナデ。体部箆ケズリ。 内面：口縁～体部上位横ナデ。底部箆ナデ。	

第 15 表　H－ 8 号住居跡出土遺物観察表

番号	器 種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備 考
1	土師器 坏	口径（10.4） 器高　2.6	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒 ④1/5	外面：口縁部横ナデ。体部箆ケズリ。 内面：口縁～体部上位横ナデ。体部下位ナデ	
2	須恵器 蓋	口径（10.2） 器高　3.4	①還元炎 ②灰 ③細砂粒 ④1/4	外面：輪幅整形。天井部箆ケズリ。 内面：輪幅整形。	
3	須恵器 盤	口径（24.4） 器高（2.8）	①還元炎 ②灰 ③細砂粒・石英 ④1/10	外面：輪幅整形。体部右回転箆ケズリ。 内面：輪幅整形。口縁部上端に沈線 1 条。	
番号	器 種		法量（cm）、成・整形技法の特徴		備 考
4	石製品		滑網石	長さ 14.9　幅 7.7　厚さ 3.0　重さ 598.86g。　閃緑岩製。	

第 16 表　H－ 9 号住居跡出土遺物観察表

番号	器 種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備 考
1	土師器 坏	口径（10.8） 器高　3.8	①酸化炎 ②明赤褐 ③細砂粒・黒色粒 ④1/2	外面：口縁部横ナデ。体部箆ケズリ。 内面：箆ナデ後横ナデ。	
2	土師器 坏	口径　12.0 器高　4.9	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒・軽石 ④江戸定形	外面：体部箆ケズリ。 内面：口縁～体部上位横ナデ。	
3	土師器 小型鉢	口径（7.1） 器高　5.9	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒・黒色粒・軽石 ④1/3	外面：体部箆ケズリ。 内面：体部指ナデ。	
4	土師器 甕	口径（15.4） 器高（5.2）	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒 ④1/8	外面：体部縦位箆ケズリ。	
番号	器 種		法量（cm）、成・整形技法の特徴		備 考
5	銅製品	三環鈴	鈴部破片。		

第 17 表　H－11 号住居跡出土遺物観察表

番号	器 種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備 考
1	須恵器 坏	口径（10.4） 底径　5.4 器高　3.3	①酸化炎気味 ②灰白 ③細砂粒・赤色粒 ④1/2	外面：輪幅整形。底部回転糸切り後箆ナデ。 内面：輪幅整形。	

第 18 表　D－18 号土坑出土遺物観察表

番号	器 種	法量（cm）、成・整形技法の特徴	備 考
1	銅製品	古銭	2・3と銹着。銭種不明。
2	銅製品	古銭	1・3と銹着。銭種不明。
3	銅製品	古銭	1・2と銹着。銭種不明。
4	銅製品	古銭	「至道元寶」。 995 年初鋳。 直径 2.50　孔幅 0.65　厚さ 0.13　重さ 2.34 g。
5	銅製品	古銭	「正隆元寶」。 1158 年初鋳。 直径 2.48　孔幅 0.63　厚さ 0.15　重さ 2.61 g。

第 19 表　D－19 号土坑出土遺物観察表

番号	器 種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備 考
1	土師器 坏	口径（11.0） 器高　2.9	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒・赤色粒 ④1/4	外面：口縁部横ナデ。体部箆ケズリ。 内面：口縁～体部上位横ナデ。体部下位ナデ。	

第 20 表　Ⅰ－１号井戸跡出土遺物観察表

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	陶器大皿	底径（10.6） 器高（2.2）	①堅緻 ②灰白 ③細砂粒 ④1/6、脚１ヵ所残。	外面：輪積整形。右回転糸切り。脚状の脚貼付。破損部から上に施釉。 内面：輪積整形。破損部から上に施釉。	古瀬戸。 内底面が輪状に厚軽。
2	軟質陶器鉢	口径（33.4） 器高（9.7）	①還元炎 ②黄灰 ③細砂粒・黒色粒 ④1/5	外面：輪積整形。体部下位ナデ。 内面：輪積整形。	
番号	器　種		法量（cm）、成・整形技法の特徴		備　考
3	石製品	石白	下白片。安山岩製。　径（29.1）高さ（6.4）。　側面をハツリ。		
4	石製品	石白	上白片。安山岩製。　高さ（5.7）。　磨り合せ面に条線。		
5	石製品	不明品	安山岩製。　高さ14.1　幅9.4　厚さ3.3　重さ731.9g。		

第 21 表　Ｗ－33 号溝出土遺物観察表

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	土師器坏	口径（13.8） 器高　2.7	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒 ④1/6	外面：口縁部横ナデ。体部指ケズリ。 内面：口縁部横ナデ。	
2	土師器坏	口径（12.6） 器高（4.0）	①酸化炎 ②明赤褐 ③細砂粒・雲母 ④1/4	外面：口縁部横ナデ。体部指ケズリ。 内面：箆ナデ。	
3	土師器坏	口径（19.8） 器高（4.4）	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒・黒色粒 ④1/3	外面：口縁部横ナデ。体部指ケズリ。 内面：口縁～体部上半横ナデ。底部ナデ。	
4	須恵器鉢	口径（17.8） 器高（5.1）	①還元炎 ②灰白 ③細砂粒 ④1/10	外面：輪積整形。 内面：輪積整形。	
5	須恵器碗	口径（12.4） 底径（6.9） 器高（4.0）	①還元炎 ②灰白 ③細砂粒・石英・黒色粒 ④口縁～体部2/3	外面：輪積整形。底部右回転糸切り。底部周縁箆ケズリ。 内面：輪積整形。	
6	須恵器蓋	口径（27.8） 器高（2.0）	①還元炎 ②灰白 ③細砂粒・石英・黒色鉱物 ④1/14	外面：輪積整形。天井部左回転箆ケズリ。 内面：輪積整形。	
7	須恵器盤	口径（27.2） 底径（23.2） 器高　3.1	①還元炎 ②灰白 ③細砂粒・石英・黒色粒 ④1/10	外面：輪積整形。底部周縁箆ケズリ。 内面：輪積整形。口縁端部に一条の沈線。	
8	須恵器盤	底径（13.0） 器高（3.0）	①還元炎 ②灰白 ③細砂粒・石英 ④1/4	外面：輪積整形。底部右回転箆ケズリ。 内面：輪積整形。底面ナデ。	内底面に焼成後のＸ印線刻。
9	須恵器盤	底径（11.6） 器高（2.5）	①還元炎 ②灰白 ③細砂粒・黒色粒 ④1/3	外面：輪積整形。底面箆ケズリ。底部周縁回転箆ケズリ。 内面：輪積整形。	

第 22 表　Ｗ－34 号溝出土遺物観察表

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	須恵器碗	口径（13.6） 底径　7.6 器高　5.7	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒・白色粒 ④口縁～体部2/3	外面：輪積整形。高台貼付。 内面：輪積整形。	
2	土師器台付甕	底径　8.8 器高（3.3）	①酸化炎 ②にぶい黄褐 ③細砂粒・赤色粒 ④脚部1/4	外面：上部横刷毛目。脚部縦ナデ。 内面：寰底面刷毛目。台部底面ナデ。脚部横ナデ。	

第 23 表　Ｗ－36 号溝出土遺物観察表

番号	器　種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備　考
1	軟質陶器内耳鍋	口径（34.6） 器高（13.1）	①還元炎 ②褐灰 ③細砂粒・白色粒・軽石 ④1/10	外面：輪積整形。体部下位ナデ。 内面：輪積整形。	外面全体に煤。

第 24 表　3区遺構外出土遺物観察表

番号	器種	法量（cm）	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 壺	口径（13.6） 器高（3.7）	①酸化炎 ②浅黄 ③細砂粒・石英・黒色鉱物 ④1/8	外面：折返し口縁。口縁部横ナデ。頸部縦位刷毛目後横ナデ。 内面：横位強ナデ。	
2	土師器 坏	口径（11.4） 器高　3.5	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒・黒色鉱物 ④1/2	外面：口縁部横ナデ。体部～底部強ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。底部ナデ。	
3	須恵器 蓋	口径（15.8） 器高（2.7）	①還元炎 ②褐灰 ③細砂粒 ④1/4	外面：軸幅整形。天井部と体部の境を左回転強ケズリ。 内面：軸幅整形。	
4	土師器 坏	口径（11.8） 底径（7.4） 器高　2.6	①酸化炎 ②明黄褐 ③細砂粒・石英・雲母 ④1/7	外面：口縁部横ナデ。体部～底部強ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
5	土師器 坏	口径（12.0） 器高（3.1）	①酸化炎 ②橙 ③細砂粒・黒色粒 ④2/5	外面：口縁～体部横ナデ。底部強ケズリ。 内面：口縁～体部横ナデ。	
6	灰釉陶器 碗	口径（15.8） 底径（7.0） 器高　5.5	①堅緻 ②灰白 ③白色粒 ④1/8	外面：軸幅整形。体部下位右回転強ケズリ。高台貼付。 内面：軸幅整形。	
7	須恵器 坏	口径　9.4 底径　5.1 器高　2.5	①酸化炎気味 ②灰褐 ③細砂粒・赤色粒・黒色鉱物 ④3/5	外面：軸幅整形。底部右回転糸切り。 内面：軸幅整形。	
8	軟質陶器内耳鍋		①酸化炎 ②にぶい褐 ③細砂粒・チャート・赤色粒・雲母粒 ④口縁部片	外面：軸幅整形。 内面：軸幅整形。把手貼付。	
9	軟質陶器内耳鍋		①酸化炎 ②褐 ③細砂粒 ④口縁部片	外面：軸幅整形。 内面：軸幅整形。	外面全体に煤。

Ⅷ まとめ

今回の調査においては、平安時代末期の水田跡を中心としつつも、集落跡、中世の居住痕跡や葬制の一端など、各種にわたる遺構の検出をみた。これらの成果について、前章までの記載を補足しつつ、以下に概括する。

水田跡の概要

1・2区においては、主としてAs-B直下、平安時代末期に機能を停止した水田跡が検出された。両区とも道路予定地に相当し、東西に細長い範囲を対象としていることから、面積、配列など水田区画のあり方を詳らかにすることは難しかった。また、「条里地割」は一町（約109m）四方の「坪」を最小単位としており、坪境の一部である南北大畦畔の検出を当初予測していたが、明らかに該当するものは確認されなかった。この結果については、①当該地において、変削的な地割が採用された、②大畦畔は残存状態の良好でない箇所に本来位置していた、③作業時の安全確保のため調査対象外とした農道周辺の直下に存在する、以上3つの可能性を指摘しうる。

水田面のようすを観察すると、黒味を帯びた箇所ばかりでなく、畦畔に囲まれていなければ水田と呼ぶのをためらうような、黄褐色に近い色調を呈する箇所も認められる（第39図）。これは水田土壌の形成が、隣り合う水田面の間でも異なること、ひいては耕作に伴う労力の投下に量的差異があったことを示唆するものであろう。

2区西部では、部分的な調査ながら、古墳時代後期の水田跡が検出された。水田面は、Hr-FA・FP泥流層の直下、およびAs-Cの混土層の上に位置している。検出当初は新旧2期に細分しうると考えたが、土層断面の検討などから、畦畔の基部付近にて検出した場合と、水田跡の上に泥流ないしそれに由来する土が被覆した状態で認識したケースと、見かけ上の検出レベルは異なるものの、同一時期の水田面と判断される。これらの水田面と同様の土壌は、1・2区内のサブトレンチの随所で認められ、当該期水田が周囲の広範囲に展開していたことが推測される。

溝状遺構のあり方

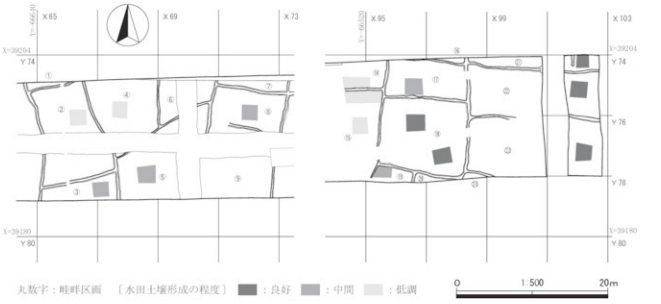
40条余り検出された溝の大半は、主として平安時代末期のAs-B層下水田に関連する水利施設の一部と考えられる。1区W-2・13号、2区W-25号は、水田面が途切れる範囲の境界を流れる水路と見なしうる。1区W-10・11号の時期については、断定できないものの古墳時代にさかのぼる可能性もある。2区の西端で重複するように検出されたW-40～45号は、As-B層下水田より古い時期に属し、低地と微高地の端境において、周囲の土地利用の変遷に応じて水路も更新されていった消息を物語るものと思われる。

1区W-1号は土橋状に途切れる箇所を有し、2区W-28号は検出範囲の南西端で屈曲するなど、水路としてはやや異質で、区画溝の可能性を考慮する必要がある。3区のW-33・36号も水路にとどまらない性質を帯びるとみられるが、この2条については後述する。

2期の集落

3区において検出された竪穴住居跡12軒の推定時期の内訳は、古墳時代後期が1軒（H-5号）、7世紀後半が6軒（H-3・4、6～9号）、10世紀前半が1軒（H-2号）、10世紀後半が2軒（H-1、11号）、不明が2軒（H-12・13号）となっている。7世紀後半に集落設営のピークがあり、その後300年近くの空白期をはさみ、10世紀代に再び占地がみられるという、特徴的な盛衰をたどっている。

7世紀後半の集落は、以下のような個性をもつ。まず、出土遺物に一定の特色があり、通常の集落跡において普遍的には含まれない遺物が見られる。H-6、8号にて白みの強い胎土の須恵器盤が複数個体、H-6号ではさらに類似の胎土をもつ須恵器高盤が出土したほか、H-9号のカマドの底跡付近からは馬具と目される三環鈴の鈴部破片が見つかっている。とりわけ三環鈴に関しては、古墳の副葬品として出土する事例が比較的多いとはいえ、群馬県域においてもいまだ数例の出土が知られるのみである。本遺跡群の北東1kmほどに位置する広瀬古墳群との関連がひとまず想起されるが、5世紀～6世紀初めごろの所産に限られる文物が7世紀後半の住居跡のカマド付近に残置されるまでの経緯は、にわかに解き明かしがたい。ここでは消極的ながら、性質・用途を転じて断片が伝



第 39 図 水田土壌形成の差異（1 区）

参考写真 朝倉工業団地遺跡群周辺の航空写真（1948 年 4 月 米軍撮影 およそ 1:10,000 に加工）

世された可能性を示すにとどめたい。

また、７世紀後半の住居跡は、そのいずれもがW－33 号溝の西側に位置しており、同溝が集落を区画の役割を果たしているように見受けられる。底面において水流の痕跡である砂粒の堆積が認められるなど、W－33 号溝が用水路として機能していた可能性も否定できないが、同時にその存在により集落が内区と外区を分けていた見るのも不自然ではない分布状況である。

その他の遺構（区画溝、火葬施設）

３区W－36 号溝は、規模・形状、覆土の特徴、出土遺物などにより、中世に属する区画溝とみられ、居館跡の一部をなす可能性が考えられる。覆土の堆積状況（第 31･32 図）からは､向かって南から堆積が進む傾向がうかがえ、大半が調査区外である溝の南側が内区に相当すると見ることもできる。

また、W－36 号溝の北側では、火葬土坑であるD－18 号土坑が検出されている。平安時代末期以降に流通が本格化した北宋銭が出土しており、中世の火葬跡と推測される。特記すべきは被熱により破砕した骨片の残存量で、その多さから､正規の場所に収めるため取り上げられた骨の少ないことが明らかであった。往時から今日に至るまで、火葬の際の骨の取り上げ方にはおおむね汎時代的な地域差があり、東日本ではすべての骨を残さず拾うのが基本である（全部拾骨、東日本タイプ）のに対し、西日本では選んで取り上げるのが通例（部分拾骨、西日本タイプ）とされる（楢崎 2008)。D－18 号土坑も､西日本に多い部分拾骨の結果残された火葬土坑とみて大過ないであろう。

地割の継続

今回の調査では、１区W－13・14 号溝、２区W－28 号溝、３区W－33 号溝などのように、本来の機能を停止してから完全に埋没するまでの間、途中で掘り直され、あるいは長い年月の間に性質・機能を転じながら利用されてきた遺構がいくつか認められた。また、用水路の一部では、時代をまたいで利用され、当初の構築時期と、覆土の特徴から推測する時期（埋没開始時期）とが合致しない可能性も考慮に入れるべきである。こと条里地割に関しては、近代以降にまで残存する場合すらあり、遺跡調査の成果を考えるうえで、大規模開発が及ばない時代の絵図や航空写真などは示唆的といえる。本項では参考として、終戦直後の昭和 23 年に撮影された、古い時代の地割を活写した航空写真を掲載しておく。表紙の写真と比較すれば、旧地形の消息が格段に読み取りやすいことが分かる。

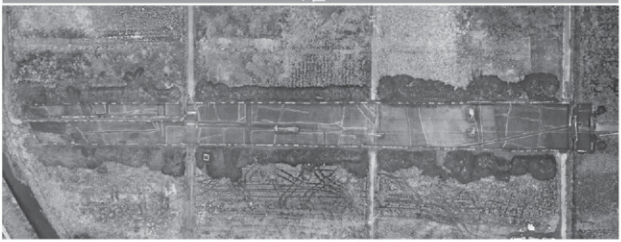
朝倉工業団地遺跡群の調査・検討は、本報告をもってその緒に就いたばかりといえる。複数時期にわたる水田地帯を成立せしめた水利体系､および設営時期が限定された集落の性格について､周辺区域の調査成果の蓄積によって明らかになっていくことが今後期待される。

主要参考文献

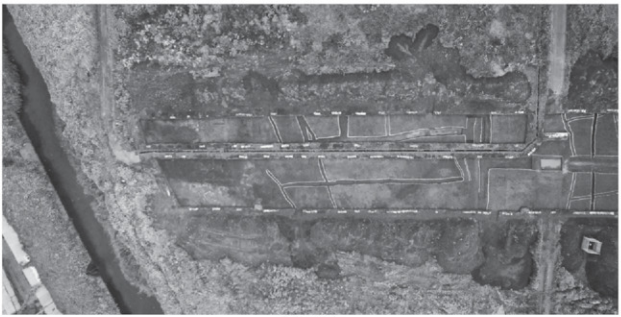
前橋市教委　2010a　『南部拠点地区遺跡群 No.４』
前橋市教委　2010b　『南部拠点地区遺跡群 No.５』
前橋市教委　2011　『南部拠点地区遺跡群 No.６』
前橋市埋文　1996　『西田遺跡』
前橋市埋文　1997　『宮地中田遺跡』
前橋市埋文　1997　『鶴光路練引遺跡』
前橋市埋文　1998　『東田遺跡』
前橋市埋文　1998　『上佐島中原前遺跡』
前橋市埋文　1998　『横手湯田Ⅱ遺跡･西田Ⅱ遺跡』
前橋市埋文　1998　『横手湯田Ⅳ遺跡』
前橋市埋文　1999　『西田Ⅲ遺跡』
前橋市埋文　1999　『西田Ⅳ遺跡』
前橋市埋文　2000　『鶴光路榎橋Ⅱ遺跡･徳丸高堰Ⅲ遺跡』
前橋市埋文　2000　『横手湯田Ⅵ遺跡』
前橋市埋文　2001　『徳丸高堰Ⅳ遺跡』
前橋市埋文　2001　『横手湯田Ⅴ遺跡･徳丸仲田Ⅳ遺跡』
前橋市埋文　2001　『亀里銭面遺跡』
前橋市埋文　2001　『亀里銭面Ⅱ遺跡』
前橋市埋文　2001　『村中Ⅱ遺跡･西田Ⅴ遺跡』
前橋市埋文　2004　『横手宮田Ⅱ遺跡』
前橋市埋文　2004　『上佐島中原前Ⅱ遺跡』
前橋市埋文　2005　『亀里油免Ⅱ遺跡』
前橋市埋文　2009　『南部拠点地区遺跡群 No.１』
前橋市埋文　2009　『南部拠点地区遺跡群 No.２』
前橋心埋文　2010　『南部拠点地区遺跡群 No.３』
群馬県教委　1982　『川曲遺跡･東公田古墳』
群馬県教委　1983　『須摩野遺跡･下佐島遺跡･宿河内城跡』
群馬県埋文　1997　『櫛島川端遺跡･公田東遺跡･公田池尻遺跡』
群馬県埋文　2001　『下阿内壱町畑遺跡　下阿内前田遺跡』
群馬県埋文　2001　『亀里平塚遺跡･横手宮田遺跡･横手早稲田遺跡･横手南川端遺跡』
群馬県埋文　2001　『宿横手三波川遺跡』
群馬県埋文　2001　『西横手遺跡群』
群馬県埋文　2002　『宿横手三波川遺跡　西横手遺跡群』
群馬県埋文　2002　『徳丸仲田遺跡』
群馬県埋文　2002　『鶴光路榎橋遺跡』
群馬県埋文　2002　『西田遺跡･村中遺跡』
群馬県埋文　2002　『横手南川端遺跡･横手湯田遺跡』
群馬県埋文　2005　『徳丸高堰遺跡』
前橋市史編さん委員会　1971　『前橋市史』第１巻
群馬県史編さん委員会　1990　『群馬県史通史編』第１巻
楢崎修一郎　2008　「群馬県内中世火葬遺構と火葬人骨」『群馬文化』第 294 号　群馬県地域文化研究協議会

※ 前橋市教委は前橋市教育委員会、前橋市埋文は前橋市埋蔵文化財発掘調査団、群馬県教委は群馬県教育委員会、群馬県埋文は財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の略称である。

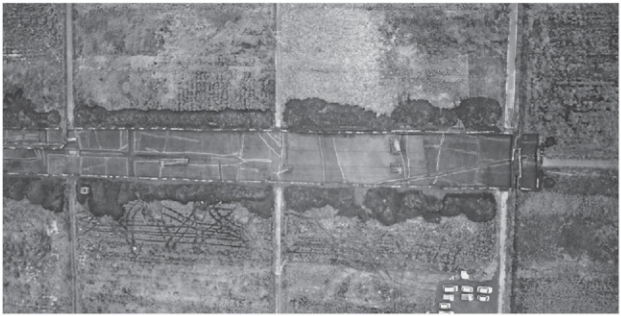
写　真　図　版



調査区全景



調査区西部



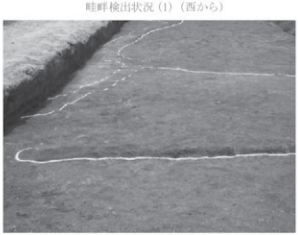
調査区東部

東部～中央部（北東から）

中央部（南西から）

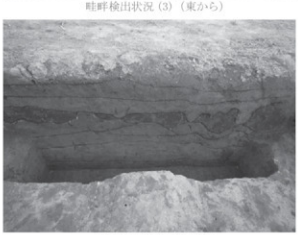
畦畔検出状況（1）（西から）

畦畔検出状況（2）（北から）

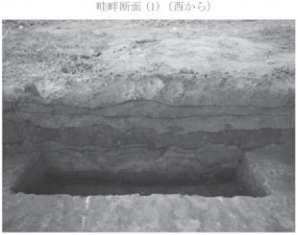


畦畔検出状況（3）（東から）

畦畔断面（1）（西から）



畦畔断面（2）（北から）



畦畔断面（3）（南から）

水田面（1）（東から）

水田面（2）（東から）

水田面（3）（東から）

Hr-FA・FP 泥流層下水田跡 検出状況（北東から）

W-1 号溝周辺（南西から）

W-1 号溝 セクション（西から）

W-2 号溝（北から）

W-2 号溝 セクション（南から）

W-3号溝 セクション（東から）

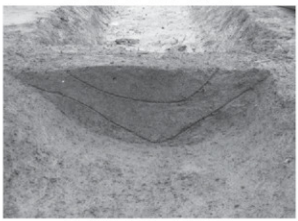
W-3号溝 工具痕検出状況 (1)（東から）

W-3号溝 工具痕検出状況 (2)（北西から）

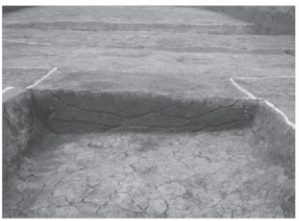
W-3号溝 工具痕断面（南から）

W-4号溝 セクション（北から）

W-5号溝 セクション（南から）



W-6号溝 セクション（西から）



W-8号溝 セクション（西から）

W-9 号溝 セクション（南から）

W-10 号溝 セクション（南から）

W-11 号溝 セクション（北から）

W-12 号溝 セクション（北から）

W-13 号溝（南から）

W-13 号溝 セクション（南から）

W-14 号溝 セクション（北から）

W-15 号溝 セクション（南から）

W-16 ～ 19 号溝（南東から）

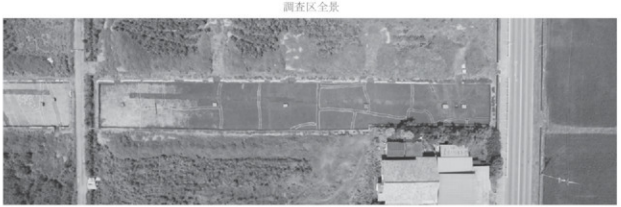
T-1 号竪穴状遺構（南から）

表土掘削状況（南から）

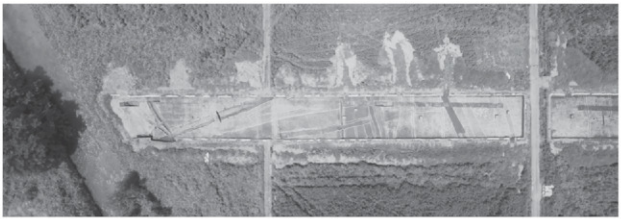
作業状況（南西から）

2区

調査区全景



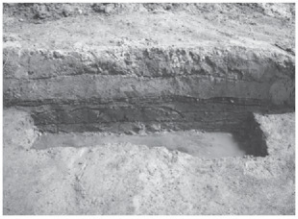
調査区東部



調査区西部

畦畔断面 (1)（北西から）

畦畔断面 (2)（北から）



畦畔断面 (3)（北から）

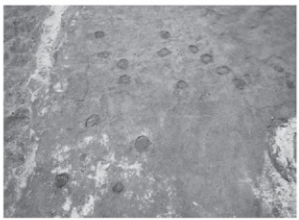
水田面 (1)（東から）

水田面 (2)（東から）

水田面 (3)（東から）

中央部 水田の足跡（1）（西から）

中央部 水田の足跡（2）（西から）


中央部 水田の株痕（北から）

中央部 水田の株痕拡大（北から）

西部 Hr-FA・FP 泥流層下水田跡 検出状況（1）（西から）

西部 Hr-FA・FP 泥流層下水田跡 検出状況（2）（西から）

西部 Hr-FA・FP 泥流層下水田跡 検出状況（3）（北西から）

西部 Hr-FA・FP 泥流層下水田跡 水田面拡大（南東から）

西部 As-C 混土層上水田跡検出状況（北西から）

西部 As-C 混土層上水田跡 畦畔断面（1）（北から）

西部 As-C 混土層上水田跡 畦畔断面（2）（北から）

西部 As-C 混土層上水田跡 畦畔断面（3）（北から）

西部 As-C 混土層上水田跡 畦畔断面（4）（北から）

西部 As-C 混土層上水田跡 畦畔断面（5）（北から）

中央部 壁面セクション（北から）

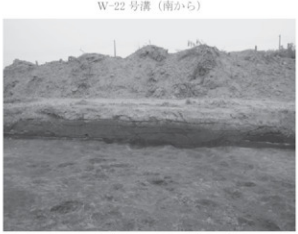
W-21 号溝（南から）

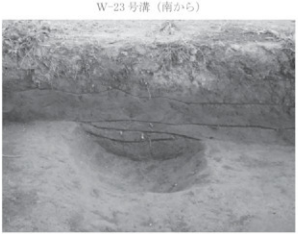
W-20 号溝（南から）

W-20 号溝 セクション（南から）

W-22 号溝（南から）

W-23 号溝（南から）


W-23 号溝 セクション（北から）


W-25 溝 セクション（北から）

W-26・27 号溝 セクション（北から）

W-28 号溝（北東から）

W-28 号溝 西側セクション（東から）

W-28 号溝 東側セクション（東から）

W-29 号溝 セクション（東から）

W-40 ～ 45 号溝 検出状況（北西から）

W-40・41 号溝 セクション（南から）

W-42 ～ 45 号溝 セクション（北西から）

W-42 号溝 セクション（北から）

W-45 号溝 セクション（北東から）

W-45 号溝 サブトレンチ（北から）

W-45 号溝 サブトレンチ拡大（北から）

T-2 号竪穴状遺構（南東から）

A-1 号道路跡（南西から）

3区

調査区全景

調査区中央部

調査区中央部 住居跡群（北西から）

H-1号住居跡（西から）

H-2号住居跡（西から）

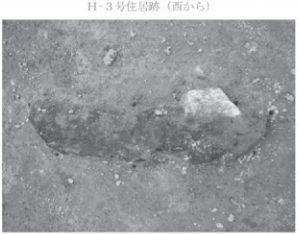
H-2号住居跡 カマド（西から）

H-2号住居跡 遺物出土状況（1）（南西から）

H-2号住居跡 遺物出土状況（2）（南西から）

H-3号住居跡（西から）

H-3号住居跡 カマド（西から）


H-3号住居跡 炭化物出土状況（南から）

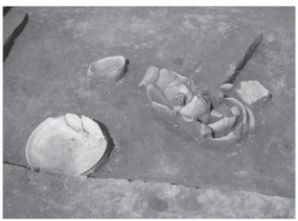
H-4号住居跡（西から）

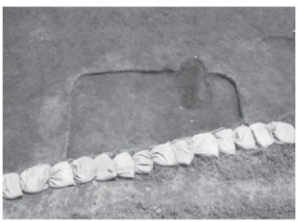
H-4号住居跡 カマド（西から）

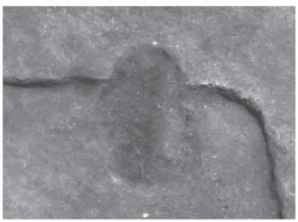
H-5号住居跡（西から）

H-6号住居跡（西から）

H-6号住居跡 掘り込み（北西から）


H-6号住居跡 遺物出土状況（南西から）


H-7号住居跡（西から）


H-7号住居跡 カマド（西から）

H-8号住居跡（西から）

H-8号住居跡 カマド（西から）

H-8号住居跡 遺物出土状況（1）（西から）

H-8号住居跡 遺物出土状況（2）（西から）

H-9号住居跡周辺（南から）

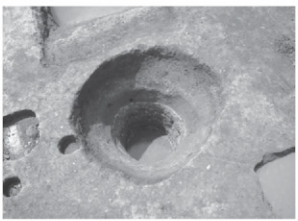
H-9号住居跡 カマド（西から）

H-9号住居跡 遺物出土状況（1）（北西から）

H-9号住居跡 遺物出土状況（2）（南西から）

H-11 号住居跡・D-17 号土坑（南西から）

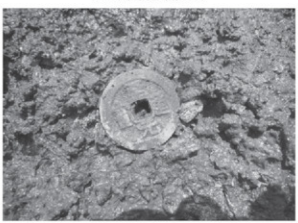
H-12・13 号住居跡（南から）



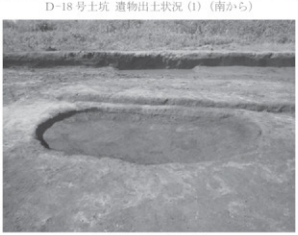
I-1 号井戸跡（北東から）

D-18 号土坑（南から）

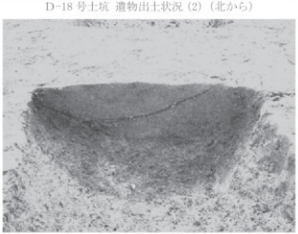
D-18 号土坑 遺物出土状況（1）（南から）



D-18 号土坑 遺物出土状況（2）（北から）



D-19 号土坑（南から）



W-35 号溝 セクション（東から）

W-33 号溝 Aトレセクション（北東から）

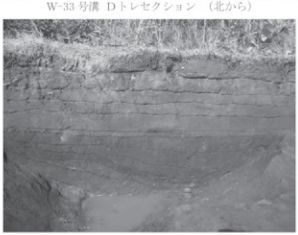
W-33 号溝 Bトレセクション（北西から）

W-33 号溝 Cトレセクション（北から）

W-33 号溝　遺物出土状況 (1)（南東から）

W-33 号溝 Dトレセクション（北から）

W-33 号溝　遺物出土状況 (2)（北から）


W-34 号溝 セクション（西から）

W-34 号溝 遺物出土状況（南西から）

W-36 号溝 Aトレセクション（西から）

W-36 号溝 Bトレセクション（東から）

W-36 号溝 Cトレセクション（東から）

W-36 号溝 Dトレセクション（東から）

W-39 号溝（北東から）

As-C 層上水田跡 検出状況（1）（西から）

As-C 層上水田跡 検出状況（2）（西から）

As-C 層上水田跡 検出状況（3）（南西から）

H-1号住居跡（3区）

H1住－1

H1住－2

H-2号住居跡（3区）

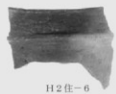
H2住－1

H2住－2

H2住－3

H2住－4

H2住－5



H2住－6

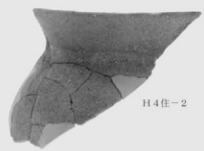
H2住－7

H-3号住居跡（3区）

H3住－1

H-4号住居跡（3区）

H4住－1



H4住－2

H-6号住居跡①（3区）

H6住－1

H6住－2

H6住－5

H6住－3

H6住－4

H-7号住居跡（3区）

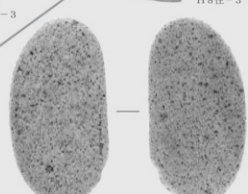
H7住－1

H-8号住居跡（3区）

H8住－1

H8住－2

H8住－3



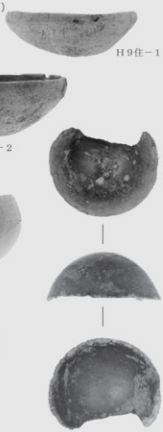
H8住－4

出土遺物（1）

H-6 号住居跡②（3 区）

H6 住－6

H-9 号住居跡（3 区）

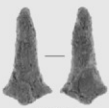


H9 住－1
H9 住－2
H9 住－3
H9 住－4
H9 住－5

H-11 号住居跡（3 区）

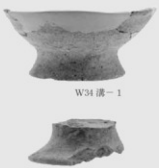
H11 住－1

W-28 号溝（2 区）



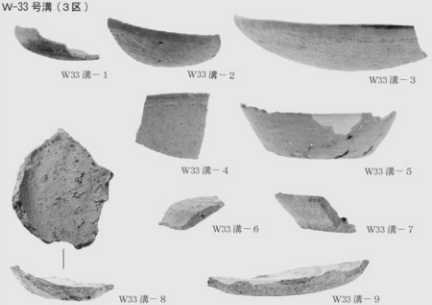
W28 溝－1

W-34 号溝（3 区）



W34 溝－1
W34 溝－2

W-33 号溝（3 区）



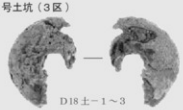
W33 溝－1
W33 溝－2
W33 溝－3
W33 溝－4
W33 溝－5
W33 溝－6
W33 溝－7
W33 溝－8
W33 溝－9

W-36 号溝（3 区）

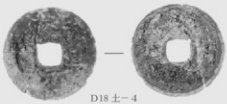
W36 溝－1

出土遺物 (2)

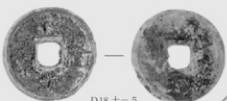
D-18 号土坑（3 区）



D18 土－1～3



D18 土－4



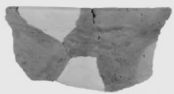
D18 土－5

D-19 号土坑（3 区）

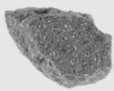
D19 土－1

I－1 号井戸（3 区）

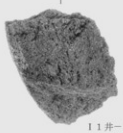
I 1 井－1



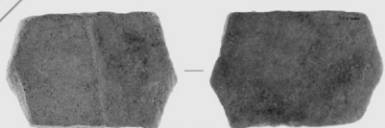
I 1 井－2



I 1 井－4



I 1 井－3

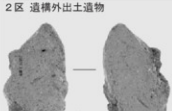


I 1 井－5

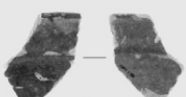
A－1 号道路状遺構（2 区）

A 1 道－1

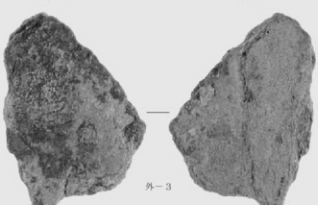
2 区 遺構外出土遺物



外－1

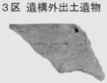


外－2



外－3

3 区 遺構外出土遺物



外－1

外－2

外－3

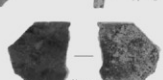
外－4

外－5

外－6

外－7

外－8



外－9

出土遺物（3）

抄　録

ふりがな	あさくらこうぎょうだんちいせきぐん
書　名	朝倉工業団地遺跡群
副書名	朝倉工業団地土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　次	
シリーズ名	
編著者名	福田貫之　和久拓照
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒379－2146　群馬県前橋市公田町1002番地1　TEL 027－265－1804
発行機関	前橋市教育委員会 〒371－0018　群馬県前橋市三俣町2－10－2　TEL 027－231－9531
発行年月日	西暦2011（平成24）年2月15日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 （世界測地系）	東経 （世界測地系）	調査期間	調査面積 （㎡）	調査原因
あさくらこうぎょうだんち 朝倉工業団地 いせきぐん 遺跡群	ぐんまけんまえばししもふかいとまち 群馬県前橋市下 さだまちはか 佐鳥町20ほか	10201	23674	36° 34′ 99″	139° 09′ 16″	20110525 ～ 20110819	6,365	朝倉工業団地土地区画整理事業

＊上記の北緯36°34′99″・東経139°09′16″は、1～3区のおおむね中心となる箇所を示す。各調査区は、北緯36°34′84″～36°35′10″、東経139°09′01″～139°09′36″の範囲内に相当する。地番は、以下のとおり。〔1区〕前橋市下佐鳥町20、20-1、33-1、33-2、34-1、46-1、193-1、207-2、510-2、515、516、582、584、587　〔2区〕前橋市下佐鳥町198、201、213-1、512-2、513-3　〔3区〕前橋市亀里町1085-1、1096-1、1087-1。

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝倉工業団地遺跡群	生　産	古墳時代	As-C混上層上水田35区画 Br-FA・FP泥流層下水田24区画	＊1～3、5 土師器、 須恵器	＊4 三環鈴は、H－9号住居跡のカマドの煙跡付近より、鈴部のみ出土。
		古墳時代～平安時代	溝13条		
		平安時代	As-B層下水田50区画		
		平安時代末以降	溝15条	＊4	
		中世以降	溝10条	土師器、 須恵器盤・ 高盤、三環 鈴、薦編石	
		近世以降	溝4条		
	集　落	古墳時代	竪穴住居跡1軒 ＊1 竪穴状遺構1基 ＊2		＊7 被熱により破砕した骨片が顕著に残存、西日本に多い「部分拾骨」の結果残された遺構とみられる。
		奈良時代	溝1条 ＊3 竪穴住居跡7軒 ＊4	＊6 陶器火皿、軟質陶器鉢、 石臼	
		平安時代	竪穴住居跡3軒 ＊5		
		奈良・平安時代	土坑1基 ピット3基		
		平安時代末以降	竪穴状遺構1基 土坑3基 ピット14基	＊7 古銭	＊8 溝の南側、ひいては3区南側と西側が、居館の内区に相当する可能性がある。
		中　世	井戸1基 ＊6 火葬土坑1基 ＊7	＊8 陶器碗、内耳鍋、塔婆、板碑	
		中世以降	土坑12基 ピット4基		
		近世以降	道路状遺構1条		
		時期不明	竪穴住居跡2軒 ピット2基	遺物全体でテンパコ8箱分	
	居館跡	中　世	溝1条 ＊8		

朝倉工業団地遺跡群

朝倉工業団地土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成24年2月1日 印刷
平成24年2月15日 発行

編　集／有限会社毛野考古学研究所
発　行／前橋市教育委員会
前橋市三俣町二丁目10-2
TEL 027-231-9531
印　刷／朝日印刷工業株式会社